

**IBM Content
Manager for Multiplatforms/IBM
Information
Integrator for Content**



eClient のインストール、構成と管理

バージョン 8 リリース 2

**IBM Content
Manager for Multiplatforms/IBM
Information
Integrator for Content**



eClient のインストール、構成と管理

バージョン 8 リリース 2

目次

第 1 章 概説	1	第 5 章 eClient の開始および停止 . . .	101
サード・パーティー・アプリケーション統合の概要	2	eClient の開始	101
PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の概説	2	WebSphere 4 での eClient の開始	101
Siebel Integration for IBM Content Manager の概説	3	WebSphere 5 での eClient の開始	101
文書化規則	4	eClient の停止	102
		WebSphere4 での eClient の停止	102
		WebSphere 5 での eClient の停止	102
第 2 章 要件	5	第 6 章 eClient アプリケーションのカスタマイズ	105
eClient の要件	5	eClient JavaServer Page (JSP)	105
ハードウェア要件	5	eClient グラフィックスのカスタマイズ	109
ソフトウェア要件	6	eClient ヘルプのカスタマイズ	111
ネットワーク要件	7	ビューアー・アプレットのカスタマイズ	111
スキル要件	7		
収集する情報	8	第 7 章 eClient アプリケーションの管理	113
サード・パーティー・アプリケーション統合の要件	10	構成パラメーターの設定および変更	113
PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の要件	10	キャッシュ・ディレクトリーの設定	113
Siebel Integration for IBM Content Manager の要件	12	1 ページに表示する検索結果の最大数の設定	113
		コンテンツ・サーバーから戻される検索結果の最大数の設定	113
第 3 章 インストール	15	インポート可能な最大ファイル・サイズの設定	114
eClient のインストール	15	プロパティ・デーモンの設定	114
Windows アプリケーション・サーバーへの eClient のインストール	15	EIP INI ファイルの設定	114
AIX または Solaris サーバーへの eClient のインストール	16	接続タイプの設定	114
サード・パーティー・アプリケーション統合のインストール	17	Content Manager バージョン 8 コネクターの設定	115
PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のインストール	17	コンテンツ・ファイルの起動	115
Siebel Integration for IBM Content Manager のインストール	18	E メールのプロパティの設定	115
		EIP 拡張ワークフローの使用可能化	115
第 4 章 構成	21	サービス接続タイプの設定	116
eClient の構成	21	ビューアー・アプレットの使用可能化	116
IBM WebSphere 5 Java 2 Security を使用するための eClient の構成	21	統合フォルダーの使用可能化	116
WebSphere Application Server による eClient の構成	21	eClient によるコンテンツ・タイプの処理方法	117
IBM WebSphere 4 接続プールを eClient で使用するための構成	26	コンテンツ・タイプ	117
IBM WebSphere 5 接続プールを eClient で使用するための構成	30	カスタマイズしたクライアントのパラメーターの構成	118
eClient の言語の選択	31	サーバー接続の定義	119
eClient インストールおよび構成の検証	32	OnDemand サーバー接続の定義	120
サード・パーティー・アプリケーション統合の構成	34	ImagePlus for OS/390 サーバー接続	120
PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の構成	35	第 8 章 トラブルシューティング . . .	123
Siebel Integration for IBM Content Manager の構成	62	eClient のトラブルシューティング	123
		トラブルシューティングのシナリオ	123
		構成の問題	131
		トレース情報	132
		その他のヒント	133
		ヒント 1: 注釈の更新	133
		ヒント 2: 正しい状態での WebSphere の設定	133

ヒント 3: DB2 バージョン 8 のサポート . . .	133	サード・パーティー・ビジネス・アプリケーション	
サード・パーティー・アプリケーション統合のトラ		および統合	147
ブルシューティング	133	PeopleSoft Integration for IBM Content Manager	
PeopleSoft Integration for IBM Content Manager		の追加情報の入手	147
のトラブルシューティング	134	Siebel Integration for IBM Content Manager の追	
Siebel Integration for IBM Content Manager のト		加情報の入手	149
ラブルシューティング	139		
第 9 章 除去	145	第 11 章 プロパティ・ファイルの例	151
eClient の除去	145	IDMDdefault.properties ファイルの例	151
サード・パーティー・アプリケーション統合の除去	146	Siebel Integration で使用される IP ファイルの例	160
PeopleSoft Integration for IBM Content Manager		第 12 章 アクセス支援情報	163
の除去	146	索引	165
Siebel Integration for IBM Content Manager の除		特記事項	173
去	146	商標	175
第 10 章 追加情報の入手	147		
eClient	147		

第 1 章 概説

IBM® Content Manager eClient は、ユーザーがコンテンツ・サーバーから文書を検索できるようにする Web アプリケーションです。eClient でアクセスできるコンテンツ・サーバーには、以下が含まれます。

- IBM Content Manager for Multiplatforms
- IBM Content Manager OnDemand
- IBM Content Manager ImagePlus® for OS/390®
- 上記以外のコンテンツ・サーバー

eClient を使用すると、Enterprise Information Portal (EIP) に接続して、さまざまなデータ・ソースで同時に検索できます。また、eClient によって、直接コンテンツ・サーバーに接続することもできます。eClient では、Enterprise Information Portal バージョン 8.2 のワークフローおよび Content Manager バージョン 8.2 の文書ルーティングがサポートされます。

eClient Web アプリケーションは、WebSphere® Application Server で実行される JavaServer Pages (JSP)、サーブレット、およびビューアー・アプレットで構成されています。eClient は各組織の要件に合わせてカスタマイズできます。

本書は、基本的に WebSphere Application Server を使用し、Java™2 Platform、Enterprise Edition (J2EE) アプリケーション・サーバーの知識を有し、さらに Enterprise Information Portal についてよく理解している Web 管理者を対象としています。

推奨事項: 先に進む前に、5 ページの『第 2 章 要件』をよく読んでください。

関連リファレンス:

- 147 ページの『第 10 章 追加情報の入手』
- 5 ページの『ハードウェア要件』
- 8 ページの『収集する情報』
- 7 ページの『ネットワーク要件』
- 7 ページの『スキル要件』
- 6 ページの『ソフトウェア要件』

関連した作業:

- 15 ページの『第 3 章 インストール』
- 21 ページの『第 4 章 構成』
- 101 ページの『第 5 章 eClient の開始および停止』
- 113 ページの『第 7 章 eClient アプリケーションの管理』
- 105 ページの『第 6 章 eClient アプリケーションのカスタマイズ』
- 123 ページの『第 8 章 トラブルシューティング』
- 145 ページの『第 9 章 除去』

サード・パーティー・アプリケーション統合の概要

IBM Content Manager eClient バージョン 8.2 は、次のサード・パーティー・ビジネス・アプリケーションと統合できます。

- PeopleSoft Enterprise Portal バージョン 8.40
- Siebel 7.0.4 および 7.5.2

この統合が実現したことにより、これらのサード・パーティー・ビジネス・アプリケーションのエンド・ユーザーが、さまざまなコンテンツ・サーバーから文書にアクセスできるようになりました。

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の概説

PeopleSoft のユーザーには、PeopleSoft ポータルから Content Manager のデータにアクセスしたり、管理する方法が必要です。PeopleSoft Integration for IBM Content Manager によって、PeopleSoft のユーザーは、1 つの製品から他の製品に移動することができます。たとえば、ユーザーは、それらの製品を 2 つのログイン・プロセスを通して別々に扱う必要はありません。

PeopleSoft を IBM Content Manager システムで使用していて、PeopleSoft Enterprise Portal バージョン 8.40 から Content Manager バージョン 8.2 にシームレスに接続したい場合、以下をインストールしている必要があります。

- Content Manager バージョン 8.2
- Enterprise Information Portal バージョン 8.2
- eClient 8.2
- PeopleSoft Enterprise Portal 8.40
- PeopleTools 8.40.09

推奨事項: 先に進む前に、これらの製品の要件を検討してください。

関連リファレンス:

- 147 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』
- 10 ページの『ハードウェア要件』
- 11 ページの『ネットワーク要件』
- 11 ページの『スキル要件』
- 10 ページの『ソフトウェア要件』

関連した作業:

- 17 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のインストール』
- 35 ページの『PeopleSoft と eClient を一緒に稼働させるための構成』
- 134 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のトラブルシューティング』
- 146 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の除去』

Siebel Integration for IBM Content Manager の概説

Siebel Integration for IBM Content Manager では、製品の IBM Content Manager ポートフォリオの機能を、Siebel eBusiness アプリケーションに組み込みます。この組み込みは、IBM Enterprise Information Portal (EIP)、および IBM Content Manager eClient を使用することによって実行されます。

Siebel Integration for IBM Content Manager を使用すると、Siebel エンド・ユーザーは次のことができます。

- Siebel エンティティ (サービス・リクエストなど) に関連した文書を検索する。文書は、以下の製品のいずれかが管理するコンテンツ・サーバーに保管されている場合があります。
 - Content Manager バージョン 7.1
 - Content Manager バージョン 8.1
 - Content Manager バージョン 8.2
 - Content Manager OnDemand for Multiplatforms バージョン 7.1
 - Content Manager OnDemand for OS/390 バージョン 2.1、バージョン 7.1
 - Content Manager OnDemand for iSeries™ バージョン 4.5、バージョン 5.1
 - Content Manager ImagePlus for OS/390 バージョン 3.1
- eClient ビューアーを使用して、個々の文書を表示する。
- 文書閲覧中に、文書に以前入れておいた注釈の表示をオン/オフにする。ズームイン/ズームアウト、および現行ページの回転を行う。また、システムが印刷機能を有効にしている場合は、文書を印刷する。

Siebel Integration for IBM Content Manager は、Windows®、AIX®, および Sun Solaris 稼働環境 (以降、Solaris と呼ぶ) で使用できます。

推奨事項: 先に進む前に、これらの製品の要件を検討してください。

関連リファレンス

- 149 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』
- 62 ページの『eClient を実行するための WebSphere Application Server の構成』
- 13 ページの『ネットワーク要件』
- 14 ページの『スキル要件』
- 12 ページの『ソフトウェア要件』

関連した作業:

- 18 ページの『Windows、AIX、または Solaris への Siebel Integration for IBM Content Manager のインストール』
- 62 ページの『eClient を実行するための WebSphere Application Server の構成』
- 139 ページの『トラブルシューティングのシナリオ』

文書化規則

Windowsベースのオペレーティング・システムでは、ディレクトリー・パスのディレクトリーの区分に円記号 (¥) が使用されています。AIX を含む UNIX® ベースの押しでは、スラッシュ (/) が使用されています。本書では、円記号 (¥) がディレクトリー・パスのディレクトリーの区分として使用され、これがすべてのオペレーティング・システムに適用されます。オペレーティング・システムによっては、本書で示されたディレクトリー・パスとは異なるディレクトリー・パスの入力が必要になることがあります。

第 2 章 要件

この節では eClient およびサード・パーティー・ビジネス・アプリケーション統合に関する、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、スキル、および情報の要件を紹介します。

関連リファレンス:

『eClient の要件』

10 ページの『サード・パーティー・アプリケーション統合の要件』

eClient の要件

この節では eClient のインストール、構成、および管理に必要なハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、およびスキルについて説明します。また、eClient のインストール前にコンテンツ・サーバーごとに収集する必要がある情報も紹介します。

関連リファレンス:

『ハードウェア要件』

6 ページの『ソフトウェア要件』

7 ページの『ネットワーク要件』

7 ページの『スキル要件』

8 ページの『収集する情報』

ハードウェア要件

サーバー

IBM WebSphere Application Server の要件に準じます。eClient の場合は、25 MB の追加ディスク・スペースが必要です。

クライアント

フレームおよび JavaScript™ をサポートするブラウザー (たとえば、Netscape Navigator 4.76 または Microsoft® Internet Explorer 5.5 Service Pack 2 以降) に対応するハードウェアが必要です。

関連リファレンス:

147 ページの『第 10 章 追加情報の入手』

6 ページの『ソフトウェア要件』

ソフトウェア要件

表 1. eClient の最小ソフトウェア要件

システム	ソフトウェア要件
アプリケーション・サーバーおよび Web サーバー	<ul style="list-style-type: none">以下の IBM WebSphere Application Server 製品のいずれか 1 つ:<ul style="list-style-type: none">IBM WebSphere Application Server 4.0.5 AEIBM WebSphere Application Server 4.0.5 AESIBM WebSphere Application Server 5IBM WebSphere Application Server Network Deployment 5Web サーバー (IBMHTTP Server は WebSphere Application Server に組み込まれています)
IBM Enterprise Information Portal	IBM Enterprise Information Portal バージョン 8.2 とその最小ソフトウェア要件 ヒント: VisualInfo for AS/400 コネクターをインストールしたい場合は、そのコネクターのバージョン 4.3 かバージョン 5.1 を選択してください。
エンド・ユーザー・クライアント	フレームおよび JavaScript をサポートするブラウザ (Netscape Navigator 4.76 以降または Microsoft Internet Explorer 5.5 Service Pack 2 以降)。これ以外のブラウザでもサポートされる場合があります。 Java Run-time Environment 1.4.1

ブラウザに関する制限:

- eClient では Netscape Navigator 6.x または 7.x のブラウザはサポートされません。
- 複数の Netscape ブラウザーを使用して eClient に同時にアクセスすると、予測不能の結果を招くおそれがあります。
- Netscape ブラウザーを最新表示しないと、eClient のインストール文書が正しく表示されない場合があります。

Java 2 Runtime Environment (JRE) に関するヒント:

- Web サイト <http://java.sun.com/j2se/1.4> から JRE をダウンロードするときは、「Windows (all languages, including English)」バージョンをダウンロードしてください。「Windows (U.S. English only)」バージョンをダウンロードして、Windows 2000 で OS の地域言語を他の言語に設定すると、ビューアー・アプレットを使用して項目を表示しようとしたときに、開いているウィンドウがすべてブラウザによって閉じられます。この場合、ブラウザからエラー・メッセージは戻されません。

WebSphere に関するヒント:

- WebSphere Administrative Console GUI for AE の場合、いずれかの環境または JVM 設定を更新し、「適用 (Apply)」をクリックした後に、eClient のインストール時に設定された環境設定が、この変更後も復元されているか確認してください。
- WebSphere Application Server Advanced Single Server Edition (AES) を使用していて、同じマシン上にリソース・マネージャーと eClient をインストールすると、どちらのアプリケーションでも、共通して生成された XML ファイル、IDM_ICM.xml が使用されます。このファイルは、WebSphere AES が提供したデフォルトの XML ファイル、server-cfg.xml とは異なります。1 台のサーバー・ノード上で eClient およびリソース・マネージャーと一緒にカスタム・アプリケーションを使用する場合、このアプリケーションを IDM_ICM.xml ファイルに配置する必要があります。ICM_Server を開始または停止するには、CMeClient の保管ディレクトリーにあるスクリプトを使用します。

関連リファレンス:

147 ページの『第 10 章 追加情報の入手』

5 ページの『ハードウェア要件』

ネットワーク要件

サーバーでは TCP/IP を使用する必要があります。通常、オペレーティング・システムによって必要な TCP/IP ソフトウェアが自動的にインストールされます。システムに TCP/IP がない場合は、ソフトウェアのインストール方法に関するオペレーティング・システムの情報を参照してください。

関連リファレンス:

6 ページの『ソフトウェア要件』

8 ページの『収集する情報』

スキル要件

本書は、読者が以下の製品のインストールおよび構成の方法を理解していることを前提にしています。

- Content Manager ポートフォリオ製品
- Enterprise Information Portal バージョン 8.2
- データベース (主に IBM DB2 Universal Database)

以下のインストールおよび管理の方法を理解していることも必要です。

- WebSphere Application Server
- WebSphere Application Server 上の Web アプリケーション

関連リファレンス:

『ネットワーク要件』

8 ページの『収集する情報』

収集する情報

eClient をインストールする前に、接続先のコンテンツ・サーバーに基づいて次の情報を収集してください。

表 2. 収集する情報

情報を収集する対象	指定する情報
Content Manager バージョン 8 サーバー	<ul style="list-style-type: none">サーバーのタイプcmbicmsvrs.ini ファイルを検索できるディレクトリーの場所 <p>注: cmbicmsvrs.ini には Content Manager バージョン 8 のサーバー名が含まれています。</p>
Content Manager OnDemand サーバー	<ul style="list-style-type: none">ホスト名ポート番号別名

表 2. 収集する情報 (続き)

情報を収集する対象	指定する情報
ImagePlus for OS/390 サーバー	<p>別名 サーバーの代替名。ユーザーが表示するサーバー・リストに示される名前です。ユーザーにわかりやすい名前を使用してください。別名にはブランクや特殊文字を含められませんが、コロンは使用できません。</p> <p>アプリケーション ID Folder Application Facility の ID。</p> <p>FAF IP アドレス Folder Application Facility の IP アドレス。</p> <p>FAF ポート Folder Application Facility の TCP/IP ポート。</p> <p>FAF プロトコル Folder Application Facility ホストの通信プロトコル。</p> <p>FAF シンボリック ID Folder Application Facility の関連文書を所有し、カタログする、このデータ・ストアの 4 文字の ID。このパラメーターは、注釈をロック、追加、更新、または削除する場合、およびフォルダーと文書をロックする場合に必要です。</p> <p>ODM IP アドレス オブジェクト配布マネージャーの IP アドレス。</p> <p>ODM ポート オブジェクト配布マネージャーのポート番号。</p> <p>ODM 端末 ID オブジェクト配布マネージャーの端末 ID。このパラメーターを指定しないと、ユーザー ID が使用されます。</p> <p>ODM コレクション・クラス すべての書式オーバーレイが保管されているコレクション・クラス。このパラメーターを指定しないと、最後の文書が検索されたコレクション・クラスで書式が検索されます。</p> <p>ODM プロトコル オブジェクト配布マネージャー・ホストの通信プロトコル。</p> <p>ODM 保管場所コントロール 文書の保管場所コントロール。このパラメーターは、DASD のみから文書を検索する場合は DASD に、DASD または OPTICAL のみから検索する場合は OPTICAL に、DASD、OPTICAL、または SHELF から検索する場合は SHELF に設定します。</p>
Content Manager バージョン 8 サーバー以前	frnolint.tbl ファイルにサーバーが正しくリストされているか検証します。

関連リファレンス:

7 ページの『スキル要件』

サード・パーティー・アプリケーション統合の要件

この節ではサード・パーティー・アプリケーション統合のインストールおよび構成に必要な、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、およびスキルについて説明します。

関連リファレンス:

『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の要件』

12 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の要件』

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の要件

この節では、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、およびスキルに関する要件を示します。

ハードウェア要件

この製品は、Content Manager eClient と一緒にインストールされます。Content Manager eClient の要件を満たしている場合は、この製品のハードウェア要件を満たすことになります。ハードウェア要件を満たすことに関して問題がある場合は、Content Manager および PeopleSoft の資料を参照するか、www.ibm.com/support/us/にある Content Manager 技術サポートの Web サイト、および PeopleSoft の技術サポートの Web サイト www.peoplesoft.com/corp/en/support/index.asp を参照することができます。

関連リファレンス:

147 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』

『ソフトウェア要件』

ソフトウェア要件

Integration with the Content Manager 製品では、最小限のソフトウェアがインストールされている必要があります。表 3 は、PeopleSoft アソシエーション (ルーズ・アソシエーションおよび最適化アソシエーションの両方) を eClient と共にインプリメントするために必要な製品、オペレーティング・システム、およびブラウザのリストです。

表 3. IBM Content Manager eClient と共に PeopleSoft アソシエーションをインプリメントするための最小限ソフトウェア要件

システム	最小限のソフトウェア要件
IBM Content Manager 製品	以下のすべての製品: <ul style="list-style-type: none">• IBM Content Manager バージョン 8.2• IBM Enterprise Information Portal バージョン 8.2• IBM Content Manager eClient バージョン 8.2

表 3. IBM Content Manager eClient と共に PeopleSoft アソシエーションをインプリメントするための最小限ソフトウェア要件 (続き)

システム	最小限のソフトウェア要件
IBM Content Manager eClient オペレーティング・システムおよびブラウザ	<p>以下のいずれかのオペレーティング・システムおよびブラウザの組み合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下を実行している Windows 98、Windows 2000、および Windows NT: <ul style="list-style-type: none"> Microsoft Internet Explorer 5.5 Microsoft Internet Explorer 6.0 Netscape Navigator 4.7x Netscape Navigator 6.2x 以下を実行している Windows XP: <ul style="list-style-type: none"> Microsoft Internet Explorer 6.0 Netscape Navigator 6.2x Netscape Navigator 4.7 を実行している AIX Microsoft Internet Explorer 5.0 を実行している Macintosh
PeopleSoft システム	<ul style="list-style-type: none"> PeopleSoft Enterprise Portal 8.4 以降 PeopleTools 8.40.09 <p>その他のハードウェア要件およびソフトウェア要件については、『PeopleTools 8.4 Hardware and Software Requirements』を参照してください。技術サポートは、次のアドレス www.peoplesoft.com/corp/en/support/index.asp で取得できます。</p>

関連リファレンス:

10 ページの『ハードウェア要件』

147 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』

ネットワーク要件

サーバーでは TCP/IP を使用する必要があります。通常、オペレーティング・システムによって必要な TCP/IP ソフトウェアが自動的にインストールされます。システムに TCP/IP がない場合は、ソフトウェアのインストール方法に関するオペレーティング・システムの情報を参照してください。

関連リファレンス:

10 ページの『ハードウェア要件』

10 ページの『ソフトウェア要件』

スキル要件

本書は、読者が以下の製品の構成方法を理解していることを前提にしています。

- データベース (主に DB2 Universal Database)
- Content Manager バージョン 8.2
- Enterprise Information Portal バージョン 8.2

- Content Manager eClient バージョン 8.2
- PeopleTools 8.40.09 または PeopleTools 8.41.07 と組み合わされた PeopleSoft Enterprise Portal バージョン 8.4 (またはそれ以降)

以下のインストールおよび管理の方法を理解していることも必要です。

- アプリケーション・サーバー
- アプリケーション・サーバー上の Web アプリケーション

読者は、iScript pagelet の開発および PeopleSoft ポータルの構成に熟知している必要があります。

Siebel Integration for IBM Content Manager の要件

この節では、Siebel Integration for IBM Content Manager のハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、およびスキルに関する要件を示します。

ハードウェア要件

ハードウェア要件は、WebSphere、Content Manager、および Siebel の資料にリストされています。この製品は、Content Manager eClient と一緒にインストールされます。Content Manager eClient の要件を満たしている場合は、この製品のハードウェア要件を満たすことになります。ハードウェア要件を満たすことに関して問題がある場合は、Content Manager および Siebel の資料を参照するか、<http://www.ibm.com/support/us/> にある Content Manager 技術サポートの Web サイト、および Siebel の技術サポートの Web サイト <http://ebusiness.siebel.com/supportweb> を参照することができます。

関連リファレンス:

- 149 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』
- 『ソフトウェア要件』

ソフトウェア要件

表 4 は、Siebel Integration for IBM Content Manager の最小限のソフトウェア要件のリストです。

表 4. 最小限のソフトウェア要件

システム	ソフトウェア要件
IBM Content Manager コンテンツ・サーバー	<p>以下のいずれかの Content Manager サーバーをインストールするための最小限のソフトウェア要件:</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM Content Manager for Multiplatforms バージョン 7.1 • IBM Content Manager for Multiplatforms バージョン 8.1 • IBM Content Manager for Multiplatforms バージョン 8.2 • IBM Content Manager OnDemand for Multiplatforms バージョン 7.1 • IBM Content Manager OnDemand for OS/390 バージョン 2.1 • IBM Content Manager OnDemand for OS/390 バージョン 7.1 • IBM Content Manager OnDemand for iSeries バージョン 4.5 • IBM Content Manager OnDemand for iSeries バージョン 5.1 • IBM Content Manager ImagePlus for OS/390 バージョン 3.1

表 4. 最小限のソフトウェア要件 (続き)

システム	ソフトウェア要件
IBM Enterprise Information Portal	IBM Enterprise Information Portal バージョン 8.2 IBM Content Manager eClient バージョン 8.2
エンド・ユーザー・クライアント	<p>Siebel 7.0.4 には以下のいずれかのオペレーティング・システムを使用 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows 95 OSR2 • Windows 98 SE • Windows NT[®] Workstation 4.0 (Service Pack 6a) • Windows 2000 (Service Pack 2) • Windows XP Professional <p>Siebel 7.5.2 には以下のいずれかのオペレーティング・システムを使用 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows NT Workstation 4.0 (Service Pack 6a) • Windows 2000 Professional (Service Pack 2) • Windows XP Professional <p>以下のいずれかのブラウザー:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5.5 (Service Pack 2 以降) • Microsoft Internet Explorer 6.0 <p>制限:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 6.0 は Microsoft Windows XP Professional で使用する必要があります。 • Microsoft Internet Explorer 5.5 は Microsoft Windows 95 で使用する必要があります。
Siebel システム	<p>Siebel 7.0.4 については、http://ebusiness.siebel.com/supportweb にある「<i>Siebel System Requirements and Supported Platforms, Siebel 7, Version 7.0.4</i>」でソフトウェア要件に関する情報を参照してください。</p> <p>Siebel 7.5.2 については、http://ebusiness.siebel.com/supportweb にある「<i>Siebel System Requirements and Supported Platforms, Siebel 7, Version 7.5.2</i>」でソフトウェア要件に関する情報を参照してください。</p>

関連リファレンス

- 149 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』
- 12 ページの『ハードウェア要件』

ネットワーク要件

サーバーでは TCP/IP を使用する必要があります。通常、オペレーティング・システムによって必要な TCP/IP ソフトウェアが自動的にインストールされます。システムに TCP/IP がない場合は、ソフトウェアのインストール方法に関するオペレーティング・システムの情報を参照してください。

関連リファレンス:

- 12 ページの『ハードウェア要件』
- 12 ページの『ソフトウェア要件』

スキル要件

本書は、読者が以下の製品のインストールおよび構成の方法を理解していることを前提にしています。

- Content Manager ポートフォリオ製品
- Enterprise Information Portal バージョン 8.2
- Content Manager eClient バージョン 8.2
- Siebel 7.0.4 または Siebel 7.5.2
- データベース (主に IBM DB2 Universal Database™)

以下のインストールおよび管理の方法を理解していることも必要です。

- WebSphere Application Server
- WebSphere Application Server 上の Web アプリケーション

第 3 章 インストール

この節では eClient およびサード・パーティー・アプリケーション統合をインストールする方法について説明します。

関連した作業:

『eClient のインストール』

17 ページの『サード・パーティー・アプリケーション統合のインストール』

eClient のインストール

この節では、Windows、AIX、および Solaris に eClient をインストールする手順を説明します。

注: eClient を再インストールする場合、必ず削除してから再インストールを行ってください。

関連した作業:

21 ページの『第 4 章 構成』

21 ページの『WebSphere Application Server による eClient の構成』

Windows アプリケーション・サーバーへの eClient のインストール

前提条件:

1. WebSphere Application Server (WAS) AES を使用している場合、WAS ですでに実行中のサーバーをすべて停止してください。たとえば、デフォルト・サーバーを実行しているときは、WebSphere の /bin サブディレクトリーにある stopServer.bat を実行します。停止しないときは、IBM HTTP サーバーを再始動します。そうしないと、eClient Web アプリケーションを正しくインストールできません。
2. WebSphere Application Server AE を使用している場合は、WebSphere Application Server 管理サーバー (AE) が実行されていることを確認してから、eClient のインストールを開始してください。
3. WebSphere Application Server 5 を使用している場合は、アプリケーション・サーバー server 1 を開始する必要があります。server 1 を開始するには、「スタート」→「プログラム」→「IBM WebSphere」→「アプリケーション・サーバー v5.0 (Application Server v5.0)」→「サーバーの開始 (Start the Server)」と選択します。

手順:

eClient を Windows アプリケーション・サーバーにインストールするには、以下のステップを実行してください。

1. eClient CD を CD ドライブに挿入する。ランチパッドが自動的に開始します。
ランチパッドが自動的に開始しないときは、ランチパッドのディレクトリーから `launchpad.bat` を実行します。
2. ランチパッドで、「インストール (Install)」をクリックして eClient インストール・プログラムを開始します。
3. インストール・ウィンドウの指示に従う。eClient のデフォルト・ディレクトリーは `C:\Program Files\IBM\CMClient` です。Content Manager バージョン 8 に接続している場合、データ・サーバー・リスト・ファイルのデフォルトのローカル・ファイル場所は以下になります。
`C:\Program Files\IBM\CMgmt\cmbicmsrvs.ini`
4. eClient ファイルのインストール後に、インストール・プログラムが WebSphere の有無をチェックする。インストール・プログラムが WebSphere を検出したら、eClient 用の Web アプリケーションの自動構成を続行できます。
WebSphere によるアプリケーションの自動構成を行わずに終了することもできます。ここで終了すると、インストール・プログラムが終了するため、eClient を手動で Web アプリケーション・サーバーに配置する必要があります。
5. **オプション:** 自動構成を実行しない場合は、eClient を Web アプリケーションとしてセットアップおよび構成します。

関連した作業:

- 21 ページの『第 4 章 構成』
- 21 ページの『WebSphere Application Server による eClient の構成』

AIX または Solaris サーバーへの eClient のインストール

前提条件:

WebSphere Application Server (WAS) AES を使用している場合、WAS ですでに実行中のサーバーをすべて停止してください。ただし、WAS AE を使用している場合は、WebSphere Application Server 管理サーバー (AE) が実行されていることを確認してから eClient のインストールを開始してください。

WebSphere Application Server 5 を使用している場合は、アプリケーション・サーバーが開始されていることを確認してください。アプリケーション・サーバーを開始するには、以下のステップを実行します。

1. `WASROOT/bin` サブディレクトリーに移動します。ここで、`WASROOT` は WebSphere がインストールされているルート・ディレクトリーです。
2. 以下を実行して、
`./startServer.sh server1`

手順:

eClient を AIX または Sun Solaris でアプリケーション・サーバーにインストールするには、以下のステップを実行してください。

1. eClient CD を CD ドライブに挿入する。
2. **オプション:** X Window セッション (Exceed など) を使用して AIX または Sun Solaris にインストールする場合は、次のコマンドを入力する。
`export DISPLAY=hostname:0.0`

ここで、hostname はインストール・パネルを表示できるようにするホスト名または IP アドレスです。

3. ランチパッド・ディレクトリーから次の Java コマンドを入力して、ランチパッドを手動で実行する。

```
java com.ibm.cm.install.launchpad.LaunchPad
```

注: ランチパッドを実行するには、root 特権または sudo 特権が必要です。

4. インストール・ウィンドウの指示に従う。eClient をインストールするデフォルト・ディレクトリーは /opt/CMClient です。

5. Content Manager バージョン 8 に接続している場合、データ・サーバー・リスト・ファイルのデフォルトのローカル・ファイル場所は、/usr/lpp/cmb/cmgmt/cmbicmsrvs.ini (AIXの場合) および /opt/ibm/cmb/cmgmt/cmbicmsrvs.ini (Solaris の場合) です。

eClient ファイルのインストール後に、インストール・プログラムが WebSphere Application Server (WAS) の有無をチェックする。インストール・プログラムが WAS を検出したら、eClient 用の Web アプリケーションの自動構成を続行できます。WebSphere によるアプリケーションの自動構成を行わずに終了することもできます。

6. **オプション:** 自動構成を実行しない場合は、eClient を Web アプリケーションとしてセットアップおよび構成する必要があります。

関連した作業:

15 ページの『Windows アプリケーション・サーバーへの eClient のインストール』

21 ページの『第 4 章 構成』

21 ページの『WebSphere Application Server による eClient の構成』

サード・パーティー・アプリケーション統合のインストール

この節では、Windows、AIX、および Solaris にサード・パーティー・アプリケーション統合をインストールする手順を説明します。

関連した作業:

『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のインストール』

18 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager のインストール』

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のインストール

この節では、PeopleSoft Integration for IBM Content Manager を使用する前に完了する必要があるインストール手順の概略を示します。

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のインストール

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager は、eClient および IBM Content Manager 製品をインストールすると、自動的にインストールされます。PeopleSoft ポータルおよび eClient は、一緒に稼働するように構成する必要があります。

重要: Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースを開始せずに EIP をマシンにインストールする場合は、EIP システムに ICMXLSLG.DLL ファイルをインストールする必要があります。次のファイルを Content Manager サーバーから EIP システムにコピーしてください。

ICMROOT¥integration¥peoplesoft¥ICMXLSLG.DLL

EIP DLL ディレクトリーがない場合は、ここでそのディレクトリーを作成し、その中に ICMXLSLG.DLL ファイルをコピーします。

- Windows EIP サーバーの場合、このファイルを Windows EIP DLL ディレクトリーの CMBROOT¥database name¥DLL¥ にコピーします。
- UNIX EIP サーバーの場合、このファイルを UNIX EIP DLL ディレクトリーの PATHICMDLL¥database name¥DLL¥ にコピーします。

ここで、

PATHICMDLL

ICMSTSYSCONTROL テーブルの列 PATHICMDLL の DLL に指定されたパス

database name

EIP データベースの名前

関連した作業:

35 ページの『PeopleSoft と eClient を一緒に稼働させるための構成』

36 ページの『IBM Content Manager を使用したルーズ・アソシエーション用 PeopleSoft の構成』

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

Siebel Integration for IBM Content Manager のインストール

この節では、Siebel Integration for IBM Content Manager を使用する前に完了する必要があるインストール手順の概略を示し、バージョン 7 からバージョン 8 へのアップグレードの手順について説明します。

Windows、AIX、または Solaris への Siebel Integration for IBM Content Manager のインストール

Siebel Integration for IBM Content Manager は、IBM Content Manager eClient をインストールすると、自動的にインストールされます。IBM Content Manager eClient インストール・ソフトウェアは、Siebel Integration for IBM Content Manager に必要な、各種サブリット、JavaServer Pages (JSP)、アイコン、カスケーディング・スタイル・シート 1 個、Siebel Web テンプレート 2 個、およびサンプルの Integration Properties (IP) ファイルをインストールします。

新しい Web テンプレート (EIP81Applet.swt および EIP81Body.swt) は、ECLIENTROOT¥integration¥siebel ディレクトリー (AIX および Solaris では ECLIENTROOT/integration/siebel ディレクトリー) に格納されます。ここで、ECLIENTROOT は eClient のインストール先ディレクトリーです。これらのテンプレートは、以下の 3 つのディレクトリーすべてにコピーする必要があります。ここで、SIEBELROOT は Siebel のインストール先ディレクトリーです。

| `SIEBELROOT%siebsrvr%WEBTEMPL`

| `SIEBELROOT%client%WEBTEMPL`

| `SIEBELROOT%tools%WEBTEMPL`

| Integration Properties ファイル (以下、IP ファイルと言う) は、Siebel と統合するた
| めの環境を構成するプロパティ値を指定します。Siebel.properties という名前
| のサンプルの IP ファイルが、*ECLIENTROOT* ディレクトリーに格納されます。ここ
| で、*ECLIENTROOT* は eClient のインストール先ディレクトリーです。このファイル
| の名前は、必要なら、変更してもかまいません。

| **関連した作業:**

| 62 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の構成』

| **Siebel Integration for IBM Content Manager バージョン 7 から**
| **バージョン 8 へのアップグレード**

| eClient バージョン 7 から 8 にアップグレードすると、自動的に Siebel Integration
| for IBM Content Manager バージョン 7 からバージョン 8 にアップグレードするこ
| とになります。

| Siebel Integration for IBM Content Manager バージョン 7 を構成する場合は、IP フ
| ァイルで server、userid、および password プロパティの値を指定する必要があります。
|

| Siebel Integration for IBM Content Manager バージョン 8 を構成する場合は、この
| 3 つのプロパティを IP ファイルか URL、またはこの両方で指定します。IP ファ
| イルと URL の両方に指定した場合、URL で指定した値が IP ファイル内の値より
| も優先されます。

| 新しい Web テンプレート (EIP81Applet.swt および EIP81Body.swt) は、
| *ECLIENTROOT%integration%siebel* ディレクトリー (AIX および Solaris では
| *ECLIENTROOT/integration/siebel* ディレクトリー) に格納されます。ここで、
| *ECLIENTROOT* は eClient のインストール先ディレクトリーです。以下のことを行う
| 必要があります。

- | 1. これらのテンプレートを以下の 3 つのディレクトリーにコピーする。ここで、
| *SIEBELROOT* は Siebel のインストール先ディレクトリーです。

| `SIEBELROOT%siebsrvr%WEBTEMPL`

| `SIEBELROOT%client%WEBTEMPL`

| `SIEBELROOT%tools%WEBTEMPL`

- | 2. 新しいファイルを参照するように Siebel の構成を変更する。

- | 3. Siebel プロジェクトを再コンパイルする。

| **関連リファレンス:**

| 「Installing, Configuring, Managing the eClient」の『Upgrading from eClient
| Version 7.1 to eClient Version 8.1』

| **関連した作業:**

| 62 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の構成』

第 4 章 構成

この節では、eClient およびサード・パーティー・アプリケーション統合の構成について説明します。

関連した作業:

『eClient の構成』

34 ページの『サード・パーティー・アプリケーション統合の構成』

eClient の構成

この節では、eClient の構成するためのステップを紹介します。

関連した作業:

『IBM WebSphere 5 Java 2 Security を使用するための eClient の構成』

『WebSphere Application Server による eClient の構成』

26 ページの『IBM WebSphere 4 接続プールを eClient で使用するための構成』

30 ページの『IBM WebSphere 5 接続プールを eClient で使用するための構成』

31 ページの『eClient の言語の選択』

IBM WebSphere 5 Java 2 Security を使用するための eClient の構成

WebSphere Application Server で Java 2 Security を使用可能にする場合は、eClient による操作要求を実行するために Enterprise Information Portal に許可を与える必要があります。許可を与えるには、以下のステップを実行します。

1. Javaポリシー・ツールを使用して、x:¥WebSphere¥appserver¥config¥cells¥"cell name"¥nodes¥"node name"¥app.policy を開く。
2. EIP ライブラリー・ディレクトリーに java.security.AllPermission を与えます。

以下は、applpolicy ファイルに追加する許可の例です。

```
grant codeBase "file:/c:/cmbroot/lib/-"{
permission java.security.AllPermission; };
```

CMeClient ディレクトリーには app.policy というサンプル・ファイルもあります。

WebSphere Application Server による eClient の構成

この節では、WebSphere Application Server を使用して Windows、AIX、および Solaris で eClient を構成する方法について説明します。

WebSphere Application Server 4.0.5 AE または AES による eClient の構成

eClient を WebSphere Application Server 4.0.5 AE または AES を使用して Windows 上で手動で構成する場合は、以下のステップを実行してください。

1. %CMeClient%save ディレクトリーにある idmwas.bat ファイルを開く。
2. Web サーバーの Java 仮想マシン (JVM) で、CLASSPATH に次のトークン値を設定する。

```
CLASSPATH=$sqlpath$dsep$java%db2java.zip;$proddest$;$cmcommon$;$eipath  
$dsep$lib$dsep$cmbfn81.jar;$eipath$dsep$lib$dsep$cmbsdk81.jar;$eipath  
$dsep$lib$dsep$cmbview81.jar;$eipath$dsep$lib$dsep$cmb81.jar;$eipath  
$dsep$lib$dsep$;$eipath$dsep$lib$dsep$cmbsdk81.jar;$eipath$dsep$lib  
$dsep$xerces.jar;$eipath$dsep$lib$dsep$cmblog4j81.jar;$eipath$dsep  
$lib$dsep$log4j.jar;$wasroot$dsep$lib$dsep$j2ee.jar;$eipath$dsep  
$lib$dsep$cmbwas81.jar
```

トークン値の説明

\$sqlpath\$

DB2 ホーム・ディレクトリーへのパス

\$proddest\$

eClient ホーム・ディレクトリーへのパス

\$cmcommon\$

EIP INI ファイルの保管場所へのパス

\$eipath\$

EIP ホーム・ディレクトリーへのパス

\$frnpath\$

EIP ホーム・ディレクトリーのフォルダー・マネージャー API へのパス

\$wasroot\$

WebSphere ホーム・ディレクトリー、または使用する Web サーバーの
ホーム・ディレクトリー

\$dsep\$

オペレーティング・システムに基づくファイル分離文字

3. Web サーバーの JVM で、PATH に次のトークン値を設定する。

```
PATH=$cmcommon$;$eipath$dsep$;$eipath$dsep$dll;$sqlpath$dsep$bin;  
$frnpath$dsep$dllFRNADDRON=YES
```

eClient を WebSphere Application Server AE または AES を使用して AIX 上で手動で構成する場合は、以下のステップを実行してください。

1. /opt/CMeClient/Save ディレクトリーにある idmwas.sh ファイルを開く。ここで、/opt/CMeClient は eClient がインストールされているルート・ディレクトリーです。
2. Web サーバーの Java 仮想マシン (JVM) で、CLASSPATH に次のトークン値を設定する。

```
CLASSPATH=.:$proddest$:$cmcommon$:$eipath$/lib/cmbwas81.jar:  
$wasroot$/lib/j2ee.jar;$eipath$/lib/cmb81.jar;$eipath$/lib/cmbcm81.jar:  
$eipath$/lib/cmbdb281.jar;$eipath$/lib/cmbdb2c81.jar;$eipath$/lib  
/cmbddc81.jar;$eipath$/lib/cmbdesc81.jar;$eipath$/lib/cmbdj81.jar:  
$eipath$/lib/cmbdj81.jar;$eipath$/lib/cmbdl81.jar;$eipath$/lib/  
cmbdlc81.jar;$eipath$/lib/cmbfed81.jar;$eipath$/lib/cmbfedc81.jar:
```

```
$eippath$/lib/cmbic81.jar:$eippath$/lib/cmbicc81.jar:$eippath$/lib/
cmbicm81.jar:$eippath$/lib/cmbicmup.jar:$eippath$/lib/cmbipc81.jar:
$eippath$/lib/cmbjdbcc81.jar:$eippath$/lib/cmbjdbcc81.jar:$eippath$/lib/
cmblog4j81.jar:$eippath$/lib/cmbod81.jar:$eippath$/lib/cmbodc81.jar:
$eippath$/lib/cmbv4c81.jar:$eippath$/lib/cmbview81.jar:$eippath$/lib/
esclisrv.jar:$eippath$/lib/essrv.jar:$eippath$/lib/jaas.jar:$eippath
$/lib/log4j.jar:$eippath$/lib/sguide.jar:$eippath$/lib/xerces.jar:
$eippath$/lib/cmbstdk81.jar:$eippath$/lib:$frnpath$/lib:$sqlpath$/
java12/db2java.zip:$sqlpath$/lib:$sqlpath$/java12:$CLASSPATH
```

トークン値の説明

\$sqlpath\$

DB2 ホーム・ディレクトリーへのパス

\$proddest\$

eClient ホーム・ディレクトリーへのパス

\$cmcommon\$

EIP INI ファイルの保管場所へのパス

\$eippath\$

EIP ホーム・ディレクトリーへのパス

\$frnpath\$

EIP ホーム・ディレクトリーのフォルダー・マネージャー API へのパス

\$wasroot\$

WebSphere ホーム・ディレクトリー、または使用する Web サーバーの
ホーム・ディレクトリー

\$dsep\$

オペレーティング・システムに基づくファイル分離文字

3. Web サーバーの JVM で、PATH に次のトークン値を設定する。

```
PATH=.:$proddest$:${WAS_ROOT}/java/sh:${WAS_ROOT}/java/jre/sh:$cmcommon
$: $eippath$/bin:$frnpath$/bin:$eippath$: $frnpath$: $frnpath$/lib:/lib:
/usr/lib:$PATH</entry>
FRNLEVEL=frn
FRNDEFLANG=ENU
FRNDBNAME=
FRNDBCFCG=
FRNCOMP=CLIENT
FRNINST=$frnpath$
FRNSHARED=/var/frn
FRNHEAPSIZE=2048
FRNHEAPID=DAEMON
FRNCOMPID=ROOT
FRNLOCAL=$proddest$
FRNROOT=/usr/lpp/frn/bin
FRNLIB=/usr/lpp/frn/lib
CMBROOT=$cmcommon$
FRNADDON=YES
LD_LIBRARY_PATH=./lib:/usr/lib:$eippath$/lib:$LD_LIBRARY_PATH
NLSPATH=/usr/lib/nls/msg/%L/%N:/usr/lib/nls/%L/%N.cat:${NLSPATH}:$eippath
$/msg/en_US/%N
LDR_CNTRL=MAXDATA=0x30000000
```

注:

LDR_CNTRL=MAXDATA 設定は、AIX 上における Java アプリケーションのパフォーマンスと安定度に影響する場合があります。この変数の値は、そのアプリケーション

で獲得したいヒープ・サイズに基づいて設定します。詳しくは、
www.ibm.com/servers/esdd/articles/aix4java/index.html を参照してください。

eClient を WebSphere Application Server AE または AES を使用して Sun Solaris
上で手動で構成する場合は、以下のステップを実行してください。

1. /opt/CMClient/Save ディレクトリーにある idmwas.sh ファイルを開く。こ
こで、/opt/CMClient は eClient がインストールされているルート・ディレク
トリーです。
2. Web サーバーの JVM で、CLASSPATH に次のトークン値を設定する。

```
CLASSPATH=.:$proddest$:$wasroot$/lib/j2ee.jar:$eippath$/lib/cmbwas81.jar:  
$eippath$/lib/cmb81.jar:$eippath$/lib/cmbcm81.jar:$eippath$/lib/  
cmbdb281.jar:$eippath$/lib/cmbdb2c81.jar:$eippath$/lib/cmbddc81.jar:  
$eippath$/lib/cmbdesc81.jar:$eippath$/lib/cmbdj81.jar:$eippath$/lib/  
cmbdj81.jar:$eippath$/lib/cmbdl81.jar:$eippath$/lib/cmbdlc81.jar:  
$eippath$/lib/cmbfed81.jar:$eippath$/lib/cmbfedc81.jar:$eippath$/lib/  
cmbic81.jar:$eippath$/lib/cmbicc81.jar:$eippath$/lib/cmbicm81.jar:  
$eippath$/lib/cmbicmup.jar:$eippath$/lib/cmbipc81.jar:$eippath$/lib/  
cmbjdb81.jar:$eippath$/lib/cmbjdbcc81.jar:$eippath$/lib/cmblog4j81.jar:  
$eippath$/lib/cmbod81.jar:$eippath$/lib/cmbodc81.jar:$eippath$/lib/  
cmbv4c81.jar:$eippath$/lib/cmbview81.jar:$eippath$/lib/esclisrv.jar:  
$eippath$/lib/essrv.jar:$eippath$/lib/jaas.jar:$eippath$/lib/log4j.jar:  
$eippath$/lib/sguide.jar:$eippath$/lib/xerces.jar:$eippath$/lib/  
cmbsdk81.jar:$eippath$/lib:$eippath$/cmgmt:$sqlpath$/java12/db2java.zip:  
$sqlpath$/lib:$sqlpath$/java12:$CLASSPATH
```

トークン値の説明

\$sqlpath\$

DB2 ホーム・ディレクトリーへのパス

\$proddest\$

eClient ホーム・ディレクトリーへのパス

\$cmcommon\$

EIP INI ファイルの保管場所へのパス

\$eippath\$

EIP ホーム・ディレクトリーへのパス

\$frnpath\$

EIP ホーム・ディレクトリーのフォルダー・マネージャー API へのパス

\$wasroot\$

WebSphere ホーム・ディレクトリー、または使用する Web サーバーの
ホーム・ディレクトリー

\$dsep\$

オペレーティング・システムに基づくファイル分離文字

3. Web サーバーの JVM で、PATH に次のトークン値を設定する。

```
PATH=.:$proddest$:$cmcommon$:$eippath$/bin:$eippath$/lib:/usr/lib:  
${WAS_ROOT}/java/sh:${WAS_ROOT}/java/jre/sh:$PATH
```

4. LD_LIBRARY_PATH に次のトークン値を設定する。

```
LD_LIBRARY_PATH=.:/lib:/usr/lib:$eippath$/lib:$LD_LIBRARY_PAT
```

5. NLSPATH に次のトークン値を設定する。

```
NLSPATH=/usr/lib/nls/msg/%L/%N:/usr/lib/nls/%L/%N.cat:${NLSPATH}:  
$eippath$/msg/en_US/%N
```

6. CMBROOT を \$cmcommon\$ に設定する。
7. LDR_CNTRL に次のトークン値を設定する。
LDR_CNTRL=MAXDATA=0x30000000

関連した作業:

- 15 ページの『第 3 章 インストール』
- 26 ページの『IBM WebSphere 4 接続プールを eClient で使用するための構成』

関連リファレンス

Content Manager バージョン 8 サーバー用の WebSphere Application Server では、シングル・サインオンがサポートされます。シングル・サインオンを使用するための WebSphere Application Server の構成については、
www.ibm.com/software/webservers/appserv/support.html にある WebSphere の資料を参照してください。

WebSphere Application Server 5 による eClient の構成

eClient を WebSphere Application Server 5 を使用して Windows 上で手動で構成する場合は、以下のステップを実行してください。

1. WebSphere Administrative Console を開く。
2. WebSphere Administrative Console のツリー・ビューの「サーバー (Servers)」で、「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」を選択する。
3. 「新規 (New)」をクリックして、新規のアプリケーション・サーバーを eClient_Server という名前で追加する。
4. 「アプリケーション (Applications)」で、「エンタープライズ・アプリケーション (Enterprise Applications)」を選択する。
5. 「インストール (Install)」をクリックして、eClient アプリケーションを追加する。
 - a. eClient82.ear ファイルへのパスを追加し、「次へ」をクリックする。
 - b. 「次へ」をクリックする。
 - c. 「次へ」をクリックする。
 - d. eClient82 Web Module と Virtual Host default_host を選択し、「次へ」をクリックする。
 - e. eClient82 Module と、eClient 用に作成した eClient_Server アプリケーション・サーバーを選択し、「適用」をクリックする。
 - f. 「Next」をクリックする。
 - g. 「Next」をクリックする。
 - h. 「Finish」をクリックする。
6. WebSphere Administrative Console のツリー・ビューの「サーバー (Servers)」で、「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」を選択する。
7. eClient アプリケーション・サーバーを選択する。
8. 「プロセス定義 (Process Definition)」をクリックする。
9. 「Java 仮想マシン (Java Virtual Machine)」をクリックする。
10. クラスパスのプロパティにクラスパスを追加する。
11. 「Apply」をクリックする。

12. WebSphere Administrative Console の「環境 (Environment)」フォルダーで、「Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)」をクリックする。
13. HTTP サーバーを再始動する。
14. eClient アプリケーション・サーバーを開始する。

IBM WebSphere 4 接続プールを eClient で使用するための構成

eClient で IBM WebSphere 4 接続プールを使用するように構成することができます。

前提条件:

eClient で IBM WebSphere 4 接続プールを使用するように構成する場合は、先に cmbpool.ini ファイルを更新して、WebSphere 接続プールを使用可能にする必要があります。

このファイルのデフォルトの場所は %CMCOMMON% です。

- Windows サーバーでは C:\Program Files\ibm\CMgmt
- Solaris では /opt/IBMcmb/cmngmt
- AIX では /usr/lpp/cmb/cmngmt

このファイルで、キーワード JavaPool を JavaPool=DKPoolWAS に設定し、キーワード JDBCPrefix を JDBCPrefix=jdbc/ に設定します。

Content Manager バージョン 8 のデータベースを WebSphere に追加し、この新規の環境で WebSphere 接続プールが動作するかどうか確認する必要があります。

制限:

eClient が接続プールをサポートするのは、直接の Content Manager 接続の場合のみです。

推奨事項:

このセットアップ・プロセスを開始する前に、eClient Web アプリケーション・サーバーを停止するようにしてください。

手順:

この作業は以下のステップで実行してください。

1. eClient アプリケーションのデータベース・ドライバを追加する。
 - a. WebSphere Advanced Administration Console で、「リソース (Resources)」フォルダーを展開する。
 - b. 「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」フォルダーを展開し、新規のプロバイダーを追加する。新規のプロバイダーを追加するには、「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」フォルダーを右クリックし、「新規 (New)」をクリックして「JDBC プロバイダーのプロパティ (JDBC Provider Properties)」ウィンドウを開きます。

- c. 図 1 に示すように、「名前 (Name)」フィールドにプロバイダー名として **eClient** を入力する。
- d. リストから、インプリメンテーション・クラスとして **COM.ibm.db2.jdbc.DB2ConnectionPoolDataSource** を選択する。

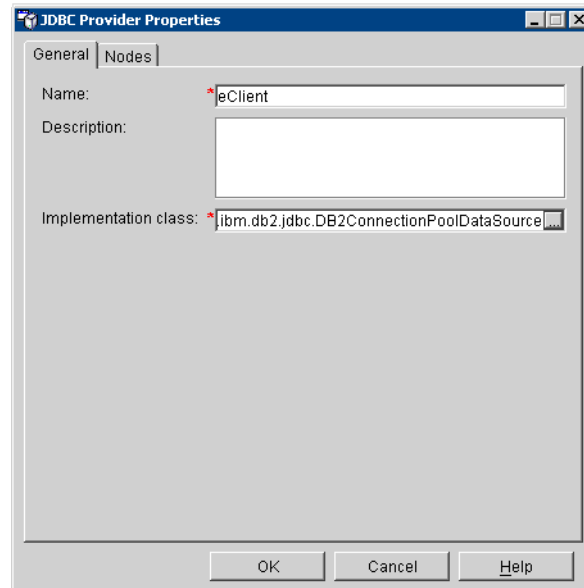


図 1. 「JDBC プロバイダーのプロパティ (JDBC Provider Properties)」ウィンドウ

- e. 「ノード (Nodes)」ページで、「新規インストール (Install New...)」をクリックし、ドライバのインストール先ノードを選択する。デフォルトのノードは WebSphere サーバーのローカル・ノードです。
 - f. ノードを選択したら、「ドライバーを指定 (Specify Driver)」をクリックしてドライバを追加する。ドライバ名は db2java.zip が置かれている場所の絶対パス名です。 e:¥SQLLIB¥java¥db2java.zip などのように指定します。
 - g. ドライバを追加したら、「インストール (Install)」をクリックしてドライバをインストールする。
2. データベース・ドライバにデータ・ソースを追加する。
- a. ツリーの「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」を展開する。
 - b. 「eClient」を展開する。これが別の名前の場合もあります。この名前は「JDBC プロバイダーのプロパティ (JDBC Provider Properties)」ウィンドウの「名前 (Name)」フィールドで先に定義したプロバイダー名に基づきます。
 - c. 「データ・ソース (Data Sources)」フォルダーを右クリックし、「新規 (New)」をクリックして「データ・ソースのプロパティ (Data Source Properties)」ウィンドウを開く。ここで Content Manager バージョン 8 データベースを追加できます。 28 ページの図 2 に示す例では、CM8390 はデータベース名です。

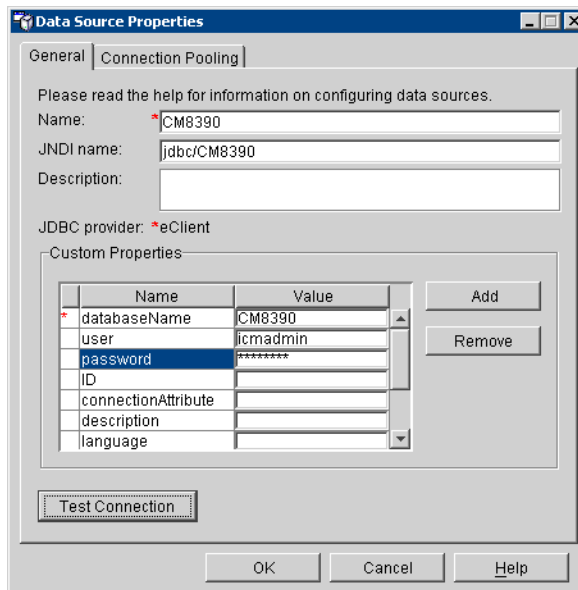


図2. 「データ・ソースのプロパティ (Data Source Properties)」ウィンドウ

注:

JNDI 名のフィールドでデータベースに付加された prefix jdbc/ は、Content Manager バージョン 8 接続プールを Content Manager バージョン 8 データベースに接続する方法を示します。cmbpool.ini の JDBCPrefix キーワードがデータベース名と連結して、JNDI 名が作成されます。これらの項目では大文字小文字が区別されます。

ユーザー・プロパティの値として icmadmin を指定した場合は、ログインに icmadmin ユーザー ID しか使用できません。29 ページの図 3 に示すように、USER1 や USER2 などの他のユーザー ID を作成するには、ユーザー・プロパティを icmconct に変更するか、Content Manager バージョン 8 または EIP バージョン 8 のインストール時に指定した DB2 接続ユーザー ID に変更する必要があります。WebSphere ユーザーとパスワードのフィールドを変更するために、WebSphere Application Server を再始動する必要はありません。別のユーザーとパスワードを使用するように WebSphere を変更したら、「適用 (Apply)」をクリックします。ユーザーとして icmconct を指定した場合、USER1 または USER2 を使用してログインできますが、icmadmin ではログインできません。

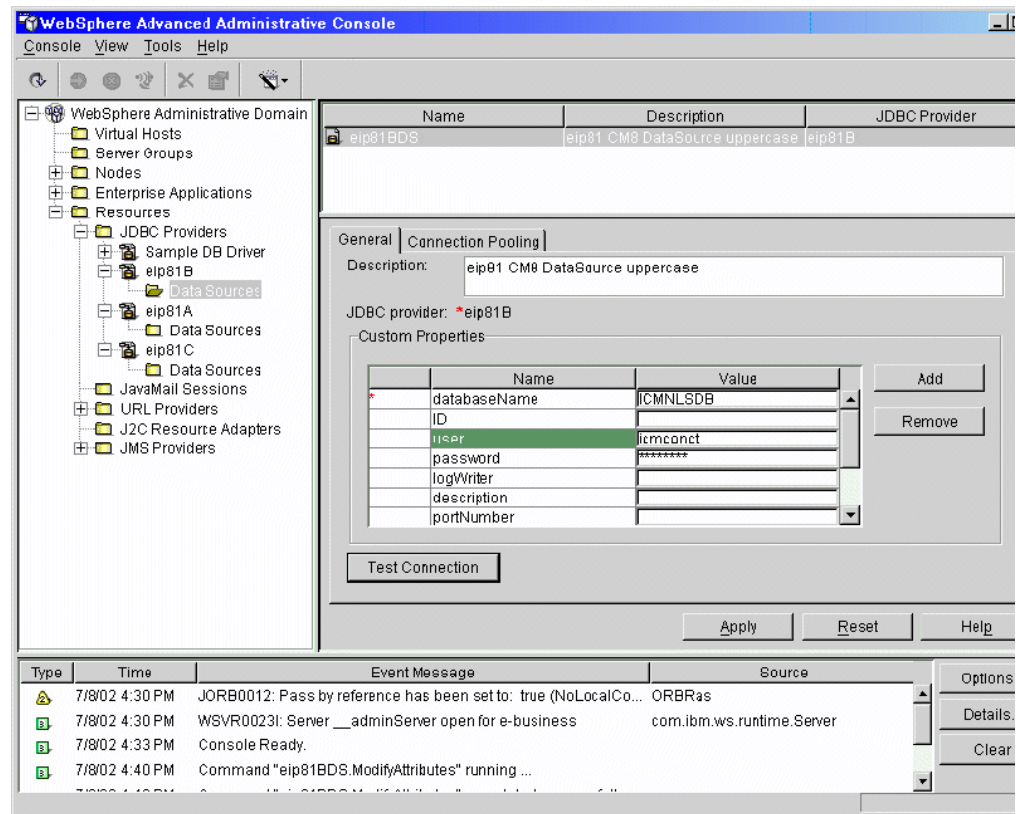


図3. icmconct 値が指定されたユーザー

- WebSphere Resource Analyzer を使用して、eClient アプリケーション・サーバーで接続プールが使用されていることを確認する。 WebSphere Advanced Administrative Console で、「ツール (Tools)」→「リソース・アナライザー (Resource Analyzer)」を選択します。 図4 に示すように、「データベース接続プール (Database Connection Pooling)」がツリーに表示されます。

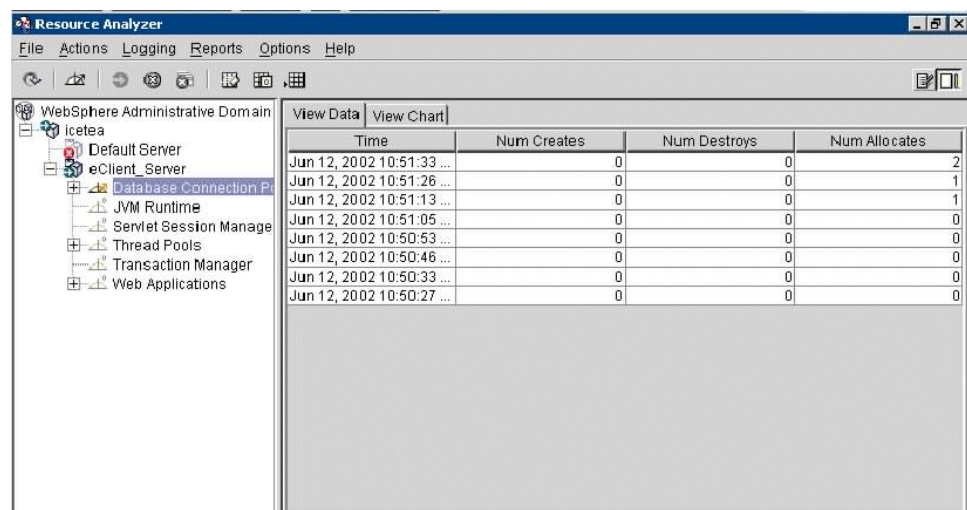


図4. 「リソース・アナライザー (Resource Analyzer)」 ウィンドウ

関連した作業:

21 ページの『WebSphere Application Server による eClient の構成』

31 ページの『eClient の言語の選択』

IBM WebSphere 5 接続プールを eClient で使用するための構成

eClient で IBM WebSphere 5 接続プールを使用するように構成することができます。

手順:

1. eClient アプリケーションのデータベース・ドライバーを追加する。
 - a. WebSphereAdvanced Administration Console で、「リソース (resources)」フォルダーを展開する。
 - b. 「ノード (Node)」を選択して JDBC プロバイダーを作成し、「新規 (New)」をクリックして「JDBC プロバイダーのプロパティ (JDBC Provider Properties)」ウィンドウを開きます。
 - c. 「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」オプションとして「DB2® JDBC プロバイダー (DB2 JDBC Provider)」を選択し、「適用 (Apply)」をクリックする。
 - d. 「汎用プロパティ (General Properties)」画面で、名前のプロパティに eClient を追加する。
 - e. 「適用 (Apply)」をクリックする。
 - f. 「保管 (Save)」をクリックして、ローカル構成への変更を保管する。
 - g. 「保管 (Save)」をクリックして、マスター構成への変更を保管する。
2. データベース・ドライバーにデータ・ソースを追加する。
 - a. 「リソース (Resources)」の下で、「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」リンクをクリックする。
 - b. 「eClient JDBC プロバイダー (eClient JDBC Provider)」をクリックする。これが別の名前の場合もあります。この名前は「JDBC プロバイダーのプロパティ (JDBC Provider Properties)」ウィンドウの「名前 (name)」フィールドで先に定義したプロバイダー名に基づきます。
 - c. 「追加のプロパティ (Additional Properties)」の下で「データ・ソース (Data Sources)」をクリックする。
 - d. 「新規 (New)」をクリックする。「名前 (name)」フィールドに、Content Manager または EIP 統合データベースの名前を追加します。
 - e. 「適用 (Apply)」を選択する。
 - f. ローカル構成への変更を保管する。
 - g. マスター構成への変更を保管する。
3. データ・ソース・ドライバーを構成する。
 - a. 「リソース (Resources)」の下で、「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」リンクをクリックする。
 - b. 「eClient JDBC プロバイダー (eClient JDBC Provider)」をクリックする。これが別の名前の場合もあります。この名前は「JDBC プロバイダーのプロパティ (JDBC Provider Properties)」ウィンドウの「名前 (name)」フィールドで先に定義したプロバイダー名に基づきます。

- c. 「追加のプロパティ (Additional Properties)」の下の「データ・ソース (Data Sources)」をクリックする。
- d. ステップ 2 で作成したデータ・ソース名を選択する。
- e. 「関連項目 (Related Items)」セクションで、「J2C 認証データ・エントリー (J2C Authentication Data Entries)」を選択する。
- f. 「新規 (New)」をクリックして、新規の J2C 認証データ・エントリーを作成する。
- g. 別名のプロパティとして eClient を追加する。
- h. データベース・ユーザー ID を追加する。**注:** ユーザー ID プロパティの値として icmadmin を指定した場合、ログインに icmadmin ユーザー ID しか使用できません。icmadmin 以外の ID を使用して eClient にログオンするには、ユーザー・プロパティを icmconct に変更するか、Content Manager または EIP のインストール時に指定した DB2 接続ユーザー ID に変更する必要があります。
- i. 指定したユーザー ID のパスワードを追加する。
- j. 「適用 (Apply)」をクリックする。
- k. ローカル構成への変更を保管する。
- l. マスター構成への変更を保管する。
- m. eClient データ・ソースにナビゲートし、そのデータ・ソースをクリックします。
- n. 「コンポーネント管理の認証別名 (Component-managed Authentication Alias)」に別名 eClient を追加する。
- o. 「コンテナ管理の認証別名 (Container-managed Authentication Alias)」に別名 eClient を追加する。
- p. 「適用 (Apply)」をクリックする。
- q. ローカル構成への変更を保管する。
- r. マスター構成への変更を保管する。

eClient の言語の選択

IBM Content Manager eClient は、以下の言語で利用できます。

- ブラジル・ポルトガル語
- チェコ語
- デンマーク語
- オランダ語
- 英語
- フィンランド語
- フランス語
- ドイツ語
- ヘブライ語
- ハンガリー語
- イタリア語
- 日本語

- ノルウェー語
- ポーランド語
- ポルトガル語
- ロシア語
- 中国語 (簡体字)
- スロバキア語
- スロベニア語
- スペイン語
- スウェーデン語
- 中国語 (繁体字)
- トルコ語

eClient は各国語サポート (NLS) のライブラリー・サーバーとオペレーティング・システムで機能します。ライブラリー・サーバーが Unicode をサポートする場合、オペレーティング・システムでサポートされている言語である限り、eClient であらゆる言語テキストを保管および表示できます。ライブラリー・サーバーが特定のコード・ページしかサポートしない場合、eClient サーバーが実行されているオペレーティング・システムのコード・ページが、ライブラリー・サーバーのコード・ページと一致することを確認する必要があります。

eClient では文字エンコードとして UTF-8 が使用されます。encoding.properties ファイルで、言語のエンコード・エントリーを UTF-8 に設定する必要があります。このファイルは WebSphere の %appserver%properties フォルダーにあります。たとえば、中国語 (簡体字) をサポートするには、encoding.properties ファイルで zh=UTF-8 と設定します。

ほとんどのブラウザでは、言語設定も指定する必要があります。ブラウザで言語設定を指定するには、以下の手順に従います。

Microsoft Internet Explorer 5.5 の場合

「ツール」 > 「インターネット・オプション」と選択し、「言語」をクリックして現在の言語設定を表示する。「言語の優先順位」ウィンドウで、「追加」をクリックして言語を追加します。

Netscape Navigator 4.78 の場合

「編集 (Edit)」 → 「設定 (Preferences)」 と選択する。「設定 (Preferences)」ウィンドウの左のフレームで、「言語 (Languages)」をクリックして現在の言語設定を表示します。「追加 (Add)」をクリックして言語を追加します。

Netscape Navigator 6.1 の場合

「表示 (View)」メニューで、文字コードと言語を選択する。

eClient インストールおよび構成の検証

eClient を Web アプリケーションとしてインストールおよび構成したら、以下のステップを実行してそのインストールと構成を検証できます。

1. eClient アプリケーションが WebSphere Application Server に正しく配置されたことを検証する。

WebSphere 4.0.5 AE および WebSphere 5 の場合

- a. WebSphere Application Server Administrative Console を開く。
- b. 「サーバー (Servers)」の下に eClient_Server アプリケーション・サーバーが作成されたことを検証する。
- c. IBM eClient 82 アプリケーションが「エンタープライズ・アプリケーション (Enterprise Applications)」の下にインストールされたことを検証する。

WebSphere 4.0.5 AES の場合

- a. 「スタート」→「プログラム」→「IBM WebSphere Application Server AE(s) V4.0」→「管理者のコンソール (Administrator's Console)」とクリックして、WebSphere Application Server Administrative Console を開く。
 - b. 「構成ファイルを開いてコンソールで編集する (Open a configuration file to edit with the console)」を選択する。
 - c. オプション「サーバー上のファイルへの絶対パスを入力する (Enter full path to file on server)」を選択し、Content Manager 共通ディレクトリーにある IDM_ICM.xml 構成ファイルへのパス (C:\Program Files\IBM\CMgmt など) を入力する。
 - d. 左のトポロジー・フレームで、「WebSphere 管理ドメイン (WebSphere Administrative Domain)」→「ノード (Nodes)」→「ホスト名」→「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」と展開して、ICM_Server アプリケーション・サーバーを検索する。
 - e. 「WebSphere 管理ドメイン (WebSphere Administrative Domain)」→「ノード(Nodes)」→「ホスト名」→「エンタープライズ・アプリケーション (Enterprise applications)」と展開して、IBM eClient 82 Web アプリケーションを検索する。
2. eClient Web アプリケーションを開始し、ブラウザで以下をポイントする。
- `http://hostname/Web application name/IDMInit`

ここで、

ホスト名

サーバー・マシンの名前または IP アドレス。

Web アプリケーション名

eClient Web アプリケーションの名前

IDMInit

初期接続サブレット

eClient Web アプリケーション・アドレスの例を以下に示します。

`http://hostname/eClient82/IDMInit`

eClient を正しくインストールしていて、アドレスが正しければ、以下のログオン・ウィンドウが開くはずです。



図5. Content Manager eClient ログオン・ウィンドウ

eClient を正しく構成していれば、定義したコンテンツ・サーバーにアクセスできるはずです。eClient がサポートするコンテンツ・サーバーには、以下が含まれます。

- IBM Content Manager for Multiplatforms バージョン 7.1
- IBM Content Manager for Multiplatforms バージョン 8.1
- IBM Content Manager for Multiplatforms バージョン 8.2
- IBM Content Manager OnDemand for Multiplatforms バージョン 7.1
- IBM Content Manager OnDemand for OS/390 バージョン 2.1
- IBM Content Manager OnDemand for OS/390 バージョン 7.1
- IBM Content Manager OnDemand for iSeries バージョン 4.5
- IBM Content Manager OnDemand for iSeries バージョン 5.1
- IBM Content Manager ImagePlus for OS/390 バージョン 3.1
- IBM VisualInfo for AS/400 バージョン 4.3 またはバージョン 5.1

ログオン・ウィンドウが開かない場合や、インストール時に定義したサーバーにアクセスできない場合は、131 ページの『構成の問題』を参照してください。

関連した作業:

- 15 ページの『Windows アプリケーション・サーバーへの eClient のインストール』
- 16 ページの『AIX または Solaris サーバーへの eClient のインストール』
- 21 ページの『第 4 章 構成』
- 21 ページの『WebSphere Application Server による eClient の構成』

サード・パーティー・アプリケーション統合の構成

この節では、サード・パーティー・アプリケーション統合の構成について説明します。

関連した作業:

- 35 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の構成』

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の構成

この節では、PeopleSoft および Content Manager eClient を一緒に稼働させるための手順を示します。

PeopleSoft と eClient を一緒に稼働させるための構成

2 とおりの方法で、PeopleSoft を eClient と一緒に稼働するように構成することができます。最初の方法は、ルーズ・アソシエーションです。2 つ目の方法は、より密接した統合です。2 つ目の方法では、シングル・サインオンおよび、PeopleSoft ポータルから IBM Content Manager eClient へのより最適化されたユーザー・インターフェース・パスが可能になります。

PeopleSoft および IBM Content Manager の関連付けを行う最も簡単な方法は、これら 2 つの製品間にルーズ・アソシエーションを提供することです。ルーズ・アソシエーションの目的は、PeopleSoft ユーザーに、PeopleSoft ポータルの任意の場所から、Content Manager eClient Logon ページにナビゲートする非常に簡単な方法を提供することです。統合は簡単に確立できますが、ルーズ・アソシエーションを提供すると、PeopleSoft ユーザーは、Content Manager eClient が必要とする通常のログオン・ステップを実行する必要があるため、追加ステップを行う必要があります。ルーズ・アソシエーションでは、ユーザーは、ユーザー ID およびパスワードを指定し、サーバーを選択する必要があります。

統合を確立するための 2 つ目の方法は、最適化アソシエーションです。これにより、シングル・サインオン、および PeopleSoft ポータルから IBM Content Manager eClient へのより最適化されたユーザー・インターフェース・パスが可能になります。PeopleSoft ユーザーにとって、シングル・サインオンの利点は、ユーザー ID とパスワードの入力を、PeopleSoft ポータルにサインオンするときの 1 回しか要求されないことです。PeopleSoft ユーザーが、Content Manager eClient のリンクをナビゲートする場合は、このリンクをクリックするだけです。eClient を使用するために、ユーザー ID およびパスワードを再入力する必要はありません。

最適化アソシエーションを提供するには、ルーズ・アソシエーションの設定以外に、いくつかの追加ステップを実行する必要があります。シングル・サインオンの設定を行うだけでなく、ユーザーがサーバーを選択する必要があるかどうかを決定できます。

これらの統合点のいずれか、または両方を指定できます。PeopleSoft Security の機能を使用すると、PeopleSoft ポータルの pagelet へのアクセスを制御できます。したがって、IBM Content Manager へのリンクのタイプを両方指定して、リンクを含むそれぞれの pagelet ごとに適切なセキュリティを設定することにより、これらのリンクへのユーザー・アクセスを制限することができます。

関連した作業:

36 ページの『IBM Content Manager を使用したルーズ・アソシエーション用 PeopleSoft の構成』

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

17 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のインストール』

IBM Content Manager を使用したルーズ・アソシエーション用 PeopleSoft の構成

ルーズ・アソシエーションは、PeopleSoft ポータルおよび IBM Content Manager を統合する非常に簡単な方法です。統合を行うには、PeopleSoft ポータルから IBM Content Manager eClient Web アプリケーションへのリンクを定義します。ユーザーが Content Manager eClient リンクをクリックすると、eClient が新規ブラウザー・ウィンドウで起動され、eClient Logon ページが開きます。

PeopleSoft ポータルから eClient Logon ページを起動するには、PeopleCode を使用して iScript pagelet を開発する必要があります。pagelet は PeopleSoft ポータルに挿入します。この pagelet は、iScript コードをロードし、ハイパーリンク・テキストを作成します。これによって、ユーザーは、PeopleSoft ポータルから IBM eClient Logon ページにリンクできるようになります。この処理には、PeopleSoft ポータルのカスタマイズが必要です。この処理には以下の 3 つの作業が含まれます。

1. 49 ページの『PeopleSoft Application Designer でのルーズ・アソシエーションの iScript の作成』
2. 55 ページの『ルーズ・アソシエーションに対する iScript コードのセキュリティの使用可能化』
3. 57 ページの『ルーズ・アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成』

関連した作業:

48 ページの『pagelet の構成を開始する前に』

PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成

最適化アソシエーションにより、シングル・サインオンが可能になります。

PeopleSoft ポータルから IBM Content Manager eClient へのユーザーのナビゲーション・ステップは、次のように最適化されます。PeopleSoft ユーザーは、通常どおり PeopleSoft ポータルにログインします。これにより、ユーザーは Content Manager eClient に直接リンクでき、eClient Logon ページでユーザー ID およびパスワードを再入力する必要はありません。

最適化アソシエーションを確立するには、以下の作業を以下の順序で行う必要があります。

1. PeopleSoft cookie が eClient ブラウザー・セッションに渡されるように、PeopleSoft Internet Architecture を構成する。37 ページの『作業 1: PeopleSoft Internet Architecture の構成』を参照してください。
2. pagelet によって PeopleSoft ユーザー ID が Content Manager eClient に渡されるように指定する。38 ページの『作業 2: pagelet 指定の構成』を参照してください。
3. PeopleSoft 認証 cookie の名前が統合プロパティ (IP) ファイルに正しく指定されていることを確認し、PeopleSoft pagelet で使用される eClient URL で指定されている IPFile 要求パラメーターと整合性を持つように、そのファイルを名前変更する。40 ページの『作業 3: 統合プロパティ・ファイルの構成』を参照してください。

4. PeopleSoft および Content Manager 間で、ユーザー ID を同期化する。41 ページの『作業 4: ユーザー ID の同期化』を参照してください。
5. PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース (PRTL_SS_CI) へのアクセスを持つ追加の PeopleSoft ユーザー ID を定義する。41 ページの『作業 5: PeopleSoft コンポーネント・インターフェース ID の定義』を参照してください。
6. 1 つのファイルを Content Manager マシンの特定のディレクトリにコピーする。43 ページの『作業 6: ログオン・ユーザー出口ルーチン・ファイルのコピー』を参照してください。
7. PeopleSoft Application Designer を使用して、PeopleSoft Portal Single Sign-on Component Interface (PRTL_SS_CI) を生成する。44 ページの『作業 7: PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェースの生成』を参照してください。
8. Content Manager が PeopleSoft ユーザーを認証するために使用するファイルに PeopleSoft 構成パラメーターを指定する。47 ページの『作業 8: Content Manager 用の PeopleSoft 構成パラメーターの指定』を参照してください。
9. PeopleSoft のランタイム環境を eClient で使用可能にできます。47 ページの『作業 9: PeopleSoft ランタイムへのアクセス』を参照してください。

作業 1: PeopleSoft Internet Architecture の構成: この作業は、PeopleSoft サーバーのインストール中に実行します。

PeopleSoft cookie が eClient ブラウザー・セッションに渡されるように、PeopleSoft Internet Architecture (PIA) を構成する必要があります。PeopleSoft cookie には、認証のために Content Manager eClient に渡されるユーザーのクリデンシャルが含まれています。PeopleSoft ブラウザー cookie は、PeopleSoft のシングル・サインオンを使用可能にし、たとえば、リソース、Web ページ、コントロール、およびデータベースへのアクセスを制限するために使用されます。

PeopleSoft は、cookie をユーザー・アクセス許可および PeopleSoft のシングル・サインオン用に使用するため、PeopleSoft cookie が常にブラウザー・セッションで使用できるようになっている必要があります。PeopleSoft cookie が eClient ブラウザー・セッションに渡されるようにするには、PIA をインストールする際に、両方のアプリケーション・サーバー (PeopleSoft ポータルおよび Content Manager eClient) を含む認証ドメインを 1 つ指定する必要があります。PeopleSoft は、この認証ドメイン (authTokenDomain) を呼び出します。

要件: PIA のインストール中に認証ドメインを指定する際に、ドメイン・ネームはピリオド (.) から開始する必要があります。組み込みブランクは使用しないでください。たとえば、これら両方のアプリケーション・サーバーが属するドメインが abc.def.ghi.com の場合、ユーザーのドメイン仕様は .abc.def.ghi.com でなければなりません。後でユーザーは、PeopleSoft ポータルにアクセスするために使用する URL で完全修飾ホスト名を指定する必要があります。これらの変更を行わないと、ユーザーは PeopleSoft ポータル・ホーム・ページを開くことはできません。

PeopleSoft ポータルおよび eClient にアクセスするために使用されるブラウザーには、cookie を正しく処理するために、ブラウザーにセキュリティー設定が行われていることを確認します。Microsoft Internet Explorer では、Internet Options の

Security を設定して、per-session cookie を使用可能にします。per-session cookie が使用不可になっていると、これらのページにアクセスできません。Netscape Navigator では、すべての cookie を受信するか、発信側サーバーに送信して戻される cookie のみを受信する必要があります。すべての cookie が使用不可になっていると、これらのページにアクセスできません。先に進む前に、cookie が使用可能になっていることをチェックしてください。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

『作業 2: pagelet 指定の構成』

135 ページの『cookie を受け入れるためのブラウザの使用可能化』

作業 2: pagelet 指定の構成: この作業では、PeopleSoft Internet Architecture (PIA) が既に構成され、PeopleSoft ポータルおよび eClient が、同一ドメインに配置されていることが前提となっています。この作業は、PeopleSoft Enterprise Portal 上で実行します。

この作業の場合には、Content Manager eClient を PeopleSoft ポータルにリンクする pagelet を構成する必要があります。Content Manager eClient URL、PeopleSoft ユーザー ID、および (ユーザーが選択する iType に応じて) サーバー名およびサーバー・タイプを含む PeopleSoft Internet Script (iScript) コードを指す pagelet を作成する必要があります。pagelet を作成するには、iScript を作成する必要があります。iScript には、eClient Logon ウィンドウ、または特定の Content Manager データベースのいずれかの場所を指す URL が含まれています。

ルーズ・アソシエーションおよび最適化アソシエーション用 pagelet を作成するステップは、URL の構造以外は同様です。ルーズ・アソシエーションの場合、Content Manager eClient Logon Window を指す必要があります。次のような URL となります。

`http://host.abc.def.ghi.com/eClient82/IDMInit`

最適化アソシエーションの場合の URL は、次のようになります。

`http://host.abc.def.ghi.com/eClient82/IDMIntegrator?
&ReleaseLevel=PEOPLESFTV840&IPFile=PeopleSoft
&iType=logon&userid=PS`

または、次のような場合もあります。

`http://host.abc.def.ghi.com/eClient82/IDMIntegrator?
&ReleaseLevel=PEOPLESFTV840&IPFile=PeopleSoft
&iType=connection&server=ICMNLADB&serverType=Fed&userid=PS`

URL ステートメントは、ホスト名 (*host name*)、eClient アプリケーションの場所 (*eClient application name*)、サーブレット名 (*servlet name*)、引き数プロパティ (*argument properties*) を指定する必要があります。たとえば、`http://host name/eClient application name/servlet name?argument properties` となります。

シングル・サインオンで有効な URL には、サーブレット仕様 (最適化アソシエーションを呼び出すための IDMIntegrator)、4 つの必須パラメーター (リリース・レ

ベル引き数、統合プロパティ・ファイル名、iType、および ID)、および 2 つのオプション・パラメーター (server および serverType 引き数) が含まれています。

URL には、以下の引き数プロパティが含まれています。

ReleaseLevel

このプロパティは、PeopleTools アプリケーションのリリース・レベルを示しています。受け入れ可能な有効値は、ReleaseLevel=PEOPLESOFTV840 または ReleaseLevel=PEOPLESOFTV841 です。

IPFile このプロパティは、統合プロパティ・ファイル名を指定します。IP ファイルは、拡張子 .properties を持ちますが、URL に IPFile 値を指定する際に、.properties は組み込みません。IPFile プロパティの大文字小文字の区別は、プラットフォームによって異なります。統合プロパティ・ファイルについて詳しくは、40 ページの『作業 3: 統合プロパティ・ファイルの構成』を参照してください。

iType このプロパティは、使用する統合タイプを指定します。PeopleSoft の場合、iType=logon または iType=connection のいずれかを指定します。server および serverType プロパティを指定しない場合には、iType=logon を使用します。この設定によって、PeopleSoft ユーザーは、手でサーバーを選択できます。eClient に定義されているバックエンド・サーバーが 1 つだけの場合、ユーザーは、eClient により、このサーバーのホーム・ページに直接アクセスすることができます。iType=connection を使用する場合には、server パラメーターを指定する必要があります。serverType が指定されていない場合には、serverType は Fed になります。ユーザーに Fed 以外の serverType (たとえば、ICM) にログインさせる場合には、serverType を URL または統合プロパティ・ファイルのいずれかで指定します。iType=connection 設定によって、ユーザーは直接サーバーのホーム・ページにリンクできます。

server このプロパティは、eClient が接続する Content Manager サーバー・データベースの名前です。server は、iType=connection が使用されている場合、必ず指定します。たとえば、server=ICMNLSDDB と指定します。この値が統合プロパティ・ファイルでも指定されている場合には、URL で指定されている値が優先されます。

serverType

このプロパティは、eClient が接続する Content Manager サーバーのタイプです。有効な指定は、serverType=ICM または serverType=Fed です。iType=connection の場合、serverType は自動的に serverType=Fed になります。ユーザーに他の serverType (たとえば、ICM) にログインさせる場合には、URL または統合プロパティ・ファイルで serverType=ICM を指定する必要があります。serverType プロパティを指定する場合、server プロパティと同じ場所に指定します。たとえば、server および serverType を URL または統合プロパティ・ファイルのいずれかで指定します。serverType 値が統合プロパティ・ファイルでも指定されている場合には、URL で指定されている値が優先されます。

ユーザー ID

このプロパティーは、PeopleSoft ポータルへのサインオンで使用されたユーザー ID を指定し、Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースへのログオンで使用されます。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

37 ページの『作業 1: PeopleSoft Internet Architecture の構成』

『作業 3: 統合プロパティー・ファイルの構成』

48 ページの『pagelet の構成を開始する前に』

59 ページの『最適化アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成』

作業 3: 統合プロパティー・ファイルの構成: この作業では、ユーザーが既に最適化アソシエーションに対して PeopleSoft pagelet を作成していることが前提となっています。この作業は、eClient サーバー上で実行します。

PeopleSoft.properties という名前のサンプル統合プロパティー・ファイルは、eClient と一緒にインストールされます。このファイルは、*ECLIENTROOT\CMClient* ディレクトリーにあります。ここで、*ECLIENTROOT* は、Content Manager eClient のインストール先です。PeopleSoft pagelet で使用される eClient URL で指定された IPFile 要求パラメーターと整合性を持つように、ファイルの名前を変更します。このファイルで指定されているプロパティーは以下のとおりです。

authCookie

このプロパティーは、PeopleSoft がシングル・サインオンで使用する認証 cookie 名を指定します。このプロパティーは、authCookie=PS_TOKEN でなければなりません。

server このプロパティーは、eClient が接続する Content Manager サーバー・データベースの名前です。server は、iType=connection が使用されている場合、必ず指定します。たとえば、server=ICMNLSDDB と指定します。この値が URL でも指定されている場合には、URL で指定されている値が優先されます。

serverType

このプロパティーは、eClient が接続する Content Manager サーバーのタイプです。有効な指定は、serverType=ICM または serverType=Fed です。iType=connection の場合、serverType は自動的に serverType=Fed になります。ユーザーに他の serverType (たとえば、ICM) にログインさせる場合には、URL または統合プロパティー・ファイルで serverType=ICM を指定する必要があります。serverType プロパティーを指定する場合、server プロパティーと同じ場所に指定します。たとえば、server および serverType を URL または統合プロパティー・ファイルのいずれかで指定します。serverType 値が統合プロパティー・ファイルでも指定されている場合には、URL で指定されている値が優先されます。

type このプロパティーは、プレゼンテーション・タイプを指定します。eClient

Web ページに組み込むオブジェクトおよび機能を指定します。PeopleSoft の場合、type=3 を指定する必要があります。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

38 ページの『作業 2: pagelet 指定の構成』

『作業 4: ユーザー ID の同期化』

作業 4: ユーザー ID の同期化: この作業では、統合プロパティ・ファイルおよび pagelet 仕様が既に構成されていることが前提となっています。この作業は、PeopleSoft サーバーおよび Content Manager System Administration クライアント上で実行します。

シングル・サインオンの機能を正常にインプリメントするには、ユーザー ID は、PeopleSoft および Content Manager 間で同期化する必要があります。Content Manager にシングル・サインオン・アクセスするユーザーは、PeopleSoft および Content Manager の両方に同じユーザー情報を持っている必要があります。

ユーザー ID を同期化したら、PeopleSoft から Content Manager へのユーザーを認証するために、PeopleSoft を構成する必要があります。**LDAP ユーザー認証と、PeopleSoft Integration for IBM Content Manager は、同時に使用できません。**いずれか 1 つを選択します。両方選択することはできません。

ユーザーが PeopleSoft のシングル・サインオンで IBM Content Manager eClient にログオンすると、ユーザー状況は、PeopleSoft ポータルおよび IBM Content Manager eClient 全体で同期化しません。ユーザーは、PeopleSoft のシングル・サインオンで IBM Content Manager eClient にログインできます。これでユーザーは、PeopleSoft ポータルにおけるサインオン状況に影響を与えることなく、Content Manager eClient からログオフできます。逆に、ユーザーは、IBM Content Manager eClient のログイン状況に影響を与えることなく、PeopleSoft ポータルからサインオフできます。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

40 ページの『作業 3: 統合プロパティ・ファイルの構成』

『作業 5: PeopleSoft コンポーネント・インターフェース ID の定義』

作業 5: PeopleSoft コンポーネント・インターフェース ID の定義: この作業では、シングル・サインオン用にユーザー ID が同期化されていることが前提となっています。この作業は、PeopleSoft Enterprise Portal 上で実行します。

PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース (PRTL_SS_CI) へのアクセスを持つ特別な PeopleSoft ユーザー ID を定義します。PRTL_SS_CI は、Content Manager に対する PeopleSoft ポータルを識別することで、

サインオンを許可します。PeopleSoft ユーザー ID が Content Manager に接続する際に、Content Manager は PRTL_SS_CI を使用して、そのユーザー ID を Content Manager での有効なユーザー ID として認証します。PRTL_SS_CI への完全なアクセスを持つ固有ユーザー ID を、その許可リストに定義して使用する必要があります。この定義した固有ユーザー ID は、PeopleSoft ポータルへのサインオンには使用しないでください。セキュリティの機密漏れを除去するには、このユーザー ID に以下のステップで示されている以上の許可を認可しないでください。

1. 許可リストを作成する。

- a. PeopleSoft ポータルの「Enterprise Menu」で、「**PeopleTools**」→「**Security**」→「**Permissions & Roles**」→「**Permission Lists**」と選択する。
- b. 「**Add a New Value**」タブをクリックし、許可リスト名を入力する。この例では、名前は PERMISSION_PRTL_SS_CI です。名前はどのような名前でも付けることができます。
- c. 新規許可リストに名前を付けたら、「**Add**」をクリックする。「Permission Lists」ページが表示されます。
- d. 「**Component Interfaces**」タブをクリックする。このタブを表示するには、右矢印をクリックする必要がある場合があります。
- e. 「**Name**」フィールドに、PRTL_SS_CI と入力し、「**Edit**」をクリックする。
- f. メソッド **Authenticate**、**Get**、および **Get_UserID** が **Full Access** を持つように指定し、「**OK**」をクリックする。
- g. 「Permission Lists」ページの残りのフィールドに必要な応じて入力する。アスタリスク (*) は必要フィールドであることを示しています。
- h. 「Permission Lists」ページの入力を終了したら、「**Save**」をクリックする。

2. 役割を作成する。

- a. PeopleSoft ポータルの「Enterprise Menu」で、「**PeopleTools**」→「**Security**」→「**Permission & Roles**」→「**Roles**」と選択する。
- b. 「**Add a New Value**」タブをクリックし、役割の名前を入力する。この例では、名前は ROLE_PRTL_SS_CI です。名前はどのような名前でも付けることができます。
- c. 新規役割に名前を付けたら、「**Add**」をクリックする。「Roles」ページが表示されます。
- d. 「**General**」タブをクリックし、この役割の説明を入力する。
- e. 「**Permission Lists**」タブをクリックする。
- f. ステップ 1 (36 ページ) で定義した許可リスト名、たとえば、PERMISSION_PRTL_SS_CI を入力する。使用する許可リストの正確な名前が不明な場合には、「**Permission List**」フィールドの横の拡大鏡をクリックします。戻された結果から選択した許可リストは、「**Permission List**」フィールドに配置されます。
- g. 「Roles」ページの残りのフィールドに必要な応じて入力する。アスタリスク (*) は必要フィールドであることを示しています。
- h. 「Roles」ページの入力を終了したら、「**Save**」をクリックする。

3. ユーザーを作成する。

- a. PeopleSoft ポータルの「Enterprise Menu」で、「**PeopleTools**」→「**Security**」→「**User Profiles**」→「**User Profiles**」と選択する。
- b. 「**Add a New Value**」タブをクリックし、ユーザー名を入力する。この例では、名前は `USER_PRTL_SS_CI` です。名前はどのような名前でも付けることができます。
- c. 新規ユーザーに名前を付けたら、「**Add**」をクリックする。「User Profiles」ページが表示されます。
- d. 「**General**」タブをクリックする。パスワードを入力し、次にそのパスワードを再入力して、パスワードの再確認を行います。
- e. 「**ID**」タブをクリックし、「**ID type**」に「**None**」を選択する。
- f. 「**Roles**」タブをクリックし、「**Role Name**」に `ROLE_PRTL_SS_CI` と入力する。必要な役割の正確な名前が不明な場合には、「**Role Name**」フィールドの横の拡大鏡をクリックします。戻された結果から選択する役割名は、「**Role Name**」フィールドに配置されます。
- g. 「**Save**」をクリックする。「**Symbolic ID**」に値を指定しないと、警告メッセージが表示されます。シンボリック ID は、AccessID の検索キーとして使用されます。シンボリック ID について詳しくは、PeopleSoft の資料を参照してください。
- h. 「**OK**」をクリックしてメッセージを受け入れる。

これで、ユーザー・アカウントが作成され、シングル・サインオンのユーザー出口ルーチン、すなわちログオン・ユーザー出口ルーチンで使えるようになりました。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

41 ページの『作業 4: ユーザー ID の同期化』

『作業 6: ログオン・ユーザー出口ルーチン・ファイルのコピー』

作業 6: ログオン・ユーザー出口ルーチン・ファイルのコピー: この作業では、固有のユーザー ID が、PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース (`PRTL_SS_CI`) への完全アクセスを付けて作成されていることが前提です。この作業は、Content Manager ライブラリー・サーバー・データベース上で実行します。

ユーザー出口は、ユーザー出口ルーチンに制御を渡すことが可能な、事前定義されたコード内の場所です。ユーザー出口ルーチンは、プラグインとして動作し、ユーザー出口で定義されたインターフェースを順守する必要があります。ログオン・ユーザー出口ルーチンは、PeopleSoft 認証との妥当性検査を行うインターフェースを提供します。シングル・サインオンを許可するには、ユーザー・インターフェース・ルーチンを適切に構成する必要があります。

PeopleSoft におけるシングル・サインオンでは、Content Manager スタックの変更が必要です。1 つのファイルを Content Manager マシンの特定のディレクトリーにコピーしてください。PeopleSoft ポータルおよび Content Manager eClient は、別々の

マシンおよびアプリケーション・サーバー・タイプ上に配置できますが、ただし、お互いに通信可能になっている必要があります。実際に、eClient は PeopleSoft シングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース (PTRL_SS_CI) を使用して、信任状を認証します。eClient はその認証ステップの結果をログオン・ユーザー出口ルーチンに送信し、このルーチンで認証プロセスは完了します。

ログオン・ユーザー出口ルーチンでサポートされているバックエンド・サーバーのコネクターは、IBM Content Manager (ICM) バージョン 8 コネクター、および Enterprise Information Portal バージョン 8 統合コネクターです。ICMXLSLG.DLL という名前のファイルを、Windows の場合はディレクトリー `ICMROOT¥integration¥peoplesoft` から、または UNIX ベースのオペレーティング・システムの場合はディレクトリー `ICMDLL/database name/DLL/` から、ディレクトリー `ICMROOT¥database name¥DLL` にコピーする必要があります。ここで、`ICMROOT` は Content Manager のインストール先、`ICMDLL` は `ICMDLL` 環境変数の値、`database name` は Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースの名前です。このステップは、自動的には行われません。これは、PeopleSoft と統合していないお客様の場合、パフォーマンスが低下することがあり、このファイルのコピーによって、LDAP ログオン・ユーザー出口ルーチン・ファイルが上書きされ、LDAP を使用してユーザー認証が置き換えられることがあるためです。

制約事項: LDAP 認証と、PeopleSoft のシングル・サインオンは、同時に使用できません。どのような場合でも、同時に指定できるログオン・ユーザー出口ルーチンは 1 つだけです。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

41 ページの『作業 5: PeopleSoft コンポーネント・インターフェース ID の定義』

『作業 7: PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェースの生成』

作業 7: PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェースの生成: この作業では、既に ICMXLSLG.DLL を適切な場所にコピーしてあることが前提となっています。この作業は PeopleSoft サーバーおよび eClient サーバー上で実行します。

PeopleSoft Application Designer を使用して、PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース (PTRL_SS_CI) を生成する必要があります。Application Designer を使用するには、以下を行う必要があります。

- ICMPSO0.java で必要なパッケージを作成しコンパイルする。
- ICMPSO0.java をコンパイルする。
- これらのクラス・ファイルすべてを適切なディレクトリーにインストールする。

ファイル ICMPSO0.java は、eClient サーバー・マシン上の `ECLIENTROOT¥integration¥peoplesoft` という名前のディレクトリーにあります。ここで、`ECLIENTROOT` は eClient のインストール先です。

PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース PRTL_SS_CI によって、シングル・サインオンのソリューションは、PeopleSoft ポータルと統合できます。PeopleSoft Application Designer を使用して、PRTL_SS_CI API をサポートするクラスを作成します。この API を使用可能にするには、以下のステップを実行してください。

1. ログイン・ユーザー出口ルーチンで PeopleSoft との通信を行うために、PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース (PRTL_SS_CI) API を生成する。コンポーネント・インターフェースをサポートする、事前に必要とされる PeopleSoft Java クラスを生成するには、以下のステップを実行してください。
 - a. PeopleSoft Application Designer を開き、サインオンする。
 - b. Application Designer で、「**File**」→「**Open**」と選択する。「Open Definition」ウィンドウが開きます。
 - c. 「Open Definition」ウィンドウで、「**Definition**」→「**Component Interface**」とクリックする。
 - d. 「**Selection Criteria**」グループで、「**Name**」フィールドに PRTL_SS_CI と入力し、「**Open**」をクリックする。「PRTL_SS_CI (Component Interface)」ウィンドウが開きます。
 - e. Application Designer のメイン・ウィンドウで、「**Build**」→「**PeopleSoft APIs**」と選択する。「Build PeopleSoft API Bindings」ウィンドウが開きます。
 - f. 「Build PeopleSoft API Bindings」ウィンドウでは、デフォルトで、「**COM Type Library**」グループおよび「**Java Classes**」グループに対して、「**Build**」チェック・ボックスが選択されています。「**COM Type Library**」グループのチェック・ボックスをクリアする。
 - g. 「**Java Classes**」グループに、ターゲット・ディレクトリー名を入力する。たとえば、ディレクトリー C:¥CM_SS0 を使用できます。
 - h. 同じウィンドウに、作成する API のリストがあります。「**All**」をクリックし、作成するすべての API を選択し、「**OK**」をクリックする。
 - i. PeopleSoft Application Designer を閉じる。
2. 直前のステップで生成された PeopleSoft Java コードをコンパイルする。
psjoa.jar の絶対パスは、CLASSPATH で設定するか、コマンド行パラメーターで指定する必要があります。このステップを行うために、以下のコマンドをコマンド・ウィンドウで実行できます (以下のステップでは、直前のステップの「**Java Classes**」グループで、C:¥CM_SS0 をターゲット・ディレクトリーとして指定してあることが前提となっています)。
 - a. C: と入力する。
 - b. CD ¥CM_SS0¥PeopleSoft¥Generated¥CompIntfc と入力する。
 - c. javac -classpath PS_HOME¥class¥psjoa.jar *.java と入力する。ここで、PS_HOME は、PeopleSoft のインストール先です。
 - d. CD ¥CM_SS0¥PeopleSoft¥Generated¥PeopleSoft と入力する。
 - e. javac -classpath PS_HOME¥class¥psjoa.jar *.java と入力する。ここで、PS_HOME は PeopleSoft のインストール先です。

- f. 2 つの PeopleSoft パッケージ (PeopleSoft.Generated.CompIntfc および PeopleSoft.Generated.PeopleSoft) のクラスは、eClient が使用できなければならないものです。したがって、ユーザーの PeopleSoft 使用条件によっては、それらのクラスを eClient サーバーにコピーする許可が認められている場合があります。たとえば、WebSphere Application Server Advanced Edition for Windows では、生成されたクラス用に以下のディレクトリーが使用されません。

```
ECLIENTROOT¥installedApp¥eClient82.ear¥eClient82.war¥WEB-INF¥classes¥PeopleSoft¥Generated¥CompIntfc¥
```

および

```
ECLIENTROOT¥installedApp¥eClient82.ear¥eClient82.war¥  
WEB-INF¥classes¥PeopleSoft¥Generated¥PeopleSoft¥
```

ユーザーの PeopleSoft 使用条件でクラス・ファイルのコピーが許可されていない場合は、WebSphere Application Server を構成して、PeopleSoft サーバー上でそれらのファイルにアクセスする必要があります。

3. 次のステップで ICMPSSSO.java をコンパイルするために、2 つの PeopleSoft パッケージ (PeopleSoft.Generated.CompIntfc および PeopleSoft.Generated.PeopleSoft) が常駐するディレクトリーの場所を CLASSPATH に追加する。これら 2 つのパッケージのクラス・ファイルは、ランタイム・コードからアクセスするために、CLASSPATHに残っている必要があります。
4. eClient と一緒にインストールされている ICMPSSSO.java ファイルをコンパイルする。psjoa.jar の絶対パスは、CLASSPATH で設定するか、コマンド行パラメーターで指定する必要があります。このステップを行うには、次のコマンドをコマンド・ウィンドウで実行します。
- a. CD `ECLIENTROOT¥integration¥peoplesoft` と入力する。ここで、`ECLIENTROOT` は eClient のインストール先です。
 - b. `javac -classpath PS_HOME¥class¥psjoa.jar ICMPSSSO.java` と入力する。ここで、`PS_HOME` は PeopleSoft のインストール先です。
 - c. クラス・ファイルを eClient サーバーにコピーする。たとえば、WebSphere Application Server Advanced Edition for Windows では、このクラス用に以下のディレクトリーが使用されます。

```
ECLIENTROOT¥installedApp¥eClient82.ear¥eClient82.war¥WEB-INF¥classes¥
```

重要: ファイル `ICMPSSSO.class` は eClient が使用できなければならないファイルです。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

43 ページの『作業 6: ログオン・ユーザー出口ルーチン・ファイルのコピー』

47 ページの『作業 8: Content Manager 用の PeopleSoft 構成パラメーターの指定』

作業 8: Content Manager 用の PeopleSoft 構成パラメーターの指定: この作業では、PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース API が既に使用可能になっていることが前提となっています。この作業は、eClient サーバー上で実行します。

eClient が PeopleSoft ユーザーの認証に使用する PeopleSoft 構成パラメーターを ICMPSSSO.properties ファイルに指定します。これらの構成パラメーターには、PeopleSoft サーバー名、PeopleSoft サーバーが listen 中のポート、および接続用ユーザー ID およびパスワードが含まれています。ユーザー ID およびパスワードの値は、41 ページの『作業 5: PeopleSoft コンポーネント・インターフェース ID の定義』の指示に従って追加したものです。

eClient は PeopleSoft コンポーネント・インターフェースと通信するために、PeopleSoft ソフトウェアのインストール先を認識していなければなりません。eClient を構成するには、ICMPSSSO.properties という名前のファイルを編集する必要があります。このファイルは ECLIENTROOT¥integration¥peoplesoft¥ というディレクトリーにあります。

ICMPSSSO.class ファイルを配置したのと同じディレクトリーに、ICMPSSSO.properties ファイルをコピーします。エディターで ICMPSSSO.properties ファイルを開き、以下の名前と値の対を変更します。

ServerName=PSServer

認証を行う PeopleSoft サーバーの名前

ServerPort=PSPort

PeopleSoft サーバーが listen 中のポート番号

UserID=USER_PRTL_SS_CI

PRTL_SS_CI コンポーネント・インターフェース関数の実行を許可されたユーザー ID

Password=UserIDpassword

ユーザー ID のパスワード

ICMPSSSO.properties を変更した後、保管します。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

44 ページの『作業 7: PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェースの生成』

『作業 9: PeopleSoft ランタイムへのアクセス』

作業 9: PeopleSoft ランタイムへのアクセス: この作業では、ICMPSSSO.class ファイルと同じディレクトリーに、ICMPSSSO.properties ファイルの変更済みコピーがあることが前提となっています。この作業は、eClient サーバー上で実行します。

注: eClient には、WebSphere Application Server の CLASSPATH の PeopleSoft ランタイム・ファイルへのアクセスが必要です。このランタイム・ファイルは

psjoa.jar という名前の JAR ファイルです。デフォルトの PeopleSoft 8.4 のインストールでは、psjoa.jar は PS_HOME¥web¥psjoa¥psjoa.jar にあります。たとえば、WebSphere Application Server Advanced Edition では、ECLIENTROOT¥installedApps¥eClient82.ear¥eClient82.war¥WEB_INF¥lib¥psjoa.jar というディレクトリーが使用されます。PeopleSoft 使用条件によっては、PeopleSoft ランタイム・ファイルを eClient サーバーにコピーする許可が認められている場合があります。PeopleSoft 使用条件でランタイム・ファイルのコピーが許可されていない場合は、WebSphere Application Server を構成して、PeopleSoft サーバー上でそのファイルにアクセスする必要があります。

ICMPSSSO.properties を正しく構成していない場合には、Content Manager はユーザーのログオンを許可しません。シングル・サインオン・パスの最初のテストで問題が発生した場合には、Content Manager マシン上のログ・ファイルで以下の戻りコードを確認してください。デフォルトのログ・ファイル名は ICMSEVER.LOG です。ロギングおよびトレースを設定している場合、ログ・ファイルはその戻りコードを記録します。障害の内容に応じて、以下の戻りコードの 1 つを受信することができます。

7123 RC_INVALID_PARAMETER: 無効なポインターまたは値があります。

7006 RC_DLL_LOAD_ERROR: Content Manager は DLL をロードできません。

7011 RC_GET_PROC_ADDRESS_ERROR: Content Manager はプロシージャーを取得できません。

ICMPSSSO.properties を正しく構成している場合には、ログ・ファイルは戻りコード 0 をリストします。

システム管理クライアントの Content Manager System Administration Library Server Configuration Log and Trace ウィンドウで、ロギングおよびトレースをオンにすることができます。

関連した概念:

36 ページの『PeopleSoft および IBM Content Manager の最適化アソシエーションの構成』

関連した作業:

47 ページの『作業 8: Content Manager 用の PeopleSoft 構成パラメーターの指定』

関連リファレンス:

147 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』

pagelet の構成を開始する前に

pagelet の構成を開始する前にブラウザーからキャッシュを削除して、ブラウザーの設定に、変更する必要がある pagelet に対して行う変更が使用されるようにする必要があります。キャッシュの内容を削除しないと、pagelet に行う変更は無視されます。

キャッシュを削除するには、以下のステップを実行してください。

1. WebSphere Application Server を停止する。
2. PeopleSoft アプリケーション・サーバーを停止する。 PeopleSoft アプリケーション・サーバーを停止する手順については、PeopleSoft の資料を参照してください。
3. PeopleSoft アプリケーション・サーバー・キャッシュ
`PS_HOME¥appserv¥PSEP¥cache` を削除する。ここで、`PS_HOME` は、PeopleSoft ファイルのインストール先、`PSEP` は使用する PeopleSoft バージョン名です。たとえば、PeopleSoft 8.40 は、`PSEP84` です。
4. WebSphere PeopleSoft サーバー・キャッシュ
`WebSphere¥AppServer¥installedApps¥peoplesoft¥portal¥ps¥cache` を削除する。ここで、`WebSphere` は WebSphere ファイルのインストール先です。
5. PeopleSoft アプリケーション・サーバーを開始する。PeopleSoft アプリケーション・サーバーを開始する手順については、PeopleSoft の資料を参照してください。
6. WebSphere Application Server を開始する。

関連した作業:

『PeopleSoft Application Designer でのルーズ・アソシエーションの iScript の作成』

51 ページの『PeopleSoft Application Designer での最適化統合用 iScript の作成』

PeopleSoft Application Designer での iScript の作成

PeopleSoft Application Designer でのルーズ・アソシエーションの iScript の作成: この作業では、48 ページの『pagelet の構成を開始する前に』のすべての作業が既に完了していることが前提となっています。

iScript は、eClient Logon ウィンドウの場所を定義します。iScript の開発は、以下の規則を理解して行います。

- eClient URL は、HTML 定義で行う。
- HTML 定義は、FieldFormula 形式、すなわち iScript 形式で行う。
- FieldFormula は、Field 内にあること。
- Field は、Record 内にあること。
- PeopleSoft ポータルには柔軟性があるため、PeopleSoft Application Designer を使用せずに、ユーザー自身が希望するメソッドを使用して pagelet を作成できる。本書では、PeopleSoft Application Designer を使用した pagelet の作成方法のみを説明しています。

1. PeopleSoft Application Designer を開く。PeopleTools 8.4 のインストールでは、Application Designer はデフォルトで `PS_HOME¥bin¥client¥winx86¥pside.exe` に配置されています。ここで、`PS_HOME` は、PeopleSoft ファイルのインストール先です。

PeopleSoft Application にサインオンする際の Application Server Name は、PeopleTools がインストールされている場所のサーバーです。確実に権限を持つ

ているユーザー ID およびパスワード、たとえば、システム管理者の ID を使用してください。**重要:** PeopleSoft では、ユーザー ID およびパスワードは大文字小文字の区別があります。

2. HTML 定義を作成する。

- a. Application Designer で、「**File**」→「**New**」と選択する。「New Definition」ウィンドウが開きます。
- b. 「**HTML**」を選択し、「**OK**」をクリックする。HTML を構成するウィンドウが開きます。
- c. たとえば、Click `here` to log in to the IBM CM eClient という HTML ステートメントを入力する。
- d. ホスト名、たとえば、host.abc.def.ghi.com を Content Manager eClient が常駐するホストの DNS 名に置き換える。デフォルトの eClient インストール・パスを受け入れない場合、eClient82 を変更する必要があります。サンプル・リンクは、Click here to login to the IBM Content Manager eClient. となっています。使用したいプロンプトの語句を選択します。PeopleSoft の英語バージョンでは、ポータブル ASCII 文字セットのみを使用します。
- e. この時点で、「**File**」→「**Save As**」と選択し、この新規ファイルを保管する。この例では、HTML ファイルは LOOSEHTML として保管されます。名前はどのような名前でも付けることができます。

3. フィールド定義を作成する。

- a. Application Designer で、「**File**」→「**New**」と選択する。「New Definition」ウィンドウが開きます。
- b. 「**Field**」を選択し、「**OK**」をクリックする。「Field」ウィンドウが開きます。
- c. 「**Label ID**」、「**Long Name**」、および「**Short Name**」を指定する。「**Def**」チェック・ボックスは、自動的に選択されています。これ以外の項目は、デフォルト値のままにしておくことができます。
- d. 「**File**」→「**Save As**」と選択し、新規フィールドを保管する。この例では、フィールド定義は LOOSEFIELD として保管されています。名前はどのような名前でも付けることができますが、既に使用されている名前は使用できません。

4. レコード定義を作成する。

- a. Application Designer で、「**File**」→「**New**」と選択する。「新規の定義 (New Definition)」ウィンドウが開きます。
- b. 「**レコード (Record)**」を選択し、次に「**了解 (OK)**」をクリックする。「Record」ウィンドウが開きます。
- c. PeopleSoft Application Designer のメイン・ウィンドウで、「**Insert**」→「**Field**」と選択する。「Insert Field」ウィンドウが開きます。
- d. 「**選択基準名 (Selection Criteria Name)**」フィールドに名前を入力する。ステップ 3 で指定したのと同じ名前、たとえば、LOOSEFIELD を使用します。

- e. 「**Insert**」をクリックする。このアクションで、「**Record**」ウィンドウに作成したフィールドが挿入され、作成中のレコードの一部になります。
 - f. 「**Insert Field**」ウィンドウを閉じる。
 - g. 「**Record**」ウィンドウで、「**Record Type**」タブをクリックする。
 - h. レコード・タイプとして、「**Derived/Work**」ラジオ・ボタンを選択する。
 - i. 「**File**」→「**Save As**」と選択し、レコード名を入力する。この例では、名前は **WEBLIB_LOOSEREC** です。**要件:** レコード名は、**WEBLIB_** で開始して作業する必要があります。
5. iScript **PeopleCode** を編集する。
- a. 「**Record**」ウィンドウで、「**Record Fields**」タブをクリックする。
 - b. たった今挿入したフィールドを表す行を右マウス・ボタン・クリックし (この例では **LOOSEFIELD** という名前のフィールド)、「**View PeopleCode**」をクリックする。「**Record PeopleCode**」ウィンドウが開きます。このウィンドウのタイトルは、ピリオド (.) で分離された以下の値を持つstringです。
 - レコード定義名 (たとえば、**WEBLIB_LOOSEREC**)
 - フィールド定義名 (たとえば、**LOOSEFIELD**)
 - PeopleSoft イベント名、**FieldFormula**
 - c. 左側のリストに、ユーザーが指定したフィールド名、たとえば、**LOOSEFIELD** が表示されていることを確認する。
 - d. 右側のリストに **FieldFormula** が表示されていることを確認する。このウィンドウの広い編集可能な部分に、以下のコードを入力します。

```
Function IScript_CMLOOSELOG()  
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.LOOSEHTML));  
End-Function;
```

ここで、
 - **CMLOOSELOG** は、ユーザーの iScript 関数名である。
 - **LOOSEHTML** は、ステップ 2 (50 ページ) で作成した **HTML** ファイルである。
 - e. スクリプトの編集の終了時に、「**File**」→「**Save**」と選択してそのスクリプトを保管する。
6. PeopleSoft Application Designer の使用を終了したら、ツールを閉じることができる。

iScript を作成した後は、その iScript へのアクセスを制限する必要があります。この作業を 55 ページの『ルーズ・アソシエーションに対する iScript コードのセキュリティの使用可能化』で行います。

PeopleSoft Application Designer での最適化統合用 iScript の作成: この作業では、48 ページの『pagelet の構成を開始する前に』のすべての作業が既に完了していることが前提となっています。

iScript は、eClient Logon ウィンドウの場所を定義します。iScript の開発は、以下の規則を理解して行います。

- eClient URL は、HTML 定義で行う。
- HTML 定義は、FieldFormula 形式、すなわち iScript 形式で行う。
- FieldFormula は、Field 内にあること。
- Field は、Record 内にあること。
- PeopleSoft ポータルには柔軟性があるため、PeopleSoft Application Designer を使用せずに、ユーザー自身が希望するメソッドを使用して pagelet を作成できる。本書では、PeopleSoft Application Designer を使用した pagelet の作成方法のみを説明しています。

最適化統合の場合、3 つの HTML 定義を作成する必要があります。これらのステップで、プロンプトのメッセージを選択します。PeopleSoft の英語バージョンでは、ポータブル ASCII 文字セットのみを使用します。

1. PeopleSoft Application Designer を開く。PeopleTools 8.4 のインストールでは、Application Designer はデフォルトで `PS_HOME\bin\client\winx86\pside.exe` に配置されています。ここで、`PS_HOME` は、PeopleSoft ファイルのインストール先です。

PeopleSoft Application にサインオンする際の Application Server Name は、PeopleTools がインストールされている場所のサーバーです。確実に権限を持っているユーザー ID およびパスワード、たとえば、システム管理者の ID を使用してください。**重要:** PeopleSoft では、ユーザー ID およびパスワードは大文字小文字の区別があります。
2. HTML 定義を作成する。
 - a. PeopleSoft Application Designer で、「**File**」→「**New**」と選択する。「New Definition」ウィンドウが開きます。
 - b. スクロールダウンして「HTML」を選択し、「**OK**」をクリックする。HTML を構成するウィンドウが開きます。
 - c. 3 つの HTML ステートメントの部分の最初の部分を入力する。たとえば、pagelet に Click here to automatically log in to the IBM CM eClient. と読み取らせる場合、HTML の先頭の部分は Click になっている必要があります。「**File**」→「**Save As**」と選択し、新規ファイルを保管します。このファイルが、最適化アソシエーションの HTML ステートメントの最初の部分であることを示す名前、たとえば、HTML_CM_LEAD を指定します。
 - d. 2 番目の HTML 定義を作成する。「**File**」→「**New**」と選択します。「New Definition」ウィンドウが開きます。スクロールダウンして「HTML」を選択し、「**OK**」をクリックします。HTML を構成するウィンドウが開きます。3 つの HTML ステートメントの真中の部分を入力します。この例では、pagelet は Click here to automatically log in to the IBM CM eClient. を読み取ります。HTML の真中の部分は、here になっていなければなりません。「**File**」→「**Save As**」と選択して、この新規ファイルを保管します。このファイルに、最適化アソシエーションに対する HTML ステートメントのリンクが含まれていることを示す名前、たとえば、HTML_CM_LINK を指定します。
 - e. 3 番目の HTML 定義を作成する。「**File**」→「**New**」と選択します。「New Definition」ウィンドウが開きます。スクロールダウンして「HTML」を選択し、「**OK**」をクリックします。HTML を構成するウィンドウが開きます。3 つの HTML ステートメントの最後の部分を入力します。この例では、pagelet

は Click here to automatically log in to the IBM CM eClient. を読み取ります。HTML の最後の部分は、to automatically log in to the IBM CM eClient. になっている必要があります。「File」→「Save As」と選択して、この新規ファイルを保管します。このファイルが、最適化アソシエーションの HTML ステートメントの最後のファイルであることを示す名前、たとえば、HTML_CM_TRAIL を指定します。

3. フィールド定義を作成する。

- a. Application Designer で、「File」→「New」と選択する。「New Definition」ウィンドウが開きます。
- b. 「Field」を選択し、「OK」をクリックする。「Field」ウィンドウが開きます。
- c. 「Label ID」、「Long Name」、および「Short Name」を指定する。「Def」チェック・ボックスは、自動的に選択されています。これ以外の項目は、デフォルト値のままにしておくことができます。
- d. 「File」→「Save As」と選択し、新規フィールドを保管する。この例では、Field 定義は OPT_FIELD として保管されています。名前はどのような名前でも付けることができますが、既に使用されている名前は使用できません。

4. レコード定義を作成する。

- a. PeopleSoft Application Designer で、「File」→「New」と選択する。「新規の定義 (New Definition)」ウィンドウが開きます。
- b. 「レコード (Record)」を選択し、次に「了解 (OK)」をクリックする。「Record」ウィンドウが開きます。
- c. PeopleSoft Application Designer のメイン・ウィンドウで、「Insert」→「Field」と選択する。「Insert Field」ウィンドウが開きます。
- d. 「選択基準名 (Selection Criteria Name)」フィールドに名前を入力する。ステップ 3 で指定したのと同じ名前、たとえば、OPT_FIELD を使用します。
- e. 「Insert」をクリックする。このアクションで、作成中のレコードに、作成したフィールドが挿入されます。
- f. 「Insert Field」ウィンドウを閉じる。
- g. 「Record」ウィンドウで、「Record Type」タブをクリックする。
- h. レコード・タイプとして、「Derived/Work」ラジオ・ボタンを選択する。
- i. 「File」→「Save As」と選択し、レコード名を入力する。この例では、名前は WEBLIB_OPT_REC です。要件: レコード名は、WEBLIB_ で開始して作業する必要があります。

5. iScript PeopleCode を編集する。

- a. 「Record」ウィンドウで、「Record Fields」タブをクリックする。
- b. たった今挿入したフィールドを表す行を右マウス・ボタン・クリックし (この例では OPT_FIELD という名前のフィールド)、「View PeopleCode」をクリックする。「Record PeopleCode」ウィンドウが開きます。このウィンドウのタイトルは、ピリオド (.) で分離された以下の値を持つstringです。
 - レコード定義名 (たとえば、WEBLIB_OPT_REC)
 - フィールド定義名 (たとえば、OPT_FIELD)

- PeopleSoft イベント名、FieldFormula

- 左側のリストに、ユーザーが指定したフィールド名、たとえば、 OPT_FIELD が表示されていることを確認する。
 - 右側のリストに FieldFormula が表示されていることを確認する。このウィンドウの広い編集可能な部分に、以下のいずれかのコードを入力します。
- 簡単なログオン統合タイプ:

```
Function IScript_CMLOPTLOG1()
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_LEAD));
    %Response.Write(" <a ");
    %Response.Write("href=");
    %Response.Write("http://host.abc.def.ghi.com/");
    %Response.Write("eClient82/IDMIntegrator");
    %Response.Write("?&ReleaseLevel=PEOPLESOFTV840");
    %Response.Write("&IPFile=PeopleSoft");
    %Response.Write("&iType=logon");
    %Response.Write("&userid=");
    %Response.Write(%UserId);
    %Response.Write(">");
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_LINK));
    %Response.Write("</a> ");
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_TRAIL));
End-Function;
```

- server および serverType が、統合プロパティ・ファイル (IP ファイル) で指定されており、ユーザーが iType=connection を指定する場合:

```
Function IScript_CMLOPTLOG2()
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_LEAD));
    %Response.Write(" <a ");
    %Response.Write("href=");
    %Response.Write("http://host.abc.def.ghi.com/");
    %Response.Write("eClient82/IDMIntegrator");
    %Response.Write("?&ReleaseLevel=PEOPLESOFTV840");
    %Response.Write("&IPFile=PeopleSoft");
    %Response.Write("&iType=connection");
    %Response.Write("&userid=");
    %Response.Write(%UserId);
    %Response.Write(">");
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_LINK));
    %Response.Write("</a> ");
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_TRAIL));
End-Function;
```

- server および serverType が URL で指定されていて、ユーザーが iType=connection を指定する場合:

```
Function IScript_CMLOPTLOG3()
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_LEAD));
    %Response.Write(" <a ");
    %Response.Write("href=");
    %Response.Write("http://host.abc.def.ghi.com/");
    %Response.Write("eClient82/IDMIntegrator");
    %Response.Write("?&ReleaseLevel=PEOPLESOFTV840");
    %Response.Write("&IPFile=PeopleSoft");
    %Response.Write("&iType=connection");
    %Response.Write("&server=ICMNLSD&serverType=Fed");
    %Response.Write("&userid=");
    %Response.Write(%UserId);
    %Response.Write(">");
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_LINK));
    %Response.Write("</a> ");
    %Response.Write(GetHTMLText(HTML.HTML_CM_TRAIL));
End-Function;
```

ここで、

- CMOPTLOG1、CMOPTLOG2、CMOPTLOG3 は、IScript 関数の名前である。
 - HTML_CM_LEAD、HTML_CM_LINK、HTML_CM_TRAIL は、ステップ 2 (52 ページ) で作成した HTML ファイルである。
 - host.abc.def.ghi.com は、Content Manager eClient が常駐している実際の完全修飾ホスト名である。
 - eClient82 は、eClient のインストール先パスである。
 - &ReleaseLevel=PEOPLESOFTV840 は、使用する PeopleTools のバージョンを指定する。PEOPLESOFTV840 または PEOPLESOFTV841 のいずれかです。
 - &IPFile=PeopleSoft は、eClient マシンで使用されている統合プロパティ・ファイル名である。拡張子 .properties は、仕様の中には組み込まれていないことに注意してください。
 - &server=ICMNLSDDB は、接続する必要があるサーバー名を指定する。
 - &serverType=Fed は、Enterprise Information Portal 統合コネクタ (Fed) または Content Manager バージョン 8 コネクタ (ICM) のいずれかを使用することを指定します。
- e. スクリプトの編集の終了時に、「File」→「Save」と選択してそのスクリプトを保管する。

iScript を作成した後は、その iScript へのアクセスを制限する必要があります。この作業を 56 ページの『最適化アソシエーションに対する iScript コードのセキュリティの使用可能化』で行います。

iScript コードに対するセキュリティの使用可能化

ルーズ・アソシエーションに対する iScript コードのセキュリティの使用可能化: この作業では、ユーザーが既に iScript を作成していることが前提となっています。

iScript を定義した後に、iScript へのアクセスをセキュアにする必要があります。iScript はレコード内に組み込まれているため、そのレコードに対してセキュリティを使用可能にする必要があります。レコードのセキュリティを使用可能にするには、以下のステップを実行してください。

1. Definition 許可を持つユーザー ID、たとえば、システム管理 ID で、PeopleSoft Enterprise Portal にサインオンする。
2. ポータルの左側の「Enterprise Menu」で、「PeopleTools」→「Security」→「Permissions and Roles」→「Permission Lists」と選択する。
3. 「Search by」→「Permission List」とクリックし、次に「Search」をクリックする。
4. 戻された検索結果で「ALLPORTL」を選択し、次に「ALLPORTL」許可リストの「Web Libraries」タブを選択する。このタブを表示するには、右矢印をクリックする必要がある場合があります。
5. PeopleSoft Application Designer で定義したレコード名を入力し、次に検索する拡大鏡をクリックする。検索フィールドまたは検索ボタンが表示されていない場合には、正符号 (+) をクリックすると、検索フィールドが表示されます。こ

の例では、レコード名 WEBLIB_LOOSEREC を使用します。**要件:** Web ライブラリー・レコードは、接頭部 WEBLIB_ で開始する必要があります。

6. 検索終了後、Web ライブラリーのレコード名、たとえば、結果リストの「WEBLIB_LOOSEREC」をクリックする。このアクションによって、Web ライブラリーのレコードは、「**ALLPORTL**」許可リストに配置されます。
7. 「**Edit**」をクリックする。「Web Library Permissions」ウィンドウが開きます。
8. ユーザーの関数、たとえば、 LOOSEFIELD.FieldFormula.IScript_CML00SELOG に対して、「**Access Permissions**」リストから「**Full Access**」を選択する。
9. 「**OK**」をクリックする。「**ALLPORTL**」許可リスト・ウィンドウに戻ります。
10. 「**Save**」をクリックし、ユーザーの iScript に対するセキュリティの使用可能化を完了する。

関連した作業:

49 ページの『PeopleSoft Application Designer でのルーズ・アソシエーションの iScript の作成』

57 ページの『ルーズ・アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成』

最適化アソシエーションに対する iScript コードのセキュリティの使用可能化:

この作業では、ユーザーが既に iScript を作成していることが前提となっています。

iScript を定義した後に、iScript へのアクセスをセキュアにする必要があります。iScript はレコード内に組み込まれているため、そのレコードに対してセキュリティを使用可能にする必要があります。レコードのセキュリティを使用可能にするには、以下のステップを実行してください。

1. Definition 許可を持つユーザー ID、たとえば、システム管理 ID で、PeopleSoft Enterprise Portal にサインオンする。
2. ポータルの左側の「Enterprise Menu」で、「**PeopleTools**」→「**Security**」→「**Permissions and Roles**」→「**Permission Lists**」と選択する。
3. 「**Search by**」→「**Permission List**」をクリックし、次に「**Search**」をクリックする。
4. 戻された検索結果で「**ALLPORTL**」を選択し、次に「**ALLPORTL**」許可リストの「**Web Libraries**」タブを選択する。このタブを表示するには、右矢印をクリックする必要がある場合があります。
5. PeopleSoft Application Designer で定義したレコード名を入力し、次に検索する拡大鏡をクリックする。検索フィールドまたは検索ボタンが表示されていない場合には、正符号 (+) をクリックすると、検索フィールドが表示されます。この例では、レコード名 WEBLIB_OPT_REC を使用します。**要件:** Web ライブラリー・レコードは、接頭部 WEBLIB_ で開始する必要があります。
6. 検索終了後、Web ライブラリーのレコード名、たとえば、結果リストの「WEBLIB_OPT_REC」をクリックする。このアクションによって、Web ライブラリーのレコードは、「**ALLPORTL**」許可リストに配置されます。
7. 「**Edit**」をクリックする。「Web Library Permissions」ウィンドウが開きます。
8. ユーザーの関数、たとえば、 OPT_FIELD.FieldFormula.IScript_CMOPTLOG に対して、「**Access Permissions**」リストから、「**Full Access**」を選択する。

9. 「OK」をクリックする。「ALLPORTL」許可リスト・ウィンドウに戻ります。
10. 「Save」をクリックし、ユーザーの iScript に対するセキュリティの使用可能化を完了する。

関連した作業:

- 51 ページの『PeopleSoft Application Designer での最適化統合用 iScript の作成』
- 59 ページの『最適化アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成』

IBM Content Manager ログイン pagelet の作成

ルーズ・アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成:

この作業では、ユーザーが既に iScript およびレコードを作成し、そのレコードに対するセキュリティが使用可能になっていることが前提となっています。

pagelet を作成するには、以下のステップを実行してください。

1. ポータルの左側の「Enterprise Menu」で、「PeopleTools」→「Portal」→「Structure and Content」と選択する。「構造およびコンテンツ (Structure and Content)」ウィンドウが開きます。
2. フォルダーのリストで、「Portal Objects」をクリックする。
3. フォルダーのリストで、「Pagelets」をクリックする。
4. フォルダーのリストで、「Demo」をクリックする。現行ページは、デモンストラーション pagelet の構造および内容を定義します。このページで「Add Content Reference」をクリックし、新規 pagelet を定義します。「Add Content Reference」を表示するには、スクロールダウンする必要がある場合があります。「Content Ref Administration」フォームが表示されます。
5. 以下のフィールド (アスタリスク (*) は必要フィールドを示しています) に値を指定して、「Content Ref Administration」フォームを完成させる。

*Name

ユーザー pagelet の内部名、たとえば、IBM_CM_LOOSE_LOGIN を入力します。

***Label** pagelet タイトルにラベル、たとえば、Loose Association を指定します。このラベルも、pagelet の内容参照リストに表示されます。

Usage Type

「Pagelet」を選択します。

*Node Name

「Always use local」を選択します。

URL Type

「PeopleSoft Script」を選択します。

*Record (Table) Name

ユーザーの Web ライブラリー・レコード名、たとえば、WEBLIB_LOOSEREC を指定します。

***Field Name**

ユーザーのフィールド名、たとえば、 LOOSEFIELD を指定します。

***PeopleCode Event Name**

「FieldFormula」を選択します。

***PeopleCode Function Name**

ユーザーの iScript 名、たとえば、 IScript_CML00SELOG を選択します。

重要: 上記のフィールドの中には、適切な値を選択するまで表示されないものがあります。

6. pagelet にセキュリティ・レベルを設定する。
 - a. この「Content Ref Administration」フォームの上部の「**Security**」タブをクリックする。
 - b. 「**Access Type**」に「**Public**」を選択する。
7. 「**Save**」をクリックする。この pagelet をタブに追加するには、ステップ 8 に進みます。追加しない場合には、このポータルに関する pagelet の構成は終了します。ステップ 9 (59 ページ) にスキップします。
8. **オプション:** pagelet を新規タブに追加する。
 - a. ポータルの左側の「Enterprise Menu」で、「**PeopleTools**」→「**Portal**」→「**Structure and Content**」と選択する。「構造およびコンテンツ (Structure and Content)」ウィンドウが開きます。
 - b. フォルダーのリストで、「**Portal Objects**」をクリックする。
 - c. フォルダーのリストで、「**Homepage**」をクリックする。次のウィンドウで、「**Tabs**」フォルダーをクリックします。ここで表示されたページは、PeopleSoft ポータル・ホーム・ページのタブの構造および内容を定義します。このページで、「**Add Content Reference**」をクリックし、新規タブを定義します。
 - d. 以下のフィールド (アスタリスク (*) は必要フィールドを示しています) に値を指定して、「Content Ref Administration」フォームを完成させる。

***Name**

ユーザー・タブの内部名、たとえば、 IBM_CM_TAB を入力します。

***Label** タブ・タイトルにラベル、たとえば、 IBM CM を指定します。このラベルも、タブの内容参照リストに表示されます。

Sequence Number

ポータル上にタブを位置指定する番号を指定します。タブの構造および内容を表すページ (1 ページ戻る) で、他のタブのシーケンス番号を確認できます。最初のタブは 0 で、2 番目のタブは 10 にあります。未使用のシーケンス番号を選択します。たとえば、タブを 3 番目にする場合、20 を指定します。

Usage Type

「**Homepage**」タブを選択します。

重要: 上記のフィールドの中には、適切な値を選択するまで表示されないものがあります。

- e. この「Content Ref Administration」フォームの上部の「**Security**」タブをクリックする。
 - f. 「**Access Type**」に「**Public**」を選択する。
 - g. この「Content Ref Administration」フォームの上部の「**Tab Content**」タブをクリックする。
 - h. 「**Demo**」セクションを見付け、pagelet のラベルに対応するチェック・ボックス、たとえば、「Loose Association」を選択し、「**Required**」を選択する。
 - i. 「**Save**」をクリックする。
9. Web ブラウザーを閉じる。

関連した作業:

49 ページの『PeopleSoft Application Designer でのルーズ・アソシエーションの iScript の作成』

55 ページの『ルーズ・アソシエーションに対する iScript コードのセキュリティの使用可能化』

61 ページの『pagelet 構成後のクリーンアップ』

最適化アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成: この作業では、ユーザーが既に iScript およびレコードを作成し、そのレコードに対するセキュリティが使用可能になっていることが前提となっています。

pagelet を作成するには、以下のステップを実行してください。

1. ポータルの左側の「Enterprise Menu」で、「**PeopleTools**」→「**Portal**」→「**Structure and Content**」と選択する。「構造およびコンテンツ (Structure and Content)」ウィンドウが開きます。
2. フォルダーのリストで、「**Portal Objects**」をクリックする。
3. フォルダーのリストで、「**Pagelets**」をクリックする。
4. フォルダーのリストで、「**Demo**」をクリックする。現行ページは、デモンストラーション pagelet の構造および内容を定義します。このページで「**Add Content Reference**」をクリックし、新規 pagelet を定義します。「**Add Content Reference**」を表示するには、スクロールダウンする必要がある場合があります。「Content Ref Administration」フォームが表示されます。
5. 以下のフィールド (アスタリスク (*) は必要フィールドを示しています) に値を指定して、「Content Ref Administration」フォームを完成させる。

***Name**

ユーザー pagelet の内部名、たとえば、IBM_CM_OPT_LOGIN を入力します。

***Label** pagelet の内容参照リストに表示するラベルを指定します。異なるサーバーに複数の pagelet を定義する場合には、サーバー名およびサーバー・タイプを、たとえば、ICMNLSD (FED) のようにラベルとして指定します。

Usage Type

「**Pagelet**」を選択します。

***Node Name**

「Always use local」を選択します。

URL Type

「PeopleSoft Script」を選択します。

***Record (Table) Name**

ユーザーの Web ライブラリー・レコード名、たとえば、
WEBLIB_OPT_REC を指定します。

***Field Name**

ユーザーのフィールド名、たとえば、OPT_FIELD を指定します。

***PeopleCode Event Name**

「FieldFormula」を選択します。

***PeopleCode Function Name**

ユーザーの iScript 名、たとえば、IScript_CMOPLOG1 を選択します。

6. pagelet にセキュリティ・レベルを設定する。

- a. この「Content Ref Administration」フォームの上部の「Security」タブをクリックする。
- b. 「Access Type」に「Public」を選択する。

7. 「Save」をクリックする。この pagelet をタブに追加するには、ステップ 8 (58 ページ) に進みます。追加しない場合には、このポータルに関する pagelet の構成は終了します。ステップ 9 (59 ページ) にスキップします。

8. オプション: pagelet を新規タブに追加する。

- a. ポータルの左側の「Enterprise Menu」で、「PeopleTools」→「Portal」→「Structure and Content」と選択する。「構造およびコンテンツ (Structure and Content)」ウィンドウが開きます。
- b. フォルダーのリストで、「Portal Objects」をクリックする。
- c. フォルダーのリストで、「Homepage」をクリックする。次のウィンドウで、「Tabs」フォルダーをクリックします。ここで表示されたページは、PeopleSoft ポータル・ホーム・ページのタブの構造および内容を定義します。このページで、「Add Content Reference」をクリックし、新規タブを定義します。
- d. 以下のフィールド (アスタリスク (*) は必要フィールドを示しています) に値を指定して、「Content Ref Administration」フォームを完成させる。

***Name**

ユーザー・タブの内部名、たとえば、IBM_CM_TAB を入力します。

***Label** タブ・タイトルにラベル、たとえば、IBM CM を指定します。このラベルも、タブの内容参照リストに表示されます。

Sequence Number

ポータル上にタブを位置指定する番号を指定します。タブの構造および内容を表すページ (1 ページ戻る) で、他のタブのシーケンス番号を確認できます。最初のタブは 0 で、2 番目のタブは 10 にあります。未使用のシーケンス番号を選択します。たとえば、タブを 3 番目にする場合、20 を指定します。

Usage Type

「Homepage」タブを選択します。

- e. この「Content Ref Administration」フォームの上部の「Security」タブをクリックする。
 - f. 「Access Type」に「Public」を選択する。
 - g. この「Content Ref Administration」フォームの上部の「Tab Content」タブをクリックする。
 - h. 「Demo」セクションを見付け、pagelet のラベルに対応するチェック・ボックス、たとえば、ICMNLADB (FED) を選択し、「Required」を選択する。
 - i. 「Save」をクリックする。
9. Web ブラウザーを閉じる。

関連した作業:

51 ページの『PeopleSoft Application Designer での最適化統合用 iScript の作成』

56 ページの『最適化アソシエーションに対する iScript コードのセキュリティの使用可能化』

『pagelet 構成後のクリーンアップ』

pagelet 構成後のクリーンアップ

この作業では、ユーザーが pagelet を作成し、その pagelet を使用できるようになっていることが前提となっています。

以前の情報の使用を防ぎ、新規設定の使用を開始できるように、ブラウザーのキャッシュはクリアする必要があります。

1. WebSphere Application Server を停止する。
2. PeopleSoft アプリケーション・サーバーを停止する。
3. PeopleSoft アプリケーション・サーバー・キャッシュ
PS_HOME¥appserv¥PSEP¥cache を削除する。ここで、*PS_HOME* は、PeopleSoft ファイルのインストール先、*PSEP* は使用する PeopleSoft バージョン名です。たとえば、PeopleSoft 8.40 は、PSEP84 です。
4. WebSphere PeopleSoft サーバー・キャッシュ
WebSphere¥AppServer¥installedApps¥peoplesoft¥portal¥ps¥cache を削除する。ここで、*WebSphere* は WebSphere ファイルのインストール先です。
5. PeopleSoft アプリケーション・サーバーを開始する。
6. WebSphere Application Server を開始する。

関連した作業:

57 ページの『ルーズ・アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成』

59 ページの『最適化アソシエーションの IBM Content Manager ログイン pagelet の作成』

Siebel Integration for IBM Content Manager の構成

この節では、Content Manager eClient と Siebel を一緒に動作させるために完了する必要がある手順を示します。

eClient を実行するための WebSphere Application Server の構成

WebSphere Application Server (WAS) セッションのタイムアウト値が、Siebel ユーザー・コミュニティに合わせて適切に設定されていることを確認する必要があります。eClient を実行する前に、WAS を起動してセッション・タイムアウト値を設定してください。

手順:

ステップ 1: WebSphere 管理コンソールの起動

Windows で WebSphere 管理コンソールを起動するには、「スタート」→「プログラム」→「IBM WebSphere」→「Application Server V4.0」→「管理コンソール」を選択します。

AIX および Sun Solaris で WebSphere 管理コンソールを起動するには、以下の手順に従います。

1. 新しい端末を開く。
2. プロンプトが出されたら、*WebSphere/AppServer/bin* と入力する。ここで、*WebSphere* は WebSphere Application Server のインストール先ルート・ディレクトリです。
3. 以下のように入力する: *./adminclient.sh host_name portnumber* (たとえば、*./adminclient.sh localhost 900*)

ステップ 2: WebSphere のセッション・タイムアウト値の設定

1. 「WebSphere 管理ドメイン」→「ノード」→ *Host Name* →「アプリケーション・サーバー」→「eClient_server」を選択する。
2. アプリケーション・サーバーのプロパティが「アプリケーション・サーバー・プロパティ」ウィンドウに表示されたら、「サービス」をクリックする。
3. サービスのリストから「セッション・マネージャー・サービス」を選択し、「プロパティの編集」をクリックする。
4. 「セッション・マネージャー・サービス」ウィンドウで、「拡張」タブをクリックする。
5. 「タイムアウトの設定」を選択し、「無効化のタイムアウト」の値を分単位で設定する。この値は 2 分以上でなければなりません。
6. 「OK」をクリックする。
7. 「General」をクリックする。
8. 「Environment」をクリックする。
9. 「OK」をクリックする。
10. 「Apply」をクリックする。
11. eClient アプリケーション・サーバーを再始動して、変更内容が即時に有効になるようにする。

WebSphere Application Server を構成した後、『eClient の構成』に進むことができます。

関連した作業:

『eClient の構成』

eClient の構成

eClient を構成するには、IP ファイルのプロパティに値を指定する必要があります。

手順:

1. テキスト・エディターを使用して IP ファイルを開く。
2. IP ファイルの 4 つの必須プロパティに値を指定する。

eClientToken

eClientToken プロパティは、コンテンツ・サーバーへのアクセスを制御するために指定します。この値は、Siebel アプリケーションからサポートされているコンテンツ・サーバーにアクセスするときに、Siebel アプリケーションによって URL に指定されます。Siebel Integration for IBM Content Manager は、URL に指定されたトークンを IP ファイルに指定されているトークンと比較します。これら 2 つのトークンが一致した場合、Content Manager は非構造化データへのアクセスのみを許可します。これによって、Siebel サーバーから出された URL が Content Manager のデータ・ストアにアクセスするためのものであることが保証されます。

eClientToken プロパティは、大文字小文字が区別されます。URL の照会ストリングで予約されている以下の文字を除く、ISO8859-1 Latin 1 の任意の文字を使用できます。

;
/
?
:
@
&
=
+
,
\$

例:

eClientToken=integrator

type type プロパティは、JavaServer Pages で作成される Web ページの外観を指定します。Siebel Integration for IBM Content Manager では、type は 1 にします。これ以外の値を指定すると、JavaServer Pages で作成される Web ページは Siebel ユーザー・インターフェースの外観にはなりません。

cssPrefix

cssPrefix プロパティは、JavaServer Pages が Siebel との統合で使用する CSS (カスケーディング・スタイル・シート) ファイルのファイル名の接頭部を指定します。Siebel Integration for IBM Content Manager の場合、cssPrefix プロパティは alt1 にします。

iconPrefix

iconPrefix プロパティは、JavaServer Pages が Siebel との統合で使用するアイコン・ファイルのファイル名の接頭部を指定します。Siebel Integration for IBM Content Manager の場合、iconPrefix プロパティは alt1 にします。

3. **オプション:** printEnabled プロパティの値を指定する。printEnabled プロパティは、ドキュメント・ビューアーのツールバーに印刷機能を含めるかどうかを指定します。true または false を設定できます。デフォルト値は true です。
4. server、userid、および password の 3 つのオプション・プロパティを指定する。これらのプロパティは IP ファイルのプロパティとして指定するか、ビジネス・コンポーネントの計算フィールド内に URL の引き数として指定することができます。両方の場所に指定した場合、計算フィールドの値が IP ファイルの値よりも優先されます。

server

server プロパティは、Siebel Integration for IBM Content Manager サーブレットでアクセスする統合サーバー・データベースの名前を指定します。

例:

```
server=icmn1sdb
```

userid

userid プロパティを設定することで、統合サーバー・データベースにアクセスするためのユーザー ID を指定します。

例:

```
userid=newuser
```

password

password プロパティは、統合サーバー・データベースにアクセスするために使用されるユーザー ID のパスワードを指定します。

例:

```
password=password
```

5. **オプション:** eClient のビューアー・アプレットを使用する場合は、次の手順に従ってブラウザー環境を構成してください。
 - a. JRE 1.4 が正しくインストールされていることを確認する。
 - 1) ブラウザー・マシンに Java 2 Runtime Environment SE v 1.4.0_02 をインストールする。
 - 2) Microsoft Internet Explorer 用のデフォルトの Java ランタイムとして、Java プラグインを指定する。
 - b. Microsoft Internet Explorer が正しく構成されていることを確認する。

- 1) 「ツール」→「インターネット・オプション」→「詳細設定」と選択する。
- 2) 「設定 (Settings)」リストで、「Java (Sun)」という見出しのセクションを見つけ、「<アプレット>に Java 2 v 1.4.0_02 を使用する (Use Java 2 v 1.4.0_02 for <applet>)」というチェック・ボックスのチェックマークを外す (再始動が必要です)。

注: IP ファイルの名前は、Siebel を構成する際に指定した計算フィールドの値に使用されています。したがって、IP ファイルの名前を変更する場合には、計算フィールド中の IPFile 引き数値も、必ずそれに応じて変更してください。シンボリック URL を使用して Siebel 7.5.2 を構成する場合は、シンボリック URL 中の IPFile 引き数値も、必ず変更してください。

関連した作業:

- 62 ページの『eClient を実行するための WebSphere Application Server の構成』
- 『Siebel 7.0.4 のカスタマイズ』
- 66 ページの『作業 1: ビジネス・オブジェクト層のカスタマイズ』
- 80 ページの『Siebel 7.5.2 のカスタマイズ』
- 81 ページの『作業 1: シンボリック URL を使用して外部データを処理するためのビジネス・コンポーネントの構成』

Siebel 7.0.4 のカスタマイズ

Siebel 7.0.4 のカスタマイズの概要: Siebel 7.0.4 を使用する場合は、Siebel ビジネス・コンポーネントの計算フィールド内部に URL を指定する必要があります。Siebel 7.0.4 の構成は、ビジネス・オブジェクト層のカスタマイズ、ユーザー・インターフェース層のカスタマイズ、および Siebel アプリケーションの構成の 3 つの作業からなります。

前提条件:

Siebel 7.0.4 を正しく構成するには、事前に以下のことを行う必要があります。

- Enterprise Information Portal 統合サーバーを作成しておく
- EIP システム管理クライアントまたは同様のアプリケーションを使用して、Content Manager サーバー (Content Manager バージョン 7、Content Manager バージョン 8、Content Manager OnDemand for Multiplatforms バージョン 7.1、Content Manager OnDemand for OS/390 バージョン 2.1、バージョン 7.1、Content Manager OnDemand for OS/400 バージョン 4.5、バージョン 5.1、または ImagePlus for OS/390 バージョン 7.1) をセットアップしておく
- アイテム・タイプを作成しておく
- 1 つまたは複数の Content Manager サーバーにデータをインポートしておく
- EIP に統合エンティティと検索テンプレートを作成しておく
- Windows に Siebel ユーザーを作成しておく

推奨事項:

変更する Siebel リポジトリ・オブジェクトは保存しておいてください。これにより、後で Siebel Integration for IBM Content Manager を除去する必要がある場合

に、保存しておいたこれらのオブジェクトをインポートすることで、この構成を実施する前の状態に Siebel アプリケーションの環境を復旧することができます。

構成の過程で、複数のオブジェクトの値を設定する必要があります (アプレットの名前や計算フィールドの値など)。以前に設定した値を使って新しいオブジェクトを定義しなければならない場合もあります。したがって、設定した値をすべて記録しておくことを強くお勧めします。

本書では、Siebel 7.0.4 を構成して Content Manager に格納されている非構造化データにアクセスできるようにする過程を理解しやすいように、例に沿って説明を行っています。この例では、各作業の各ステップのフィールド設定に具体的な値を指定します。たとえば、作業 2 のステップ 1 の場合、以下のようにします。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)。

この例では、構成過程で計算されるフィールド内の引き数に、以下の値を設定したと想定しています。

ホスト名

eipserver

ポート番号

80

eClient アプリケーション名

eClient82

eClientToken

token

IPFile Siebel

検索テンプレート

2k_DriverLicense

また、この例では、ユーザー John Smith が Siebel にセットアップされていて、すべてのアプリケーションおよびサービスの言語は英語に設定されているものとします。

関連した作業:

63 ページの『eClient の構成』

99 ページの『構成した環境の検証』

『作業 1: ビジネス・オブジェクト層のカスタマイズ』

作業 1: ビジネス・オブジェクト層のカスタマイズ: IBM Content Manager で管理されている非構造化データを、Siebel のエンティティに結合するには、そのエンティティ用のビジネス・コンポーネントに計算フィールドを追加する必要があります。

ビジネス・コンポーネントに計算フィールドを追加するには、以下の手順に従います。

1. **Siebel Tools** を立ち上げる。

2. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「Business Component」を選択する。
3. 「Business Components」ウィンドウで、ビジネス・コンポーネント（ここでは、Service Request）を選択する。選択すると、このレコードが強調表示になります。
4. メニューから、「Tools」→「Lock Project」を選択する。
5. Object Explorer で、「Business Component」→「Field」を選択する。「Fields」ウィンドウが開き、選択したビジネス・コンポーネント（ここでは、Service Request）に含まれているすべてのフィールドが表示されます。
6. 「Fields」ウィンドウで、右マウス・ボタンをクリックし、「New Record」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
7. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します（ここでは、Archived Content とします）。

Calculated (計算)

TRUE

注: TRUE という値は、インターフェースにおけるチェックマークの意味になります。TRUE と示されている場合、すべてこの意味になります。

Calculated Value (計算値)

有効な計算値を指定します（ここでは、"<iframe height=300 width=960 frameborder=0 src='http://eipserver:80/eClient82/IDMIntegrator?eClientToken=token&IPFile=Siebel&Entity= 2k_DriverLicense &Lastname='+[Contact Last Name]+'&ReleaseLevel=SIEBELV704'></iframe>"). 計算フィールドの計算値を定義する方法については、『計算値プロパティ』を参照してください。

Type (タイプ)

DTYPE_TEXT

Use Default Sensitivity (デフォルト・センシティビティを使用)

TRUE

8. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

計算値プロパティ: この計算値プロパティには、統合サブレット起動用の URL を指定する src 属性を持つ IFRAME HTML タグが入ります。計算値プロパティは、通常、以下の形式をとります。

```
"<iframe height=height width=width frameborder=0
src='http://hostname:port/eClientApp/IDMIntegrator?
eClientToken=eClientToken&IPFile=IPFilename&
Entity=Entity&SearchCriterionName=SearchCriterionValue&
ReleaseLevel=SIEBELV704&server=Server&userid=UserID
&password=Password'>
Sorry your browser does not support IFrames.</iframe>"
```

この構文で使用されている変数の説明:

height IFRAME の高さ属性の値

width IFRAME の幅属性の値

hostname:port

eClient アプリケーション・サーバーへのアクセスに使用するホスト名とポート

eClientApp

eClient アプリケーション名

eClientToken

IP ファイルに指定されている eClientToken プロパティの値

IPFilename

IP ファイルの名前

Entity 検索テンプレートの名前

SearchCriterionName=SearchCriterionValue

検索基準名と検索基準値を示す名前と値の組

Server

統合サーバー・データベースの名前

UserID

統合サーバー・データベースへのアクセスに使用するユーザー ID

Password

統合サーバー・データベースへのアクセスに使用するパスワード

計算フィールドには以下の引き数が必要です。

eClientToken

Siebel アプリケーションは、Content Manager にアクセスする場合、URL の中に eClientToken 値を指定する必要があります。 Siebel Integration for IBM Content Manager は、URL に指定されたトークンを IP ファイルに指定されているトークンと比較し、コンテンツ・サーバー管理下のデータへのアクセスを制御します。eClientToken に指定する値は、大文字小文字が区別されます。

IPFile IPFile 引き数の値は、IP ファイルの名前を指定します。

Entity Entity 引き数の値は、統合検索の検索テンプレートの名前を指定します。検索テンプレート名は、大文字小文字が区別されます。

検索基準名=検索基準値

各検索基準は、名前と値の組で構成されます。検索基準名は、指定された検索テンプレート用に定義された有効な名前であれば、どんなものでもかまいません。検索基準値は、その検索基準名に対する任意の有効な値です。

通常、検索基準値には、計算フィールドを含むビジネス・コンポーネント・レコード内のフィールドの名前を指定します。このフィールドの名前は、`"+[field_name]+"` という構文で指定します。ここで `field_name` は、ビジネス・コンポーネント・レコード内のフィールドの名前です。計算フィールドの値が決定されると、現在のビジネス・コンポーネント・レコード内のそのフィールドの値が、検索基準値として使用されます。

検索基準値は、計算フィールドを含むビジネス・コンポーネント・レコード内のフィールドの名前である必要はありません。フィールド名、標準関数、

およびストリングからなる式、数値および論理演算でもかまいません。詳細については、「Siebel Tools Reference」を参照してください。

評価される検索基準の値は、統合属性値でなければなりません。

注: 検索基準名の構文 "検索基準名=検索基準値" では、等号 (=) 演算子のみがサポートされます。検索基準は、大文字小文字が区別されます。

ReleaseLevel

ReleaseLevel 引き数の値は、Siebel アプリケーションのリリース・レベルを指定します。Siebel 7.0.4 を使用する場合、**ReleaseLevel** の値は **SIEBELV704** にします。

IP ファイルで **server**、**userid**、および **password** プロパティを指定した場合、以下の引き数はオプションです。これらのプロパティを計算フィールドと IP ファイルの両方に指定した場合、計算フィールドの値が IP ファイルの値よりも優先されます。

server **server** 引き数は、アクセスする統合サーバー・データベースの名前を指定します。

userid **userid** 引き数は、統合サーバー・データベースへのアクセスに使用するユーザー ID を指定します。

password

password 引き数は、統合サーバー・データベースへのアクセスに使用するパスワードを使用します。

ビジネス・コンポーネント内に含まれる計算フィールドの計算値プロパティの最大長は、255 バイトです。255 バイトより長い式を指定するには、計算値プロパティを、それぞれ長さが 255 以下である他の計算値プロパティとの連結として定義する必要があります。

例: Service Request というビジネス・コンポーネントに含まれる Archive Content というフィールドの計算値プロパティの例を以下に示します。Service Request ビジネス・コンポーネントの SR Number フィールドを参照しています。この計算値プロパティは 255 バイトを超えるので、計算フィールド内の **Calculated Value** (計算値) フィールドに入力することはできません。したがって、このプロパティは、[AC1] + [SR Number] + [AC3] として指定する必要があります。ここで、AC1 および AC3 は、Service Request ビジネス・コンポーネントに含まれる他の計算フィールドの名前です。

• 計算フィールド AC1 の計算値プロパティ:

```
"<iframe height=300 width=960 frameborder=0 src='http://ec82fvt:80/eClient82/IDMIntegrator?eClientToken=token&IPFile=Siebel&Entity=SRST&RN='"
```

• 計算フィールド AC3 の計算値プロパティ:

```
"&ReleaseLevel=SIEBELV704&server=eipserver&userid=newuser&password=password">Sorry your browser does not support IFrames.</iframe>"
```

関連した概念:

65 ページの『Siebel 7.0.4 のカスタマイズの概要』

関連した作業:

70 ページの『作業 2: ユーザー・インターフェース層のカスタマイズ』

『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』

作業 2: ユーザー・インターフェース層のカスタマイズ:

作業の概要: ビジネス・オブジェクト層をカスタマイズした後、eClient がコンテンツ・サーバーから検索する非構造化データを Siebel のエンド・ユーザーに表示できるように、ユーザー・インターフェース層をカスタマイズする必要があります。

この作業は 11 のステップからなります。

- 『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』
- 『ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作成』
- 71 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』
- 72 ページの『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』
- 73 ページの『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』
- 73 ページの『ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成』
- 74 ページの『ステップ 7: ビューの作成』
- 75 ページの『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』
- 76 ページの『ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成』
- 77 ページの『ステップ 10: 画面オブジェクトの更新』
- 77 ページの『ステップ 11: コンパイル』

ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成:

1. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Web Template**」を選択する。
「Web Templates」ウィンドウが開きます。
2. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
3. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)。

Project (プロジェクト)

変更しようとしているビジネス・コンポーネントのプロジェクト名を指定します (ここでは、Service とします)。

Type (タイプ)

Applet Template - Form

4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

『作業の概要』

関連した作業:

『ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作成』

ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作成:

1. 70 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』で作成した Web テンプレート・オブジェクトを選択する。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Web Template**」→「**Web Template File**」を選択する。「Web Template Files」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

70 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』で作成した Web テンプレートと同じ名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)。

File Name (ファイル名)

EIP81Applet.swt

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

70 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』
『ステップ 3: アプレットの作成』

ステップ 3: アプレットの作成:

1. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Applet**」を選択する。「Applets」ウィンドウが開きます。
2. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
3. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Service Request Archived Content Applet とします)。

Project (プロジェクト)

変更しようとしているビジネス・コンポーネントのプロジェクト名を指定します (ここでは、Service とします)。

Business Component (ビジネス・コンポーネント)

66 ページの『作業 1: ビジネス・オブジェクト層のカスタマイズ』で計算フィールドを追加したビジネス・コンポーネントの名前を指定します (ここでは、Service Request とします)。

Class (クラス)

CSSFrameBase

| **Title (タイトル)**

| 意味のわかる名前を指定します。計算フィールドと同じ名前にしてかま
| いません (ここでは、Archived Content とします)。

| **Type (タイプ)**

| Standard

- | 4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

| **関連した概念:**

| 70 ページの『作業の概要』

| **関連した作業:**

| 70 ページの『ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作
| 成』

| 『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』

| **ステップ 4: アプレット・コントロールの作成:**

- | 1. 71 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』で作成したアプレットを選択す
| る。
- | 2. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「Applet」→「Control」を選択す
| る。「Controls」ウィンドウが開きます。
- | 3. 右マウス・ボタンをクリックして、「New Record」を選択する。新しい空白の
| レコードが、一番上に表示されます。
- | 4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残り
| のフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

| **Name (名前)**

| 計算フィールドと同じ名前を指定します (ここでは、Archived Content
| とします)。

| **Display Format (表示フォーマット)**

| HTML Text

| **Field (フィールド)**

| 計算フィールドと同じ名前を指定します (ここでは、Archived Content
| とします)。

| **HTML Display Mode (HTML 表示モード)**

| DontEncodeData

| **HTML Only (HTML のみ)**

| TRUE

| **HTML Row Sensitive (HTML ロー・センシティブ)**

| TRUE

| **HTML Type (HTML タイプ)**

| Field

| **Read Only (読み取り専用)**

| TRUE

| **Sort (ソート)**

| TRUE

Text Alignment (テキストの位置合わせ)

Left

Visible (可視)

TRUE

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

71 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』

『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』

ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成:

1. 71 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』で作成したアプレットを選択する。
2. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「Applet」→「Applet Web Template」を選択する。「Applet Web Templates」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「New Record」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

Base

Type (タイプ)

Base

Web Template (Web テンプレート)

70 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』で作成した Web テンプレート・オブジェクトの名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)。

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

72 ページの『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』

『ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成』

ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成:

1. 『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』で作成したアプレット Web テンプレートを選択する。
2. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「Applet」→「Applet Web Template」→「Applet Web Template Item」を選択する。「Applet Web Template Items」ウィンドウが開きます。

3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

66 ページの『作業 1: ビジネス・オブジェクト層のカスタマイズ』で作成した計算フィールドと同じ名前を指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Control (コントロール)

72 ページの『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』で作成したアプレット・コントロールを選択します (ここでは、Archived Content とします)。

Item Identifier (アイテム ID)

1301

Type (タイプ)

Control

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

73 ページの『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』
『ステップ 7: ビューの作成』

ステップ 7: ビューの作成:

1. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**View**」を選択する。「Views」ウィンドウが開きます。
2. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
3. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Service Request Detail Archived Content View とします)。

Project (プロジェクト)

変更しようとしているビジネス・コンポーネントの名前を指定します (ここでは、Service とします)。

Business Object (ビジネス・オブジェクト)

このビューを配置する画面に対応するビジネス・オブジェクトを選択します。これは、通常、66 ページの『作業 1: ビジネス・オブジェクト層のカスタマイズ』で変更したビジネス・コンポーネントのオブジェクトとします (ここでは、Service Request とします)。

Screen Menu (画面メニュー)

TRUE

Title (タイトル)

意味のわかるタイトルを指定します (ここでは、Service Request Archived Content とします)。

Thread Applet (スレッド・アプレット)

スレッド・フィールドにデータ値を指定するアプレットの名前を示します (ここでは Service Request Detail Applet とします)。

Thread Field (スレッド・フィールド)

データ値が矢印ボックスに含まれているフィールドの名前を、Thread Title (スレッド・タイトル) の後に指定します (ここでは、SR Number とします)。

Thread Title (スレッド・タイトル)

ビューを識別するためにスレッド内で使用されるテキストを指定します (ここでは、SR#: とします)。

4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

73 ページの『ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成』
『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』

ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成:

1. 74 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューを選択する。
2. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「View」→「View Web Template」を選択する。「View Web Templates」ウィンドウが開きます。
3. 「View Web Templates」ウィンドウで、右マウス・ボタンをクリックし、「New Record」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

Base

Web Template (Web テンプレート)

View Detail

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

74 ページの『ステップ 7: ビューの作成』
76 ページの『ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成』

ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成: ビューに表示するアプレットごとに、ビュー Web テンプレート・アイテムを作成する必要があります。ここでは、ビューに Service Request Detail Applet および新しいアプレット Service Request Archived Content Applet を追加します。したがって、ビューに表示する 2 つのアプレットそれぞれについて、ビュー Web テンプレート・アイテムを作成します。

ビュー Web テンプレート・アイテムを作成するには、それぞれ、以下の手順に従います。

1. 75 ページの『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』で作成したビュー Web テンプレートを選択する。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**View**」→「**View Web Template**」→「**View Web Template Item**」を選択する。「View Web Template Items」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Service Request Detail Applet を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Service Request Archived Content Applet を指定します)。

Item Identifier (アイテム ID)

アイテム ID は、Siebel Web テンプレート (.swt) ファイル内のコントロールへのマッピングを表します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムには 1 を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムには 2 を指定します)。

Applet (アプレット)

このビューに含めるアプレットの名前を指定します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Service Request Detail Applet を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムには、71 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』で作成したアプレットの名前 Service Request Archived Content Applet を指定します)。

Applet Mode (アプレット・モード)

ビューを表示する際にアプレットに使用されるモードを指定します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Edit を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Base を指定します)。

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

75 ページの『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』

77 ページの『ステップ 10: 画面オブジェクトの更新』

ステップ 10: 画面オブジェクトの更新:

1. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Screen**」を選択する。「Screens」ウィンドウが開きます。
2. 74 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューを追加する画面を選択する (ここでは Service Request Screen を選択します)。
3. 「**Tools**」→「**Lock Project**」を選択する。
4. 「**Screen**」を展開して「**Screen View**」を選択する。「Screen Views」ウィンドウが開きます。
5. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
6. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

View (ビュー)

74 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューの名前を指定します (ここでは、Service Request Detail Archived Content View とします)。

Category Menu Text (カテゴリー・メニュー・テキスト)

Siebel の **Category** メニューに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Category Viewbar Text (カテゴリー・ビューバー・テキスト)

Siebel のカテゴリー・ビューバーに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Menu Text (メニュー・テキスト)

Siebel のメニューに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Viewbar Text (ビューバー・テキスト)

Siebel のビューバー・タブに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Sequence (シーケンス)

Siebel アプリケーションの画面内のビュー・タブの配置位置を決めるための番号を指定します (ここでは 292 とします)。

7. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

76 ページの『ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成』
『ステップ 11: コンパイル』

ステップ 11: コンパイル:

1. 「**Tools**」→「**Compile Project**」を選択する。「Object Compiler」ウィンドウが開きます。
2. 「**Projects**」で「**Locked Projects**」を選択する。

3. 「**Browse**」の左側のテキスト・フィールドに、SRF ファイルのターゲット・ディレクトリーのパスを選択する（ここでは C:\sea703\client\OBJECTS\ENU とします）。
4. 「**Compile**」をクリックする。
5. 「**Tools**」→「**Unlock Project**」を選択して、ロックされているプロジェクトをアンロックする。
6. 「**Siebel Tools**」を終了する。

関連した概念:

- 65 ページの『Siebel 7.0.4 のカスタマイズの概要』
- 70 ページの『作業の概要』

関連した作業:

- 77 ページの『ステップ 10: 画面オブジェクトの更新』

作業 3: Siebel アプリケーションの構成:

作業の概要: ユーザー・インターフェース層を構成した後、IBM Content Manager ポートフォリオ製品と統合できるように Siebel アプリケーションを構成する必要があります。

この作業は 3 つのステップからなります。

- 『ステップ 1: 管理者としての Siebel Call Center へのログオン』
- 『ステップ 2: Siebel Call Center での新しいビューのセットアップ』
- 79 ページの『ステップ 3: 権限の作成』

ステップ 1: 管理者としての Siebel Call Center へのログオン: 管理者として Siebel Call Center にログオンするには、以下の手順に従います。

1. 「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Siebel Client 7.0.4**」→「**Siebel Call Center-ENU**」を選択する。
2. 管理者のユーザー ID とパスワードを入力する。
3. 「**Connect to**」→「**Server**」を選択する。

関連した概念:

- 『作業の概要』

関連した作業:

- 『ステップ 2: Siebel Call Center での新しいビューのセットアップ』

ステップ 2: Siebel Call Center での新しいビューのセットアップ: Siebel Call Center で新規ビューをセットアップするには、以下の手順に従います。

1. 「**View**」→「**Site Map**」→「**Application Administration**」を選択する。
2. 「**Views**」を選択する。
3. 「**New**」をクリックする。
4. 以下のフィールドに値を設定する。

Name (名前)

74 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューの名前を指定します (ここでは、Service Request Detail Archived Content View とします)。

Description (説明)

このビューの説明を入力します (ここでは、View for Siebel Integration for IBM Content Manager とします)。

5. カーソルを他のビューに移すことで、このビューの設定を確定する。

関連した概念:

78 ページの『作業の概要』

関連した作業:

78 ページの『ステップ 1: 管理者としての Siebel Call Center へのログオン』
『ステップ 3: 権限の作成』

ステップ 3: 権限の作成:

1. 「View」→「Site Map」→「Application Administration」→「Responsibilities」を選択する。
2. 「New」をクリックする。
3. 以下の情報を指定する。

Responsibility (権限)

権限の名前を指定します (ここでは、Call Center Manager for Content Manager とします)。

Description (説明)

この権限の説明を入力します。

Organization (組織)

デフォルトの組織

4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。
5. 「User」ウィンドウで、ユーザーを選択する (ここでは、John Smith を選択します)。
6. 「View」ウィンドウで、「Service Request Detail Archived Content View」を選択する。
7. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。
8. Siebel Call Center からログオフする。

関連した概念:

65 ページの『Siebel 7.0.4 のカスタマイズの概要』
78 ページの『作業の概要』

関連した作業:

78 ページの『ステップ 2: Siebel Call Center での新しいビューのセットアップ』

以上の作業が完了したら、99 ページの『構成した環境の検証』に進んでください。

Siebel 7.5.2 のカスタマイズ

Siebel 7.5.2 のカスタマイズの概要: Siebel 7.5.2 は、以下の 2 つの方法でカスタマイズして構成できます。

- Siebel 7.0.4 と同じ方法を使用する。つまり、Siebel ビジネス・コンポーネントの計算フィールド内部に URL を指定します。このオプションを選択する場合は、65 ページの『Siebel 7.0.4 のカスタマイズ』の説明に従ってください。
注: Calculated Value フィールド値を作成するときは、リリース・レベル引き数に SIEBELV75 を使用してください。
- Siebel 7.5.2 のポータル・フレームワークを使用して、Siebel ビジネス・コンポーネントの計算フィールド内部にシンボリック URL を定義する。

この節では、ポータル・フレームワークを使用して Siebel 7.5.2 を構成する方法について説明します。

Siebel 7.5.2 には、外部データ (Content Manager によって管理される非構造化データなど) を Siebel ユーザー・インターフェースに統合できるポータル・エージェントが用意されています。外部データを処理できるようにビジネス・コンポーネントの計算フィールドを構成するには、シンボリック URL を使用します。次に、アプレットを構成して、ビュー内部のアプレット・コンテナ内に外部 HTML コンテンツを表示します。

Siebel 7.5.2 の構成は、シンボリック URL を使用して外部データを処理するためにビジネス・コンポーネントを構成し、アプレット内部に外部コンテンツを表示し、Siebel アプリケーションを構成するという 3 つの作業で構成されています。

前提条件:

Siebel 7.5.2 を正しく構成するには、事前に以下のことを行う必要があります。

- Enterprise Information Portal 統合サーバーを作成しておく
- EIP システム管理クライアントまたは同等のアプリケーションを使用して、Content Manager サーバー (Content Manager バージョン 7、Content Manager バージョン 8、Content Manager OnDemand for OS/390 バージョン 2.1、バージョン 7.1、Content Manager OnDemand for Multiplatforms バージョン 7.1、Content Manager OnDemand for iSeries バージョン 4.5、バージョン 5.1、または ImagePlus for OS/390 バージョン 7.1) をセットアップしておく
- アイテム・タイプを作成しておく
- 1 つまたは複数の Content Manager サーバーにデータをインポートしておく
- EIP に統合エンティティと検索テンプレートを作成しておく
- Windows に Siebel ユーザーを作成しておく

推奨事項:

変更する Siebel リポジトリ・オブジェクトは保存しておいてください。これにより、後で Siebel Integration for IBM Content Manager を除去する必要が生じた場合に、保存しておいたこれらのオブジェクトをインポートすることで、この構成を実施する前の状態に Siebel アプリケーションの環境を復旧することができます。

この過程では、いろいろなオブジェクトの値を設定する必要があります (たとえば、アプレットの名前や計算フィールドの値などです)。以前に設定した値を使って新しいオブジェクトを定義しなければならない場合もあります。したがって、設定した値をすべて記録しておくことを強くお勧めします。

本書では、1 つの例を挙げて、コンテンツ・サーバーに格納されている非構造化データにアクセスするための Siebel 7.5.2 の構成方法をわかりやすく説明します。この例では、各作業の各ステップのフィールド設定に具体的な値を指定します。たとえば、作業 2 のステップ 1 の場合、以下のようになります。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)

この例では、構成過程で計算フィールド中の引き数に、以下の値を設定したと想定しています。

ホスト名

eipserver

ポート番号

80

eClient アプリケーション名

eClient82

eClientToken

token

IPFile Siebel

検索テンプレート

2k_DriverLicense

また、この例では、ユーザー John Smith が Siebel にセットアップされていて、すべてのアプリケーションおよびサービスの言語は英語に設定されているものとします。

関連した作業:

63 ページの『eClient の構成』

99 ページの『構成した環境の検証』

『作業 1: シンボリック URL を使用して外部データを処理するためのビジネス・コンポーネントの構成』

作業 1: シンボリック URL を使用して外部データを処理するためのビジネス・コンポーネントの構成: シンボリック URL を使用して外部データを処理するビジネス・コンポーネントを構成するには、ビジネス・コンポーネント内に新規の計算フィールドを作成する必要があります。このフィールドは、データベース内のレコードなどの構造化コンテンツを表すのではなく、外部ホストから送られる HTML コンテンツを表します。

ビジネス・コンポーネント内に計算フィールドを作成するには、以下の手順に従います。

1. **Siebel Tools** を立ち上げる。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Business Component**」を選択する。
3. 「Business Components」ウィンドウで、ビジネス・コンポーネント（ここでは、Service Request）を選択する。
4. メニューから、「**Tools**」→「**Lock Project**」を選択する。
5. Object Explorer で、「**Business Component**」→「**Field**」を選択する。
「Fields」ウィンドウが開き、選択されたビジネス・コンポーネント（ここでは、Service Request）に含まれているすべてのフィールドが表示されます。
6. 「Fields」ウィンドウで、右マウス・ボタンをクリックし、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
7. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します（ここでは、Archived Content とします）。

Calculated (計算)

TRUE

注: TRUE という値は、インターフェースにおけるチェックマークの意味になります。TRUE と示されている場合、すべてこの意味になります。

Calculated Value (計算値)

HTTP 要求の実行依頼に使用する（二重引用符で囲まれた）シンボリック URL の名前を入力します（ここでは、"SRSU" とします）。

Type (タイプ)

DTYPE_TEXT

Use Default Sensitivity (デフォルト・センシティビティーを使用)

TRUE

関連した概念:

80 ページの『Siebel 7.5.2 のカスタマイズの概要』

関連した作業:

『作業 2: アプレットでの外部コンテンツの表示』

83 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』

作業 2: アプレットでの外部コンテンツの表示:

作業の概要: ビジネス・コンポーネント用の計算フィールドを作成したら、フォーム・アプレット内のコントロールを使用して、ユーザー・インターフェース内に公開します。

この作業は 11 のステップからなります。

83 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』

83 ページの『ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作成』

- 84 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』
- 85 ページの『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』
- 86 ページの『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』
- 86 ページの『ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成』
- 87 ページの『ステップ 7: ビューの作成』
- 88 ページの『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』
- 88 ページの『ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成』
- 89 ページの『ステップ 10: 画面オブジェクトの更新』
- 90 ページの『ステップ 11: コンパイル』

ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成:

1. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Web Template**」を選択する。
「Web Templates」ウィンドウが開きます。
2. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
3. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)。

Project (プロジェクト)

変更しようとしているビジネス・コンポーネントのプロジェクト名を指定します (ここでは、Service とします)。

Type (タイプ)

Applet Template - Form

4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

『ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作成』

ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作成:

1. 『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』で作成した Web テンプレート・オブジェクトを選択する。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Web Template**」→「**Web Template File**」を選択する。「Web Template Files」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

83 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』で作成した Web テンプレートと同じ名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)。

File Name (ファイル名)

EIP81Applet.swt

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

83 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』
『ステップ 3: アプレットの作成』

ステップ 3: アプレットの作成:

1. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「Applet」を選択する。「Applets」ウィンドウが開きます。
2. 右マウス・ボタンをクリックして、「New Record」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
3. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Service Request Archived Content Applet とします)。

Project (プロジェクト)

変更しようとしているビジネス・コンポーネントのプロジェクト名を指定します (ここでは、Service とします)。

Business Component (ビジネス・コンポーネント)

81 ページの『作業 1: シンボリック URL を使用して外部データを処理するためのビジネス・コンポーネントの構成』で計算フィールドを追加したビジネス・コンポーネントの名前を指定します (ここでは、Service Request とします)。

Class (クラス)

CSSFrameBase

Title (タイトル)

意味のわかる名前を指定します。計算フィールドと同じ名前にしてかまいません (ここでは、Archived Content とします)。

Type (タイプ)

Standard

4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

- 83 ページの『ステップ 2: Web テンプレート・ファイル・オブジェクトの作成』
- 『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』

ステップ 4: アプレット・コントロールの作成:

1. 84 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』で作成したアプレットを選択する。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Applet**」→「**Control**」を選択する。「Controls」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

計算フィールドと同じ名前を指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Display Format (表示フォーマット)

HTML Text

Field (フィールド)

計算フィールドと同じ名前を指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Field Retrieval Type (フィールド検索タイプ)

Symbolic URL

HTML Display Mode (HTML 表示モード)

DontEncodeData

HTML Only (HTML のみ)

TRUE

HTML Row Sensitive (HTML ロー・センシティブ)

TRUE

HTML Type (HTML タイプ)

Field

Read Only (読み取り専用)

TRUE

Sort (ソート)

TRUE

Text Alignment (テキストの位置合わせ)

Left

Visible (可視)

TRUE

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

84 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』

『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』

ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成:

1. 84 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』で作成したアプレットを選択する。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Applet**」→「**Applet Web Template**」を選択する。「Applet Web Templates」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

Base

Type (タイプ)

Base

Web Template (Web テンプレート)

83 ページの『ステップ 1: Web テンプレート・オブジェクトの作成』で作成した Web テンプレート・オブジェクトの名前を指定します (ここでは、Applet Web Page Calc Value とします)。

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

85 ページの『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』

『ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成』

ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成:

1. 『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』で作成したアプレット Web テンプレートを選択する。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Applet**」→「**Applet Web Template**」→「**Applet Web Template Item**」を選択する。「Applet Web Template Items」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

81 ページの『作業 1: シンボリック URL を使用して外部データを処理

するためのビジネス・コンポーネントの構成』で作成した計算フィールドと同じ名前を指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Control (コントロール)

85 ページの『ステップ 4: アプレット・コントロールの作成』で作成したアプレット・コントロールを選択します (ここでは、Archived Content とします)。

Item Identifier (アイテム ID)

1301

Type (タイプ)

Control

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

86 ページの『ステップ 5: アプレット Web テンプレートの作成』
『ステップ 7: ビューの作成』

ステップ 7: ビューの作成:

1. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「View」を選択する。「Views」ウィンドウが開きます。
2. 右マウス・ボタンをクリックして、「New Record」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
3. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、Service Request Detail Archived Content View とします)。

Project (プロジェクト)

変更しようとしているビジネス・コンポーネントの名前を指定します (ここでは、Service とします)。

Business Object (ビジネス・オブジェクト)

このビューを配置する画面に対応するビジネス・オブジェクトを選択します。これは、通常、81 ページの『作業 1: シンボリック URL を使用して外部データを処理するためのビジネス・コンポーネントの構成』で変更したビジネス・コンポーネントのオブジェクトとします (ここでは、Service Request とします)。

Screen Menu (画面メニュー)

TRUE

Title (タイトル)

意味のわかるタイトルを指定します (ここでは、Service Request Archived Content とします)。

Thread Applet (スレッド・アプレット)

スレッド・フィールドにデータ値を指定するアプレットの名前を示します (ここでは Service Request Detail Applet とします)。

Thread Field (スレッド・フィールド)

データ値が矢印ボックスに含まれているフィールドの名前を、Thread Title (スレッド・タイトル) の後に指定します (ここでは、SR Number とします)。

Thread Title (スレッド・タイトル)

ビューを識別するためにスレッド内で使用されるテキストを指定します (ここでは、SR#: とします)。

4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

86 ページの『ステップ 6: アプレット Web テンプレート・アイテムの作成』
『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』

ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成:

1. 87 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューを選択する。
2. Object Explorer で、「Siebel Objects」→「View」→「View Web Template」を選択する。「View Web Templates」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「New Record」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

Base

Web Template (Web テンプレート)

View Detail

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

87 ページの『ステップ 7: ビューの作成』
『ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成』

ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成: ビューに表示するアプレットごとに、ビュー Web テンプレート・アイテムを作成する必要があります。ここでは、ビューに Service Request Detail Applet および新しいアプレット Service Request Archived Content Applet を追加します。したがって、ビューに表示する 2 つのアプレットそれぞれについて、ビュー Web テンプレート・アイテムを作成します。

ビュー Web テンプレート・アイテムを作成するには、それぞれ、以下の手順に従います。

1. 88 ページの『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』で作成したビュー Web テンプレートを選択する。
2. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**View**」→「**View Web Template**」→「**View Web Template Item**」を選択する。「View Web Template Items」ウィンドウが開きます。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**New Record**」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
4. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

Name (名前)

意味のわかる名前を指定します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Service Request Detail Applet を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Service Request Archived Content Applet を指定します)。

Item Identifier (アイテム ID)

アイテム ID は、Siebel Web テンプレート (.swt) ファイル内のコントロールへのマッピングを表します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムには 1 を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムには 2 を指定します)。

Applet (アプレット)

このビューに含めるアプレットの名前を指定します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Service Request Detail Applet を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムには、84 ページの『ステップ 3: アプレットの作成』で作成したアプレットの名前 Service Request Archived Content Applet を指定します)。

Applet Mode (アプレット・モード)

ビューを表示する際にアプレットに使用されるモードを指定します (ここでは、1 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Edit を、2 つ目のビュー Web テンプレート・アイテムに Base を指定します)。

5. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

88 ページの『ステップ 8: ビュー Web テンプレートの作成』
『ステップ 10: 画面オブジェクトの更新』

ステップ 10: 画面オブジェクトの更新:

1. Object Explorer で、「**Siebel Objects**」→「**Screen**」を選択する。「Screens」ウィンドウが開きます。
2. 87 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューを追加する画面を選択する (ここでは Service Request Screen を選択します)。

3. 「Tools」 → 「Lock Project」を選択する。
4. 「Screen」を展開して「Screen View」を選択する。「Screen Views」ウィンドウが開きます。
5. 右マウス・ボタンをクリックして、「New Record」を選択する。新しい空白のレコードが、一番上に表示されます。
6. このレコードの場所までスクロールし、以下のフィールドに値を設定する。残りのフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。

View (ビュー)

87 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューの名前を指定します (ここでは、Service Request Detail Archived Content View とします)。

Category Menu Text (カテゴリー・メニュー・テキスト)

Siebel の **Category** メニューに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Category Viewbar Text (カテゴリー・ビューバー・テキスト)

Siebel のカテゴリー・タブに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Menu Text (メニュー・テキスト)

Siebel のメニューに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Viewbar Text (ビューバー・テキスト)

Siebel のビューバー・タブに表示するテキストを指定します (ここでは、Archived Content とします)。

Sequence (シーケンス)

Siebel アプリケーションの画面内のビュー・タブの配置位置を決めるための番号を指定します (ここでは 292 とします)。

7. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

『ステップ 11: コンパイル』

88 ページの『ステップ 9: ビュー Web テンプレート・アイテムの作成』

ステップ 11: コンパイル:

1. 「Tools」 → 「Compile Project」を選択する。「Object Compiler」ウィンドウが開きます。
2. 「Projects」で「Locked Projects」を選択する。
3. 「Browse」の左側のテキスト・フィールドで、SRF ファイルのターゲット・ディレクトリーのパスを選択する (ここでは C:\sea705\client\OBJECTS\ENU\ とします)。
4. 「Compile」をクリックする。

5. 「**Tools**」→「**Unlock Project**」を選択して、ロックされているプロジェクトをアンロックする。
6. 「**Siebel Tools**」を終了する。

関連した概念:

82 ページの『作業の概要』

関連した作業:

89 ページの『ステップ 10: 画面オブジェクトの更新』

作業 3: Siebel アプリケーションの構成:

作業の概要: ユーザー・インターフェース層を構成した後、Siebel アプリケーションを構成して IBM Content Manager サーバーと統合する必要があります。

この作業は、以下の 8 ステップで構成されます。

- 『ステップ 1: 管理者としての Siebel Call Center へのログオン』
- 『ステップ 2: 外部データ・ホストの定義』
- 92 ページの『ステップ 3: シンボリック URL の定義』
- 93 ページの『ステップ 4: 必須のシンボリック URL 引き数の定義』
- 95 ページの『ステップ 5: シンボリック URL 引き数の定義 (オプション)』
- 97 ページの『ステップ 6: 外部 Web アプリケーションの指定およびログイン・クリデンシャルの定義 (オプション)』
- 98 ページの『ステップ 7: Siebel Call Center での新規ビューのセットアップ』
- 98 ページの『ステップ 8: 権限の作成』

ステップ 1: 管理者としての Siebel Call Center へのログオン: 管理者として Siebel Call Center にログオンするには、以下の手順に従います。

1. 「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Siebel Client 7.5**」→「**Siebel Call Center-ENU**」を選択する。
2. 管理者のユーザー ID とパスワードを入力する。
3. 「**Connect to**」→「**Server**」を選択する。

関連した概念:

『作業の概要』

関連した作業:

『ステップ 2: 外部データ・ホストの定義』

ステップ 2: 外部データ・ホストの定義: このステップでは、「Host Administration」ビューに外部データ・ホストを定義します。

1. **Siebel Call Center 7.5** を立ち上げる。
2. メニューから、「**View**」→「**Site Map**」→「**Integration Administration**」→「**Host Administration**」を選択する。
3. 「**New**」をクリックする。
4. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

eClient がインストールされているシステムのホスト名を指定します。ホスト名には、ドメインの接尾部が含まれなければなりません (ここでは、server.mycompany.com とします)。

Virtual Name (仮想名)

ユーザー定義のホスト名を指定します (ここでは、"eipserver" とします)。

Authentication Type (認証タイプ)

このフィールドはブランクのままにします。

Authentication Value (認証値)

このフィールドはブランクのままにします。

関連した概念:

91 ページの『作業の概要』

関連した作業:

91 ページの『ステップ 1: 管理者としての Siebel Call Center へのログオン』
『ステップ 3: シンボリック URL の定義』

ステップ 3: シンボリック URL の定義: このステップでは、81 ページの『作業 1: シンボリック URL を使用して外部データを処理するためのビジネス・コンポーネントの構成』の計算値フィールドで示されたシンボリック URL を定義します。

1. メニューから、「View」→「Site Map」→「Integration Administration」→「Symbolic URL Administration」を選択する。
2. 「Symbolic URL Administration」ビューで、「New」をクリックする。
3. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

シンボリック URL の名前を指定します (ここでは、"SRSU" とします)。

URL

eClient 統合サプレットを呼び出す URL を指定します。この URL は、次のような形式を持ちます。URL scheme://virtual host name/eClient application name/IDMIntegrator (ここでは、http://eipserver:80/eClient82/IDMIntegrator とします)。

Host Name (ホスト名)

91 ページの『ステップ 2: 外部データ・ホストの定義』のステップ 4 の Host Administration ビューで定義されたホストの仮想名を指定します (ここでは、server.mycompany.com とします)。

Fixup Name (修正名)

デフォルト

Multivalued Treatment (複数値処理)

このフィールドはブランクのままにします。

SSO Disposition (SSO 後処理)

IFrame

Web Application (Web アプリケーション)

このフィールドはブランクのままにします。

関連した概念:

91 ページの『作業の概要』

関連した作業:

91 ページの『ステップ 2: 外部データ・ホストの定義』

『ステップ 4: 必須のシンボリック URL 引き数の定義』

ステップ 4: 必須のシンボリック URL 引き数の定義: このステップでは、シンボリック URL の引き数を定義します。

1. メニューから、「**Site Map**」→「**Integration Administration**」→「**Symbolic URL Administration**」を選択する。「Symbolic URL Administration」ウィンドウが開きます。
2. 構成するシンボリック URL を選択する。
3. 「Symbolic URL Arguments」アプレットで、「**New**」をクリックする。
4. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

method

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Command

Argument Value (引き数値)

Siebel Symbolic URL Administration では、2 つの Argument value フィールドが提供されます。1 つ目の Argument value フィールドに PostRequest を入力し、2 つ目の値フィールドはブランクのままにします。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

1

5. 「**New**」をクリックする。
6. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

eClientToken

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Constant

Argument Value (引き数値)

IP ファイルで指定したのと同じ eClientToken プロパティ値 (ここでは、token とします)。Siebel Integration for IBM Content Manager は、URL に指定されたトークンを IP ファイルに指定されているトークン

と比較し、コンテンツ・サーバー管理下のデータへのアクセスを制御します。eClientToken 値は、大文字小文字が区別されます。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

2

7. 「New」をクリックする。

8. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

IPFile

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Constant

Argument Value (引き数値)

IP ファイルの名前を指定します (ここでは、Siebel とします)。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

3

9. 「New」をクリックする。

10. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

ReleaseLevel

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Constant

Argument Value (引き数値)

Siebel アプリケーション・サーバーのリリース・レベルを指定します (ここでは、SIEBELV75 とします)。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

4

11. 「New」をクリックする。

12. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

Entity

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Constant

Argument Value (引き数値)

EIP システム管理クライアントを使用して定義した統合検索テンプレートの名前を指定します (ここでは、2k_DriverLicense とします)。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

5

13. 検索基準を定義する。検索基準ごとに「**New**」をクリックして、以下の情報を指定します。

Name (名前)

検索基準名を指定します。

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Field または Constant

引き数値が Siebel エンティティのレコード内のフィールドである場合、引き数タイプ値 Field を使用します。引き数値が定数である場合、引き数タイプ値 Constant を使用します。

Argument Value (引き数値)

検索基準値を指定します (ここでは、Contact Last Name とします)。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

<次のシーケンス番号>

関連した概念:

91 ページの『作業の概要』

関連した作業:

92 ページの『ステップ 3: シンボリック URL の定義』

『ステップ 5: シンボリック URL 引き数の定義 (オプション)』

ステップ 5: シンボリック URL 引き数の定義 (オプション): オプショナルのシンボリック URL 引き数には、サーバー、ユーザー ID、およびパスワードの 3 つがあります。サーバー、ユーザー ID、およびパスワードの各プロパティを IP ファイル内に指定した場合は、それらをシンボリック URL で定義する必要はありません。これらをシンボリック URL および IP ファイルの両方で定義すると、シンボリック URL 内の値が IP ファイル内の値よりも優先されます。

シンボリック URL 引き数を定義するには、以下の手順に従います。

1. 「Symbolic URL Administration」ウィンドウで、「**New**」をクリックする。
2. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

server

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Constant

Argument Value (引き数値)

アクセスするサーバー・データベースの名前を指定します。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

<次のシーケンス番号>

3. 「New」をクリックする。

4. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

userid

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Siebel のシングル・サインオン機能を使用している場合は、引き数タイプを Command に設定します。そうでない場合は、引き数タイプを Constant に設定します。

Argument Value (引き数値)

引き数タイプが Command の場合は、UserLoginID を指定します。引き数タイプが Constant の場合は、サーバー・データベースへのアクセスに使用されるユーザー ID を指定します。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

<次のシーケンス番号>

5. 「New」をクリックする。

6. 以下の情報を指定する。

Name (名前)

password

Required (必須)

Yes

Argument Type (引き数タイプ)

Siebel のシングル・サインオン機能を使用している場合は、引き数タイプを Command に設定します。そうでない場合は、引き数タイプを Constant に設定します。

Argument Value (引き数値)

引き数タイプが Command の場合は、UserLoginPassword を指定します。

引き数タイプが Constant の場合は、サーバー・データベースへのアクセスに使用されるパスワードを指定します。

Append as Argument (引き数として付加)

Yes

Sequence (シーケンス)

<次のシーケンス番号>

関連した概念:

91 ページの『作業の概要』

関連した作業:

93 ページの『ステップ 4: 必須のシンボリック URL 引き数の定義』

『ステップ 6: 外部 Web アプリケーションの指定およびログイン・クリデンシャルの定義 (オプション)』

ステップ 6: 外部 Web アプリケーションの指定およびログイン・クリデンシャルの定義 (オプション): Siebel 7.5.2 にはシングル・サインオン機能も備えられています。Siebel ユーザーにとってシングル・サインオンの利点は、IBM Content Manager で管理されている非構造化データにアクセスする Siebel eBusiness アプリケーションを使用するときに、ユーザー ID とパスワードの入力を 1 回しか要求されないことです。Siebel シングル・サインオン機能を使用していない場合は、このステップを実行する必要はありません。

このステップでは、外部 Web アプリケーションを指定して、ログイン・クリデンシャルを定義します。

1. 既存の Siebel ユーザーを選択するか、または Siebel ユーザーを作成する。
2. メニューから、「Site Map」→「Integration Administration」→「SSO Systems Administration」→「Set the SSO System Value」を選択する。
 - a. 「System Name」の値を指定する (ここでは、SSO とします)。
 - b. 「Symbolic URL Name」リスト・ボックスから、シンボリック URL の名前を選択する (ここでは、SRSU とします)。
3. メニューから、「Site Map」→「Integration Administration」→「SSO Systems Administration」→「Set the SSO System Users」を選択する。
 - a. Siebel の「Login Name」リスト・ボックスから、Siebel ログイン名を選択する (ここでは、siebel_user とします)。
 - 1) ログイン名を、サーバー・データベースへのログオンに使用するユーザー名に設定する (ここでは、newuser とします)。
 - 2) パスワードを、サーバー・データベースへのログオンに使用するパスワードに設定する (ここでは、password とします)。

関連した概念:

91 ページの『作業の概要』

関連した作業:

95 ページの『ステップ 5: シンボリック URL 引き数の定義 (オプション)』

98 ページの『ステップ 7: Siebel Call Center での新規ビューのセットアップ』

ステップ 7: Siebel Call Center での新規ビューのセットアップ: Siebel Call Center で新規ビューをセットアップするには、以下の手順に従います。

1. 「View」→「Site Map」→「Application Administration」を選択する。
2. 「Views」を選択する。
3. 「New」をクリックする。
4. 以下のフィールドに値を設定する。

Name (名前)

74 ページの『ステップ 7: ビューの作成』で作成したビューの名前を指定します (ここでは、Service Request Detail Archived Content View とします)。

Description (説明)

このビューの説明を入力します (ここでは、View for Siebel Integration for IBM Content Manager とします)。

5. カーソルを他のビューに移すことで、このビューの設定を確定する。

関連した概念:

91 ページの『作業の概要』

関連した作業:

97 ページの『ステップ 6: 外部 Web アプリケーションの指定およびログイン・クリデンシャルの定義 (オプション)』
『ステップ 8: 権限の作成』

ステップ 8: 権限の作成: 権限を作成するには、以下の手順に従います。

1. 「View」→「Site Map」→「Application Administration」→「Responsibilities」を選択する。
2. 「New」をクリックする。
3. 以下の情報を指定する。

Responsibility (権限)

権限の名前を指定します (ここでは、Call Center Manager for Content Manager とします)。

Description (説明)

この権限の説明を入力します。

Organization (組織)

デフォルトの組織

4. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。
5. 「User」ウィンドウで、ユーザーを選択する (ここでは、John Smith を選択します)。
6. 「View」ウィンドウで、「Service Request Detail Archived Content View」を選択する。
7. カーソルを他のレコードに移すことで、このレコードの設定を確定する。
8. Siebel Call Center からログオフする。

関連した概念:

91 ページの『作業の概要』

関連した作業:

98 ページの『ステップ 7: Siebel Call Center での新規ビューのセットアップ』

以上の作業が完了したら、『構成した環境の検証』に進んでください。

構成した環境の検証

Siebel Integration for IBM Content Manager のインストール完了後、構成した環境を検証することを強くお勧めします。

セットアップしたユーザー ID とパスワードを使用して、Siebel Call Center にログインします (ここでは、John Smith のユーザー ID とパスワードを使用します)。

構成した環境を検証するには、以下の手順に従います。

1. 構成時に、Siebel エンティティ (この例では Service Request) のビジネス・コンポーネント (この例では Service Request) を変更し、そのエンティティに関連付けられた非構造化データを表示するためのビュー (この例では Service Request Detail Archived Content View) を作成しておく。作成したビューを含む画面の画面タブをクリックする (この例では service)。
2. 「New」をクリックして、Siebel エンティティ用の新しいレコードを作成する。
3. 計算フィールドまたはシンボリック URL 引き数によって検索基準の中で参照されている、レコードの各フィールドの値を指定する (この例では Last Name)。
4. 非構造化データの検索を開始するビュー・タブをクリックする (この例では archived content)。
5. 目的の非構造化データが検索結果に表示されているかどうかを検証する。

第 5 章 eClient の開始および停止

この節では、Windows、AIX、および Solaris 上の WebSphere 4 および WebSphere 5 で eClient を開始および停止する方法について説明します。

eClient の開始

この節では、Windows、AIX、および Solaris 上の WebSphere 4 および WebSphere 5 で eClient を開始する方法について説明します。

WebSphere 4 での eClient の開始

WebSphere 4 で eClient を開始するには、.bat ファイル (AIX および Solaris では .sh ファイル) を実行するか、WebSphere Administrative Console を使用します。

.bat ファイル (AIX および Solaris では .sh ファイル) を実行して eClient を開始するには:

1. Windows では、¥Save サブディレクトリーに移動し、AIX または Solaris では、/Save サブディレクトリーに移動します。
- 2.

Windows の場合

WebSphere Application Server 4.0.5 AE では startIDMAE.bat ファイルを、WebSphere Application Server 4.0.5 AES では startIDMAES.bat ファイルを開く。

AIX または Solaris の場合

WebSphere Application Server 4.0.5 AE では startIDMAE.sh を、WebSphere Application Server 4.0.5 AES では startIDMAES.sh を入力する。

WebSphere Administrative Console を使用して eClient を開始するには:

1. WebSphere Administrative Domain 内にある自分のアプリケーション・サーバー・マシンに対応する eClient アプリケーション・サーバーのエントリーにナビゲートする。
2. eClient をまだ開始していない場合は、「**スタート (Start)**」を右クリックして選択する。既に eClient を開始している場合に再始動するときは、「**停止 (Stop)**」を右クリックして選択します。停止コマンドが完了したら、「**スタート (Start)**」を右クリックして選択します。

WebSphere 5 での eClient の開始

WebSphere 5 で eClient を開始するには、.bat ファイル (AIX および Solaris では .sh ファイル) を実行します。

.bat ファイル (AIX および Solaris では .sh ファイル) を実行して eClient を開始するには:

1. Windowsでは、¥Save サブディレクトリーに移動し、AIX または Solaris では、/Save サブディレクトリーに移動します。
- 2.

Windows の場合

startIDMServer.bat ファイルを開く。

AIX および Solaris の場合

startIDMServer.sh と入力する。

関連した作業:

21 ページの『第 4 章 構成』

113 ページの『第 7 章 eClient アプリケーションの管理』

eClient の停止

この節では、Windows、AIX、および Solaris 上の WebSphere 4 および WebSphere 5 で eClient を停止する方法について説明します。

WebSphere4 での eClient の停止

WebSphere 4 で eClient を停止するには、.bat ファイル (AIX および Solaris では .sh ファイル) を実行します。

1. Windowsでは、¥Save サブディレクトリーに移動し、AIX または Solaris では、/Save サブディレクトリーに移動します。
- 2.

Windows の場合

WebSphere Application Server 4.0.5 AE では stopIDMAE.bat ファイルを、WebSphere Application Server 4.0.5 AES では stopIDMAES.bat ファイルを開く。

AIX または Solaris の場合

WebSphere Application Server 4.0.5 AE では stopIDMAE.sh を、WebSphere Application Server 4.0.5 AES では stopIDMAES.sh を入力する。

WebSphere 5 での eClient の停止

WebSphere 5 で eClient を停止するには、.bat ファイル (AIX および Solaris では .sh ファイル) を実行します。

1. Windowsでは、¥Save サブディレクトリーに移動し、AIX または Solaris では、/Save サブディレクトリーに移動します。
- 2.

Windows の場合

stopIDMServer.bat ファイルを開く。

AIX または Solaris の場合

stopIDMServer.sh と入力する。

関連した作業:

	21 ページの『第 4 章 構成』
	113 ページの『第 7 章 eClient アプリケーションの管理』

第 6 章 eClient アプリケーションのカスタマイズ

eClient アプリケーションは各組織の要件に合わせてカスタマイズできます。

関連した作業:

『eClient JavaServer Page (JSP)』

109 ページの『eClient グラフィックスのカスタマイズ』

111 ページの『eClient ヘルプのカスタマイズ』

eClient JavaServer Page (JSP)

eClient は一連の JSP を使用してインプリメントされます。これらの JSP は eClient がインストールされているディレクトリの中にあります。eClient をカスタマイズするには、これらの JSP を変更するか、独自の JSP に置き換えます。

eClient には次の JSP が含まれています。

個々の項目に関連した eClient JSP

Blank.jsp	ブランク・ページを表示する。
IDMActionPage.jsp	eClient ホーム・ページを開く。ユーザーはこのホーム・ページから eClient の機能の使用を開始できます。
IDMAddedItem.jsp	フォルダーまたはワーク・リストに項目が追加されたことを確認する。
IDMAddItemtoFolder.jsp	文書またはフォルダーをフォルダーに追加できるようにする。
IDMChangePassword.jsp	ユーザーがパスワードを変更しようとする则表示される。
IDMCloseWindow.jsp	ウィンドウを閉じる。
IDMDeleteItem.jsp	データベースから項目を削除できるようにする。
IDMDeletedItem.jsp	項目が削除されたかどうか確認する。
IDMClipboard.jsp	項目をクリップボードに表示できるようにする。
IDMEditAttributes.jsp	項目の属性を表示し、それらの属性の更新を可能にする。項目のインデックス方法を変更するときに使用されます。
IDMEmail.jsp	ユーザーがオブジェクトを添付した E メール・メッセージを作成しようとする则表示される。
IDMLogon.jsp	ユーザーが最初に eClient にアクセスし、サーバーにログオンするときに表示される。このページにはバナー・グラフィック (banner.gif) が表示されます。バナーをカスタマイズするには、別のグラフィックを用意し、このページからそのグラフィックを呼び出します。
IDMLogon2.jsp	ログオン・ページを表示する。
IDMLogonNewPassword.jsp	「パスワード変更 (Change Password)」ページを表示する。ユーザーはこのページでパスワードを変更できます。
mail.jsp	文書の E メール送信を可能にする。

	IDMMessageBox.jsp	メッセージ・ボックスを表示する。
	IDMItemTypeInfo.jsp	要求された項目のタイプをリストする。
	IDMItemTypeInfoFrame.jsp	項目タイプのリストと、項目タイプ・リストのタイトル・バーを表示する。
	IDMItemTypeInfoTitlebar.jsp	項目タイプのタイトルを表示する。
	IDMItemTypeInfo.jsp	項目タイプ、索引クラス、または検索テンプレートのリストを表示する。この JSP は
		IDMItemTypeInfoFrame フレーム・セットの一部です。
	IDMItemTypeInfoFrame.jsp	IDMItemTypeInfoFrame および
		IDMItemTypeInfoTitlebarを含むフレーム・セットを表示する。
	IDMItemTypeInfoTitlebar.jsp	項目タイプ、索引クラス、OnDemand フォルダー、または検索テンプレートのリストを表示するためのフレーム・セットに情報を表示するタイトル・バー。
	IDMItemVersions.jsp	1 つの項目のすべてのバージョンのリストを表示する。
	IDMNoteLog.jsp	ユーザーが Content Manager バージョン 8 サーバーから Notelog を表示または Notelog に追加できるウィンドウを表示する。
	IDMResultsFrameBottom.jsp	IDMSearchFrame ページの下部フレームに検索結果のパネルを表示する。
	IDMQueryBuilder.jsp	照会ビルダーを表示する。
	Heading.jsp	検索結果ページの見出しを表示する。
	ItemTable.jsp	項目のコレクションを表示する。
	ItemTableHeader.jsp	項目のコレクションのテーブル・ヘッダーを表示する。
	ItemTabs.jsp	項目のコレクションの項目タイプのタブを表示する。
	IDMItemVersions.jsp	項目のバージョンを表示する。
	ControlPrt.jsp	ユーザーが HTML ベースのコンテンツを自分のブラウザから印刷できるようにする。
	ErrorPage.jsp	エラーが検出されたときに表示される。
	LocalPrintFrameset.jsp	印刷オプションを表示する。
	IDMUserIDMapping.jsp	統合サーバーの EIP 管理データベースの中にマップされている、保管済みユーザー ID とパスワードを変更するためのログオン・ウィンドウをユーザーに表示する。
	IDMProcessing.jsp	進行中のプロセスがあるときに、「処理中 (Processing)」または「お待ちください (Please Wait)」のグラフィックを表示する。
	IDMProgressIndicator.jsp	進行標識を表示する。
	IDMUserIDMapping.jsp	ユーザーが統合サーバーを通じてさまざまなコンテンツ・サーバーにアクセスするために、自分のユーザー ID をマップできるようにする。

検索に関連した eClient JSP

IDMAdvancedSearch.jsp	IDMSearchFrame.jsp によって制御されるフレームに拡張検索ページを表示する。
IDMBasicSearch.jsp	IDMSearchFrame によって制御されるフレームに基本検索ページを表示する。
IDMSearchFrame.jsp	メイン検索ページのフレーム・セットを表示する。
IDMSearchResults.jsp	検索結果を表示する。

IDMSearchTemplate.jsp	ユーザーが検索に使用できる有効な検索テンプレートまたは項目タイプのリストを含むページを表示する。
IDMSearchToolbar.jsp	検索用のツールバーを表示する。
IDMViewApplet.jsp	ビューアー・アプレットに組み込まれた HTML ページを開く。
IDMViewFrames.jsp	「表示 (View)」ページを表示する。項目全体がブラウザーに送信された場合、このページがブラウザーに項目を書き込みます。
IDMViewPage.jsp	選択した項目の現行ページを含むペインを「表示 (View)」ページに表示する。このページは、現行設定のサイズ、回転などのパラメーターを使用して IDMViewFrame の下部フレームに表示されます。
IDMViewToolbar.jsp	項目タイプが表示されるときに、IDMViewFrame の上部フレームにツールバーを表示する。
IDMResultsFrameBottom.jsp	検索結果の下部フレーム・セットを表示する。

フォルダーに関連した eClient JSP

IDMAddItem.jsp	「文書のインポート (Import Document)」、「フォルダー作成 (Create Folder)」、および「統合フォルダーの作成 (Create Federated Folder)」ページを表示する。
IDMFolderContents.jsp	検索結果からディレクトリーの内容を表示する。
IDMFolderDeleteItem.jsp	ユーザーがフォルダーの項目を除去しようとする则表示される。
IDMFolderContents.jsp	フォルダーの内容を表示する。これは、ワーク・リストまたは検索結果の中にあります。検索結果のワーク・リストと同じフレーム内に表示されます。
IDMFolderDeleteItem.jsp	フォルダーから 1 つまたは複数の項目を削除する。

注釈に関連した eClient JSP

IDMODAnnotationsBB.jsp	IDMODAnnotationsFrame のフレームに注釈用の下部ボタン・セットを表示する。
IDMODAnnotationsBS.jsp	IDMODAnnotationsFrame のフレームに注釈用の枠のタイトルを表示する。
IDMODAnnotationsBT.jsp	IDMODAnnotationsFrame のフレームに、注釈を検索するための上部ボタン・セットを表示する。
IDMODAnnotationsFrame.jsp	「ビューの注釈 (View Annotations)」ページを表示する。このファイルにはそのページのフレーム・セットが含まれます。
IDMODAnnotationsList.jsp	IDMODAnnotationsFrame のフレームに、選択した文書の注釈のリストを表示する。
IDMODAnnotationsView.jsp	IDMODAnnotationsFrame のフレームに注釈を表示する。
IDMODAnnotationsBB.jsp	OnDemand 注釈インターフェースの下部領域を表示する。
IDMODAnnotationsBS.jsp	OnDemand 注釈インターフェースの検索領域のフレームを表示する。
IDMODAnnotationsBT.jsp	OnDemand 注釈インターフェースの上部領域を表示する。
IDMODAnnotationsFrame.jsp	OnDemand 注釈インターフェースのフレーム・セットを表示する。

	IDMODAnnotationsEntry.jsp	複数のフレームから成るフレーム形式のインターフェースを表示する。
	IDMODAnnotationsList.jsp	複数のフレームから成るフレーム構成のインターフェースを表示する。
	IDMODAnnotationsView.jsp	OnDemand 注釈インターフェース内で選択された注釈の内容を表示する。

ワークフローおよび文書ルーティングに関連した eClient JSP

	IDMWorkLists.jsp	ユーザーが検索できる作業リストをリストする。
	IDMWorkItems.jsp	作業リストの作業項目を表示する。
	IDMWorkflowCheckIn.jsp	作業項目を検査する。
	IDMWorkflowFrames.jsp	IDMWorkflowToolBar.jsp および IDMWorkItems.jsp を含む。
	IDMWorkflowNotifications.jsp	作業通知を表示する。
	IDMWorkflowStartOnFolder.jsp	複数の項目の作業フローを開始する。
	IDMWorkflowToolBar.jsp	IDMWorkItems.jsp のツールバー
	IDMWorkflowChange.jsp	選択した項目を、現行のワークフローから別のワークフローに移動する。
	IDMWorkflowInfo.jsp	ワークフローまたは文書ルーティング情報を表示する。
	IDMWorkflowStart.jsp	EIP ワークフローまたは Content Manager 文書ルーティング・プロセス上の項目を開始する。
	IDMWorkflowStrings.jsp	作業項目のワークフロー変数を表示する。 EIP ワークフロー上の各項目には、表示または編集が可能な変数が最高で 5 つあります。
	IDMWorkflowSuspend.jsp	ユーザーが、指定した時間の間、選択した文書のワークフローを中断できるようにする。
	IDMWorkflowDelNotif.jsp	ワークフロー通知リストを削除する。
	WFPageHeading.jsp	ワーク・リストの列ヘッダーを表示する。
	WFPageItemTable.jsp	文書やフォルダーなどの項目の汎用リストを表示する。
	WFPageItemTableHeader.jsp	テーブル・ヘッダーまたは列ヘッダーを作成する。
	WFPageItemTabs.jsp	さまざまな項目タイプまたは索引クラスの項目用のタブを作成する。

文書ルーティングに関連した eClient JSP

	IDMDocRoutingConfirmWindow.jsp	ウィンドウを開き、項目が文書ルーティング・プロセス上に置かれたことを確認するページを表示する。
	IDMDocRoutingGetWork.jsp	文書ルーティング・プロセスまたはワークフローから項目を検索し、ワーク・リストに記入する内部 JSP。
	IDMDocRoutingInfo.jsp	検索結果の個々の項目の文書ルーティング情報を表示する。
	IDMDocRoutingPriority.jsp	文書ルーティング・プロセス上の項目の優先順位を変更する。
	IDMDocRoutingSelectUser.jsp	ワーク・リストから作業を割り当てるユーザーを選択するためのウィンドウを表示する。

eClient グラフィックスのカスタマイズ

表 5. CSS クラスおよび背景グラフィックス

第 6 章 eClient アプリケーションのカスタマイズ 109

表 5. CSS クラスおよび背景グラフィックス (続き)

CSS クライアント またはエレメント	背景グラフィックス	説明
BODYDIALOG	icons/dialog_bk.jpg	eClient 内のウィンドウに使用されます。「インポート (Import)」、「属性の編集 (Edit Attributes)」、「E メール (E-mail)」など多くのウィンドウでこのクラスが使用されます。
BODY	該当なし	その他の eClient 内のページではすべて、カスケード・スタイル・シートで外観を設定します。BODY エレメントではデフォルトにより背景グラフィックスが指定されませんが、背景色は白に設定されます。

eClient のグラフィックスは、独自のアートワークに置き換えてカスタマイズすることができます。eClient のフォント、色、および背景色は、eclient81.css カスケード・スタイル・シート・ファイルで設定できます。アイコンまたはグラフィックスのデフォルトの位置が変更された場合、背景イメージを指定する CSS スタイルも変更する必要があります。以下は、eClient で使用されるカスケード・スタイル・シート・ファイルに指定されている CSS クラスです。

```

/* main body - plain white background */
BODY {
background : White;
padding-top : 0px;
padding-left : 0px;
/*background-image : url(icons/background.jpg);
*/
}/* body - For Logon screen */
.BODYLOGON {
background : White;
padding-top : 0px;
padding-left : 0px;
background-image : url(icons/logon_bk.jpg);
}
/* body - Home page or Action Page */
.BODYHOME {
background : White;
padding-top : 0px;
padding-left : 0px;
background-image : url(icons/home_bk.jpg);
}
/* body - For Frame pages background */
.BODYMINI {
background : White;
padding-top : 0px;
padding-left : 0px;
background-image : url(icons/mini_bk.jpg);
background-repeat : no-repeat;
}
/* body - background for Dialog windows */
.BODYDIALOG {
background : White;

```

```
| padding-top : 0px;  
| padding-left : 0px;  
| background-image : url(icons/dialog_bk.jpg);  
| }
```

eClient ヘルプのカスタマイズ

ユーザーのための eClient のカスタマイズ操作の一環として、カスタマイズしたオンライン・ヘルプを提供すること、または独自のヘルプを追加することが可能です。ヘルプ・ファイルは HTML で書かれ、eClient がインストールされているディレクトリーに保管されています。

ヘルプ・ファイルでは、カスケード・スタイル・シート、(eclient81.css) および JavaScript ファイル、(generalFunctionsIDM.js) が使用されます。これらは両方とも eClient がインストールされているディレクトリーの中にあります。独自のスタイル・シートまたはスクリプト・ファイルを使用する場合は、ヘルプ・ファイルのリンクを変更してください。

ヘルプ・ファイルでは、icons ディレクトリーにある背景、bkgrd.gif のグラフィックが使用されます。独自のグラフィックを指定する場合は、スタイル・シートを変更してそのグラフィックを指定してください。

独自のヘルプ・トピックを追加する場合は、新規のヘルプ・トピックを表示するページまたはパネルの JSP を変更する必要があります。ヘルプの呼び出しの中に、自分が提供する新規の HTML ファイルを指定してください。

ビューアー・アプレットのカスタマイズ

ビューアー・アプレットをカスタマイズするには、cmbviewer81.jar ファイルに入っているデフォルトの構成ファイル CMBViewerConfiguration.properties を変更します。「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」の『Java文書ビューアー・ツールキットの使用』を参照してください。

第 7 章 eClient アプリケーションの管理

この節では、eClient アプリケーションを管理する方法について説明します。

関連した作業:

『構成パラメーターの設定および変更』

117 ページの『eClient によるコンテンツ・タイプの処理方法』

118 ページの『カスタマイズしたクライアントのパラメーターの構成』

構成パラメーターの設定および変更

インストール後、eClient はデフォルトの構成プロパティーを使用しますが、このプロパティーは `IDM.properties` ファイルで編集可能です。`IDM.properties` ファイルは、eClient がインストールされているルート・ディレクトリーの中にあります。eClient アプリケーション管理にかかわるほとんどの設定は、このファイルの基本パラメーターで制御します。

プロパティーを変更する場合は、テキスト・エディターで `IDM.properties` を開き、変更を行って保管します。プロパティー・ファイルの変更内容は、次回 eClient プロパティー・デーモンがプロパティーを検査したときに有効になります。プロパティー・デーモンを使用不可にしている場合は、アプリケーション・サーバーを再始動しないと、変更した内容を eClient で利用できません。

`IDMdefault.properties` ファイルには、`IDM.properties` ファイルにあるパラメーターのデフォルト値が含まれています。

キャッシュ・ディレクトリーの設定

eClient がシステム・リソースの管理に利用する文書をキャッシュする場所を設定できます。文書のキャッシングに使用するディレクトリーは、`CacheDir` パラメーターで指定します。

1 ページに表示する検索結果の最大数の設定

1 ページに表示する検索結果の最大数は、`MaxResults` パラメーターで指定できます。たとえば、このパラメーターを 50 に設定し、200 の検索結果が得られた場合、その結果は 4 ページにわたって表示されます。ただし、サーバーで独自の最大結果値が指定されている可能性もあるため、指定した値がサーバー独自の最大値を超えないように確認してください。このパラメーターは、Enterprise Information Portal の統合検索によって戻される結果の数には影響しません。この数は Enterprise Information Portal で制御します。

コンテンツ・サーバーから戻される検索結果の最大数の設定

特定のコンテンツ・サーバーから戻される項目数を、`TotalMaxResults` パラメーターで制限できます。このような制限を設けておくと、中間層におけるパフォーマンスが向上し、照会で検出された多数のヒットを処理するときに、ブラウザーがタイ

ムアウトになりません。このパラメーターを 100 に設定すると、100 を超える検索結果が得られた場合でも、eClient は最大で 100 までの最新項目を戻します。このパラメーターを デフォルト値の -1 に設定すると、eClient はすべての検索結果を戻します。

インポート可能な最大ファイル・サイズの設定

インポート可能なファイルの最大サイズ (バイト) を、max_import_file_size パラメーターで指定できます。

プロパティ・デーモンの設定

eClient プロパティ・デーモンは定期的に IDM.properties ファイルに対する更新を検査します。PropertyDaemonInterval パラメーターで、このデーモンを使用可能にし、検査の頻度を設定できます。

このパラメーターを 0 より大きい整数に設定して、プロパティ・デーモンを使用可能にします。この整数は検査の頻度を分単位で表したものです。たとえば、10 と入力すると、プロパティ・デーモンは、10 分おきにファイルが変更されたかどうかを検査します。このパラメーターを 0 に設定すると、デーモンが使用不可能になります。無効な値を入力すると、デフォルト値の 1 が使用されます。

EIP INI ファイルの設定

eClient はいくつかの Enterprise Information Portal 構成ファイルを検査します。

Enterprise Information Portal INI ファイルの場所は URL として file:///c:/cmbroot/cmbcs.ini のように設定してください。ここで EIP ファイルの場所を正しく設定しないと、eClient が動作しません。

CMBCC2MimeURL

MIME (Multipurpose Internet Mail Extension) タイプのアソシエーションを含む cmbcc2mime.ini ファイルの場所を指定します。

CsIniURL

コンテンツ・サーバーのランタイム環境がローカルかリモートかを定義する、cmbcs.ini ファイルの場所を指定します。ConnectionType パラメーターの設定はこの設定に影響します。

ClientIniURL

RMI (Remote Method Invocation) サーバーを指定する cmbclient.ini ファイルの場所を指定します。ConnectionType パラメーターの設定はこの設定に影響します。

接続タイプの設定

Enterprise Information Portal 管理データベースおよびコンテンツ・サーバーのランタイム環境がこのサーバーのローカルにあるか、リモートにあるかを指定するには、ConnectionType パラメーターを指定します。このパラメーターの値は次のとおりです。

- 0 ローカル・バージョンを使用する場合。ClientIniURL の設定は無視されません。

- 1 リモート・バージョンを使用する場合。ClientIniURL の設定が cmbclient.ini の検出に使用され、CsIniURL は無視されます。
- 2 場所を動的に設定する場合。ClientIniURL が cmbclient.ini の検出に使用され、CsIniURL が Enterprise Information Portal cmbcs.ini ファイルの検出に使用されます。

Content Manager バージョン 8 コネクタの設定

Content Manager バージョン 8 サーバーの場所を ICMServersURL パラメーターで指定します。この指定には、ICMServersURL=[完全修飾 URL] の形式を使用します。次に例を示します。

```
ICMServersURL=file:///C:¥¥Program Files¥¥IBM¥¥CMgmt¥¥cmbicmsrvs.ini
```

注: この値は、cmbicmsrvs.ini ファイルの場所を示す、完全修飾 URL でなければなりません。別の名前を使用しているときは、Content Manager バージョン 8 サーバーの名前を使用します。

コンテンツ・ファイルの起動

表示デフォルト・ファイルを使用して、ユーザーのブラウザーに表示するためにサーバー上で変換するファイル・タイプを指定できます。また、どのファイル・タイプをブラウザーに送信して起動するかも指定できます。デフォルト・ファイルを使用するには、adminDefined=true を設定します。このファイルの名前と場所を指定するには、adminDefaultsFile パラメーターを使用します。表示デフォルト・ファイルについて詳しくは、117 ページの『eClient によるコンテンツ・タイプの処理方法』を参照してください。

E メールのプロパティの設定

eClient で E メールを使用するには、いくつかのパラメーターを設定する必要があります。

emailenabled

E メールを使用可能にする場合は true に設定し、使用不可にする場合は false に設定します。

mailUser

メール・サーバー上での有効なユーザー ID を設定します。返信メールはこのユーザー ID に送信されます。

mailHost

メール・サーバーの IP アドレスに設定します。

eClient では UTF-8 エンコードを使用して E メールを送信します。

EIP 拡張ワークフローの使用可能化

ワークフローを使用可能にするには、workFlowEnabled パラメーターを true に設定します。

サービス接続タイプの設定

EIP ワークフロー・サーバーの場所を指定するには、`serviceconnectiontype` パラメーターを設定します。このパラメーターの値は次のとおりです。

- 0 ローカル構成を使用する場合。ワークフローはアプリケーション・サーバーと同じマシンにインストールされます。
- 1 リモート構成を使用する場合。ワークフローは RMI サーバーにインストールされます。
- 2 動的構成を使用する場合。

ビューアー・アプレットの使用可能化

ビューアー・アプレットを使用すると、ユーザーは検索したファイルに対して、注釈の編集、ローテーション、ズーム、印刷などのアクションを、さらに簡単に実行できます。ビューアー・アプレットを使用可能にするには、`viewerAppletEnabled` パラメーターを `true` に設定し、`IDAdminDefaults.properties` 表示デフォルト・ファイルを使用して、ビューアー・アプレットがサポートする形式を示してください。形式について詳しくは、117 ページの『eClient によるコンテンツ・タイプの処理方法』を参照してください。

ビューアー・アプレットを実行するには、Java プラグインが必要です。このプラグインはユーザーのマシンにインストールされていない場合があります。Windows では、場所を指定すれば、その場所から Microsoft Internet Explorer または Netscape Navigator によってこのプラグインを自動的にインストールできます。場所の指定には、それぞれ `plugin_exe` パラメーターおよび `plugin_page` パラメーターを使用します。これらのパラメーターのデフォルト値は、JavaSoft Web サイトを指しています。パフォーマンスを向上するため、またはユーザーがこのプラグインをファイアウォールの外側から検索できないように、これらのデフォルト値を変更することもできます。AIX および Solaris では、eClient を実行する前に Java プラグイン・バージョン 1.3.1 をインストールする必要があります。

統合フォルダーの使用可能化

統合フォルダーを利用すると、複数のコンテンツ・サーバーの関連文書を 1 つのコレクションに保管し、検索結果を EIP データベースに永続的に保管できます。たとえば、ある 1 件の保険金請求が、Content Manager サーバーの文書、DB2 リレーショナル・テーブルの DMV レコード、VideoCharger サーバーによるその請求の音声またはビデオで構成されているとします。統合フォルダーを使用すると、これらの文書を EIP データベースにまとめることができます。統合フォルダーは他のコンテンツ・サーバーのネイティブ・フォルダーと同じように機能します。ネイティブ・フォルダーと同様に統合フォルダーも作成、検索、更新、および削除することができます。統合フォルダー機能を使用可能にするには、`createFedFolderEnabled` パラメーターを `true` に設定します。統合フォルダーを使用不可にする場合は、`createFedFolderEnabled` パラメーターを `false` にします。

eClient によるコンテンツ・タイプの処理方法

表示デフォルト・ファイルによって、ユーザーのブラウザに表示するためにどのファイル・タイプをサーバーで変換するかを指定できます。また、どのファイル・タイプをブラウザに送信して起動するか、およびファイルの表示にビューアーを使用するかどうかも指定できます。表示デフォルト・ファイルは `IDAdminDefaults.properties` というファイルで、eClient がインストールされているディレクトリーの中にあります。

重要: 既にこのファイルのコピーがある場合、再インストールしても上書きされません。

コンテンツ・タイプ

eClient 表示デフォルト・ファイルを使用して、以下を指定できます。

- サーバー上で変換され、ユーザーの eClient に表示される MIME タイプ。
- プラグイン、またはクライアント・マシン上の他のアプリケーションにダウンロードされ、起動される MIME タイプ。
- ビューアー・アプレットを使用して表示するファイル。

表示デフォルト・ファイルには、MIME タイプのエントリーが次の形式で含まれています。

`type/subtype=launch_indicator`

`launch_indicator` には次のいずれかを指定します。

don't launch (起動しない)

コンテンツを変換してから、クライアントのブラウザに送信して表示する場合。

制限:

- タイ語のテキストは変換できない。左から右の HTML、MSWord または RTF ファイルはサポートされていません。
- `CHARSET=iso-8859-9` としてコーディングされたトルコ語の HTML 文書はサポートされない。
- eClient はバージョン 3.0 では HTML 文書をサポートしない。 Javascript または XML 文書を `don't launch` に設定しないでください。

launch (起動する)

クライアント・マシンのコンテンツをダウンロードして起動する場合。

eClient は、このファイルに明示的に指定されていない MIME タイプを `launch` を使用して変換します。この設定を使用すると、表示デフォルトが正しく設定されていれば、該当するブラウザのプラグインまたは外部アプリケーションが起動されます。

applet (アプレット)

ファイルをビューアー・アプレットを使用して表示する場合。

ビューアー・アプレットがサポートするファイルは、TIFF (`image/tiff`)、GIF (`image/gif`)、JPEG (`image/jpeg`)、ビットマップ (`image/bmp`)、PCX (`image/pcx`)、MO:DCA-P (混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー・プレゼンテーション)

ョン)、IOCA (イメージ・オブジェクト・コンテンツ・アーキテクチャー)、および PTOCA (表示テキスト・オブジェクト・コンテンツ体系) です。eClient のビューアー・アプレットは、サポートされていないファイル・タイプを発見すると、その処理を終了し、文書を起動したページに戻ります。

制限: ユーザーのブラウザーが Socks プロキシを使用して構成されている場合、アプレットに障害が発生する可能性があります。プロキシ・サーバーの IP アドレスは、ホスト名ではなく、ブラウザーの設定の中に指定してください。

例:

エンド・ユーザーのシステムに Acrobat Reader がインストールされている場合、次の行を指定すると、PDF ファイルがブラウザーに送信されます。ブラウザーが PDF 形式のファイルを表示できるためです。MO:DCA-P ファイルは、表示可能な形式にサーバーで変換されます。

```
application/pdf=launch  
application/vnd.ibm.modcap=don't launch
```

次の行を指定すると、ビューアー・アプレットで TIFF コンテンツ・ファイルを表示できます。

```
image/tiff=applet
```

表示デフォルト・ファイルは、eClient で提供されるものを使用しても、独自に作成してもかまいません。独自のファイルを作成した場合、次の操作を行う必要があります。

- 作成したファイルの場所とファイル名を、IDM.properties ファイルの adminDefaultsFile パラメーターに指定する。
- CLASSPATH 変数のディレクトリーにそのファイルを保管する。
- IDM.properties ファイルで adminDefined パラメーターを設定する。

カスタマイズしたクライアントのパラメーターの構成

eClient をカスタマイズした場合、カスタマイズしたアプリケーションと連動させるために特定の構成パラメーターを設定できます。これらの構成パラメーターは IDM.properties ファイルの中にあります。

グラフィック・ファイルの場所を設定するには:

eClient アプリケーションが使用するグラフィック・ファイルの場所は、ImageURL パラメーターで設定します。イメージのパスを指定してください。

エラー・ページを設定するには:

エラーを検出したときに使用する JavaServer Page (JSP) は、ErrorPage パラメーターで指定します。デフォルトは Errorpage.jsp です。別のファイル名のカスタム・エラー・ページを使用するには、その名前をこのパラメーターに指定します。

さまざまなサーブレットを指定するには:

サーブレット JSP パラメーターには、さまざまな eClient サーブレットで使用する JSP を指定できます。eClient と一緒に提供される

IDM.properties ファイルには、eClient に用意されているサブレット・パラメーターと JSP の詳細なリストが含まれています。指定は次の形式で行います。

```
Output.servlet_name=JSP
```

独自の JSP を作成して eClient をカスタマイズした場合は、サブレット JSPパラメーターにその JSP を指定します。たとえば、MySearch.jsp という名前の独自の JSP を作成し、ユーザーはそれを使用して検索を実行し、結果を表示する場合、次のように指定します。

```
Output.IDMSearch=/MySearch.jsp
```

どのサブレットにも独自の JSP を指定できます。

アプリケーション名を設定するには:

アプリケーションに別の名前を使用するには、WebAppName パラメーターにその名前を指定します。ここに指定した名前と J2EE サーバーに指定した Web アプリケーション名は同じでなければなりません。

サーバー接続の定義

eClient は、ほとんどのサーバーに対し、Enterprise Information Portal からのサーバー定義を使用します。eClient のインストール時に、1 つの IBM Content Manager OnDemand サーバーまたは IBM Content Manager ImagePlus for OS/390 サーバーに直接接続を定義できます。このサーバー定義は変更が可能です。または、ユーザーが eClientを使用してアクセスする IBM Content Manager OnDemand サーバーまたは IBM Content Manager ImagePlus for OS/390 サーバーを IDM.properties ファイルの中に追加することもできます。

AIX の場合、eClient のログオン・ウィンドウに Content Manager バージョン7 サーバーおよび OnDemand コンテンツ・サーバーをリストして接続するには、WebSphere AE または AES を開始する前に、export LIBPATH=/usr/lpp/cmb/lib:/usr/lpp/frn/lib:\$LIBPATH とを入力します。LIBPATH をエクスポートしたときと同じ環境から WebSphere を開始します。このコマンドは WebSphere を開始するユーザーのプロファイル・ファイルで指定できます。これにより、パスの再エクスポートが不要になります。

Solaris の場合、eClient のログオン・ウィンドウに Content Manager バージョン 7 サーバーおよび OnDemand コンテンツ・サーバーをリストして接続するには、WebSphere AE または AES を開始する前に、export LD_LIBRARY_PATH=/usr/lpp/cmb/lib:\$LIBPATH と入力します。LD_LIBRARY_PATH をエクスポートしたときと同じ環境から WebSphere を開始します。このコマンドは WebSphere を開始するユーザーのプロファイル・ファイルで指定できます。これにより、パスの再エクスポートが不要になります。

制限:

eClient は、直接接続、統合接続のいずれの場合も、EIP Domino.Doc コネクタ、EIP Information Catalog コネクタ、EIP Rational Database コネクタ、および EIP Extended Search コネクタをサポートしません。

eClient サーバー・リストに新規のライブラリー・サーバーを追加する場合は、`cmbicmsrvs.ini` ファイルおよび `cmbicmenv.ini` ファイルを更新する必要があります。統合データベースを追加する場合は、`cmbds.ini` ファイルおよび `cmbfedenv.ini` ファイルを更新します。これらのファイルの更新手順については、「*Content Management System の計画とインストール*」の『構成ファイルの生成 (Generating configuration files)』を参照してください。

OnDemand サーバー接続の定義

OnDemand サーバーの接続は、`Datastore.OD.x` パラメーターで定義します。OnDemand サーバー接続を定義するときは、それぞれに番号を付けます。最初の定義のパラメーターは `Datastore.OD.0`、2 番目は `Datastore.OD.1`、というように指定します。接続の番号は順番どおりに指定し、数字を抜かさないようにしてください。この指定は次の形式で行います。

`Datastore.OD.X=alias:IP address or host name:port`

ここで、

alias サーバーの代替名。ユーザーが表示するサーバー・リストに示される名前です。ユーザーにわかりやすい名前を使用してください。

IP address or host name

サーバーの IP (インターネット・プロトコル) アドレスまたはホスト名。

port 使用するポート。OnDemand サーバーにポートが必要な場合に指定します。ポート 0 は無視されます。この属性はオプションです。

次の例は 2 つの OnDemand サーバーの接続を指定するものです。

```
Datastore.OD.0=AcmeOD:serv1.acme.com:1009
Datastore.OD.1=Jones'OD:9.71.23.110:3219
```

OnDemand AFP プラグインは、現在 Microsoft Internet Explorer バージョン 5.5 Service Pack 2 および Internet Explorer バージョン 6.0 をサポートしています。このサポートは AFP Plugin 7.1.0.5 以上にあり、
`ftp://service.software.ibm.com/software/ondemand/fixes/v71/` から入手できます。

ImagePlus for OS/390 サーバー接続

ImagePlus for OS/390 サーバーの接続は、`Datastore.IP390.x` パラメーターで定義します。ImagePlus for OS/390 サーバーを定義するときは、それぞれに番号を付けます。最初の定義のパラメーターは `Datastore.IP390.0`、2 番目は `Datastore.IP390.1`、というように指定します。接続の番号は順番どおりに指定し、数字を抜かさないようにしてください。この指定は次の形式で行います。

```
Datastore.IP390.X=ALIAS=ALIAS;APPL=APPL;
FAFIP=FAFIP;IODMIP=IODMIP;FAFPORT=FAFPORT;IODMPORT=IODMPORT
;FAFPROT=FAFPROT;IODMPROTL=IODMPROTL;TERMID=TERMID;FAFSITE=FAFSITE;
OVERLAYS=OVERLAYS;IODMCNTL=IODMCNTL
```

ここで、

ALIAS サーバーの代替名。ユーザーが表示するサーバー・リストに示される名前で

す。ユーザーにわかりやすい名前を使用してください。別名にはブランクや特殊文字を含められますが、コロンは使用できません。 IP390 などのように指定します。

APPL Folder Application Facility (FAF) の ID。01 などのように指定します。

FAFIP FAF の IP アドレス。9.25.176.23 などのように指定します。

IODMIP

オブジェクト配布マネージャーの IP アドレス。9.67.43.83 などのように指定します。

FAFPORT

ImagePlus for OS/390 が使用する Folder Application Facility の TCP/IP ポート。3061 などのように指定します。

IODMPORT

オブジェクト配布マネージャーのポート番号。3082 などのように指定します。

FAFPROT

FAF ホストの通信プロトコル。FAF CICS® には 4000 を使用し、IMS™ 上の TCP/IP の場合は 4500 を使用します。

IODMPROT

オブジェクト配布マネージャー・ホストの通信プロトコル。CICS 上の TCP/IP の場合は 4000 を使用し、IMS 上の TCP/IP の場合は 4500 を使用します。

TERMID

オブジェクト配布マネージャーの端末 ID。このパラメーターを指定しないと、ユーザー ID が使用されます。

FAFSITE

このサーバーの文書を所有し、カタログする、FAF の 4 文字の ID。CS61 などのように指定します。

OVERLAYS

OVERLAYS はオプション・パラメーターです。すべての書式オーバーレイが保管されている IODM コレクション・クラス。このパラメーターを指定しないと、最後の文書が検索されたコレクション・クラスで書式が検索されます。

IODMCNTL

IODMCNTL はオプション・パラメーターです。IODM 文書の保管場所のコントロール。文書は、指定された場所に保管されていないと検索できません。ここには次の設定が可能です。

DASD 文書を DASD のみから検索します。

OPTICAL

文書を DASD または OPTICAL のみから検索します。

SHELF 文書を DASD、OPTICAL、または SHELF から検索します。

たとえば、IP アドレスが 9.88.123.67 のホストへの ImagePlus for OS/390 の接続を定義するには、次のように指定します。

```
Datastore.IP390.0=ALIAS=Acme IP390;APPL=03;  
FAFIP=9.88.123.673;IODMIP=9.88.123.67;  
FAFPORT=1061;IODMPORT=3080;FAFPROT=400;  
IODMPROT=4000;FAFSITE=CS61
```

第 8 章 トラブルシューティング

この節では、eClient およびサード・パーティー・アプリケーション統合のトラブルシューティングに関する、シナリオ、ヒント、およびトレース情報を示します。

関連した作業:

『eClient のトラブルシューティング』

133 ページの『サード・パーティー・アプリケーション統合のトラブルシューティング』

eClient のトラブルシューティング

ここに示す情報は、eClient をインストール、構成、および管理するときに発生する問題を理解し、修正するときの参考として利用できます。

関連リファレンス

『トラブルシューティングのシナリオ』

131 ページの『構成の問題』

132 ページの『トレース情報』

トラブルシューティングのシナリオ

問題が発生した場合には、以下の事例を参考にしてください。

シナリオ 1: 国際文字が正しく表示されない

問題:

特定の国際文字が一部のインストール・パネルで正しく表示されません。

説明および解決方法:

この問題の原因として、Sun Java Runtime Environment (JRE) に以下の言語のフォント・プロパティ・ファイルが組み込まれていないことが考えられます。eClient でこれらの言語に対するサポートをインプリメントするには、次のファイルを見つけて、JRE インストール・ディレクトリーの lib サブディレクトリーにコピーしてください。

- font.properties.ru
- font.properties.pl
- font.properties.cs
- font.properties.hu
- font.properties.CP1250

シナリオ 2: 文書を起動できない

問題:

eClient で文書を起動できません。Microsoft Internet Explorer がブランク・ページを表示している可能性があります。 Netscape Navigator はプラグインを起動していますが、文書を表示しません。たとえば、Adobe Acrobat の場合は次のメッセージが表示されます。ファイルが破損しています。修復は不可能です。(The file is damaged and could not be repaired)

説明および解決方法:

IBM HTTP Server for Windows は、ブラウザーで処理される 64K を超えるプラグイン・アプリケーション文書では起動できません。

今回、IBM HTTP Server for Windows にこの問題の永続的な修正は設けられていません。次善策としては、HTTP cache-Afpa および Afpcache キーワードを使用不可にすることです。HTTP GUI 管理者に依頼せずに、この操作を行うには、以下のステップを実行してください。

1. ¥IBM HTTP SERVER¥conf¥ ディレクトリーにある http.conf ファイルを開く。このファイルに AfpaEnable、AfpaCache on という 2 つのキーワードがあります。
2. これらのキーワードをポンド記号を使用してコメント化します。#AfpaEnable
#AfpaCache on
3. HTTP サーバーを再始動して、変更内容を設定します。

シナリオ 3: 最後のインストール・パネルに警告メッセージが表示される

問題:

最後のインストール・パネルに警告メッセージが表示されます。

説明および解決方法:

このメッセージは、インストール・プロセス中に自動マウントが実行されていたために表示されました。この警告はインストール・プログラムに不備があるために出たもので、パフォーマンスや機能に影響はありません。無視してかまいません。

シナリオ 4: eClient を配置するときにウィンドウに何も表示されない状態が続く

問題:

インストール時、eClient を WebSphere アプリケーション・サーバーに配置しているときに、ウィンドウに何も表示されない状態が 5 分以上続いています。

説明および解決方法:

eClient の配置フェーズが、WebSphere Java プロセスを実行しているために停止した可能性があります。eClient インストール・プログラムを終了してから、WebSphere Java プロセスを終了してください。Windows では、タスク・マネージャーを調べて、すべての Java プロセスが終了しているか確認します。AIX および Solaris では、コマンド `ps -ef | grep java` を使用して、WebSphere アプリケーシ

ヨンの Java プロセスが実行されていないことを確認します。実行されている WebSphere Java プロセスをすべて終了したら、eClient インストール・プログラムを再実行してください。

シナリオ 5: Visio 文書を表示できない

問題:

eClient で Visio 文書を表示できません。

説明および解決方法:

Visio 文書の表示には Visio ビューアーが必要です。Visio ビューアーは www.microsoft.com/office/visio/default.asp からダウンロードできます。また、Visio ビューアーは文書を直接起動できないため、Visio 文書を正しく表示するには、その文書をダウンロードする必要があります。

シナリオ 6: MIME タイプ *multipart/mixed* の文書を表示できない

問題:

eClient が MIME タイプ *multipart/mixed* の文書を表示できません。

説明および解決方法:

この問題は、EIP が Solaris または AIX マシンにインストールされたために発生しました。AIX または Solaris のデフォルト・ブラウザでは、MIME タイプ *multipart/mixed* の文書の冒頭部分しか表示できません。

シナリオ 7: OnDemand 検索中にブラウザがタイムアウトになった

問題:

OnDemand 検索中にブラウザのタイムアウトが発生しました。

説明および解決方法:

この問題の原因として、1 回の照会によって 1000 を超えるような非常に多くの項目が戻されたことが考えられます。この問題を回避するには、IDM.properties ファイルで TotalMaxResults パラメーターをもっと小さい値に設定して、OnDemand から戻される項目数が少なくなるようにします。

シナリオ 8: OnDemand AFP ファイルを表示できない

問題:

eClient が一部の OnDemand AFP ファイルを表示できません。

説明および解決方法:

この問題は、これらの OnDemand AFP ファイルが特定のフォントまたは特殊なコード・ページを使用して作成されたにもかかわらず、そのフォントまたはコード・ページが AFP ファイルを表示するクライアント・システムで構成されていないために発生しました。この問題を修正するには、AFP フォントまたはコード・ページ・ファイルをマップする必要があります。AFP フォントとコード・ページ・フ

ファイルのマッピング方法については、「*OnDemand Windows Client Customization Guide*」の『AFP フォントのマッピング (Mapping AFP Fonts)』を参照してください。この資料は www-3.ibm.com/software/data/ondemand/mp/library.html から入手できます。

シナリオ 9: Java 仮想マシン (JVM) の故障

問題:

Java Virtual Machine (JVM) が故障しました。

説明および解決方法:

次の原因が考えられます。複数のユーザーが OnDemand コンテンツ・サーバーに接続し、短い間隔でログインとログアウトを繰り返すと、システムが TIME_WAIT ソケットをクリーンアップする時間が足りなくなります。この結果、TIME_WAIT ソケットのポート番号 1024 から 5000 まだがすべて使われてしまい、JVM は故障します。

この問題を修正するには、プラットフォームごとに以下のステップを実行してください。

Windows の場合:

次善策として TcpTimedWaitDelay および MaxUserPort レジストリー値を追加します。これらの値は REGEDIT コマンドを使用して設定できます。

1. TcpTimedWaitDelay を 30 に設定する。
 - a. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」とクリックする。
 - b. 表示されたフィールドに、regedit と入力する。
 - c. キー・ディレクトリー・ファイル、
HKEY_LOCAL_MACHINE/SYSTEM/CurrentControlSet/Services/Tcpip
/Parameters/TcpTimedWaitDelay に移動する。値のタイプは REG_DWORD です。
 - d. 「TcpTimedWaitDelay」をダブルクリックする。
 - e. 「10 進数 (Decimal)」を選択する。
 - f. 「値のデータ (Value data)」フィールドに 65534 と入力する。このフィールドのデフォルト値は 0xF0 (10 進数の 240) です。有効な範囲は 30 ~ 300 (10 進数) です。

説明: このパラメーターは、接続が閉じられた後に TIME_WAIT 状態にとどまる時間を決定します。接続が TIME_WAIT 状態のときは、ソケットのペアを再利用することはできません。この状態は 2MSL 状態とも呼ばれます。この値が、ネットワーク上での最大セグメント存続時間の 2 倍の値であるためです。詳しくは、RFC 793 を参照してください。

2. MaxUserPort を 65534 に設定する。
 - a. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」とクリックする。
 - b. 表示されたフィールドに、regedit と入力する。

- c. キー・ディレクトリー・ファイル
HKEY_LOCAL_MACHINE/SYSTEM/CurrentControlSet/Services/Tcpip/Parameters/MaxUserPort に移動する。値のタイプは REG_DWORD です。
- d. 「MaxUserPort」をダブルクリックする。
- e. 「10 進数 (Decimal)」を選択する。
- f. 「値のデータ (Value data)」フィールドに 65534 と入力する。このフィールドのデフォルト値は 0x1388 (10 進数の 5000) です。有効な範囲は 5000 ~ 65534 (10 進数) です。

説明: このパラメーターは、アプリケーションがシステムに対して使用可能なユーザー・ポートを要求したときに使用される最大ポート番号を制御します。通常、短命ポートは 1024 ~ 5000 までの範囲で割り振られます。このパラメーターを有効範囲外の値に設定した場合は、最も近い有効値 (5000 または 65534) が使用されます。

Solaris の場合:

以下に示すチューニング変更は、リブート後は無効になります。次の変更をランタイム・コマンド・ファイルに追加して、各ブート時にそれらが設定されるようにします。ランタイム・コマンド・ファイルは /etc/init.d/inetinit です。

1. 使用可能なソケットを増やす。
 - a. コマンド・プロンプトに以下のコマンドを入力する。

```
#/usr/sbin/ndd -set /dev/tcp tcp_conn_req_max_q 65534
```

q キューには、アプリケーションからの accept() 呼び出しを待っているソケットが保持されます。
 - b. コマンド・プロンプトに以下のコマンドを入力する。

```
#/usr/sbin/ndd -set /dev/tcp tcp_conn_req_max_q0 65534
```

q0 キューにはハーフ・オープン・ソケットが含まれます。
2. 以下を入力して、ソケットをクローズするまでの待ち時間を短縮する。

```
#/usr/sbin/ndd -set /dev/tcp tcp_time_wait_interval 60000
```

AIX の場合:

以下に示すチューニング変更は、リブート後は無効になります。次の変更をランタイム・コマンド・ファイルに追加して、各ブート時にそれらが設定されるようにします。ランタイム・コマンド・ファイルは /etc/rc.net です。

1. 使用可能なソケットの数を増やすために、コマンド・プロンプトに次のコマンドを入力する。

```
/usr/sbin/no -o clean_partial_conns=1
```

この設定により、新規ソケットのためのスペースを設けるために、q0 キューからハーフ・オープン・ソケットをランダムに除去するように、カーネルに指示が出されます。

デフォルト範囲で十分ですが、no コマンドを使用して変更してもかまいません。以下に、TCP 短命ポート範囲を 49152 ～ 65535 に設定する例を示します。

```
# /usr/sbin/no -o tcp_ephemeral_low=49152
# /usr/sbin/no -o tcp_ephemeral_high=65535
```

2. 以下を入力して、ソケットをクローズするまでの待ち時間を短縮する。

```
# no -o tcp_timewait=5
```

AIX 4.3.2 では、デフォルトの TIME_WAIT は 15 秒に設定されると考えられます。15 秒は AIX の表現では tcp_timewait = 1 に変換されます。各 tcp_timewait が約 15 秒であるためです。したがって、no コマンドを使用して tcp_timewait を 5 に設定し、TIME_WAIT がちょうど 60 秒を上回るようにします (この値を 4 にすると TIME_WAIT が 60 秒に達しません)。

シナリオ 10: 複数のカーソル

問題:

複数のテキスト・フィールドを含むページに複数のカーソルが表示されます。

説明および解決方法:

この状態は、Netscape Navigator 4.76 を AIX または Sun Solaris で使用しているために起こります。eClient の機能には影響はありません。

シナリオ 11: 2 バイト文字セットを表示できない

問題:

2 バイト言語 (中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、日本語、および韓国語) の文書を表示できません。

説明および解決方法:

Netscape Navigator 4.7 ブラウザーの英語バージョンは 2 バイト文字セットの表示に対応していません。Netscape Navigator 4.7 ブラウザーを使用して eClient でこれらの言語のいずれかを表示したい場合は、それに対応する言語バージョンの Netscape を使用する必要があります。また、Netscape Navigator 4.7 は 2 バイト文字セットの吹き出しテキストもサポートしていません。これらの言語で吹き出しテキストを表示するには、Microsoft Internet Explorer を使用してください。

シナリオ 12: ページを再ロードできない

問題:

ブラウザーでページをロードできません。

説明および解決方法:

eClient を使用すると、ブラウザーのデフォルト・ツールバーが使用不可になります。Netscape Navigator でブラウザーの再ロードを実行するには、ブラウザーのビューアー・ウィンドウ内の任意の場所を右マウス・ボタンでクリックし、「再ロード (Reload)」を選択するか **Ctrl+R** キーを押します。Microsoft Internet Explorer

でブラウザの再ロードを実行するには、ブラウザのビューアー・ウィンドウ内の任意の場所を右マウス・ボタンでクリックし、「最新表示 (Refresh)」を選択するか **F5** キーを押します。

シナリオ 13: ビューアー・アプレットの吹き出しヘルプが正しく表示されない

問題:

ビューアー・アプレットの吹き出しヘルプが、2 バイト言語 (中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、日本語、および韓国語) で正しく表示されません。

説明および解決方法:

この問題を起こす最も可能性の高い原因として、Java2 Runtime Environment(JRE)、Standard Edition、バージョン 1.3.1_01 を使用していることが考えられます。この問題を回避するには、Java2 Runtime Environment (JRE)、Standard Edition、バージョン 1.4.0 "International for Windows" バージョンをインストールしてください。

シナリオ 14: eClient 環境設定が消える

問題:

eClient 環境設定が断続的に消えてしまいます。

説明および解決方法:

この原因は既知の WebSphere GUI 上の問題です。eClient を停止して WebSphere から削除し、eClient の Save ディレクトリーにある idmwas ファイルを使用します。この問題を回避するには、WebSphere eFix PQ63508 をインストールしてください。

シナリオ 15: Netscape から指示された Java プラグインをインストールするためのアドレスが正しくない

問題:

ビューアー・アプレットを使用しようとするときに、誤ったアドレスからプラグインをインストールするように Netscape から指示されました。

説明および解決方法:

Solaris で Netscape を使用している場合にビューアー・アプレットを使用するには、Java プラグインをダウンロードして構成する必要があります。ビューアー・アプレットを使用する前に、Java プラグインをインストールして構成してください。
<http://java.sun.com/j2se/1.4> から Java 2 Runtime Environment (JRE)、Standard Edition、バージョン 1.4.0 がダウンロードできます。

シナリオ 16: ビューアー・アプレットを使用できない

問題:

ビューアー・アプレットを起動できません。

説明および解決方法:

ビューアー・アプレットを使用するように eClient を構成して、WebSphere Application Server バージョン 4.0.3 AE または AES を使用した場合、efix「PQ54572 4.0.x: Deploying signed jar file problem (符号付き jar ファイルの配置の問題)」をインストールするか、eClient のインストール後、アプレットを使用する前に以下のステップを実行してください。

1. mkdir /temp を実行して、一時ディレクトリーを作成する。
2. cd /temp に移動する。
3. 以下を実行して、

```
jar -xvf [installed eClient directory]/eClient82.ear
```

eClient82 EAR アーカイブを一時ディレクトリーの中に抽出する。eClient82. EAR は、現在 eClient がインストールされているディレクトリーの中にあります。

4. 以下を実行して、

```
jar -xvf eClient82.ear viewerApplet.jar cmbview82.jar
```

eClient82 EAR から viewerApplet.jar および cmbview82.jar を抽出する。

5. 以下を実行して、

```
move viewerApplet.jar [installed WebSphere directory]/installedApps/  
eClient82.ear/eClient82.war
```

および

```
move cmbview81.jar [installed WebSphere directory]/installedApps/eClient82.ear  
/eClient82.war
```

WebSphere がインストールされているディレクトリーの中にあるこれら 2 つの JAR ファイルを上書きする。

注: WebSphere がインストールされている JAR ファイルを上書きしておかないと、ビューアー・アプレットは Java セキュリティー検査をパスできないため、ブラウザにこのアプレットをロードできません。

ブラウザー・ウィンドウをサイズ変更するときにエラーが発生した問題:

Netscape Navigator 4.75 でブラウザー・ウィンドウのサイズ変更をするときに、次のエラー・メッセージが表示されました。

データがありません。この文書は POST 操作の結果作成され、キャッシュの期限が切れています。必要なら、フォーム・データを再記入し、「再ロード (reload)」ボタンを押して文書を再作成できます (Data Missing
This document resulted from a POST operation and has expired from the cache.
If you wish you can repost the form data to recreate the document by pressing the reload button.)

説明および解決方法:

「再ロード (Reload)」をクリックしてデータを再記入する。

構成の問題

図 6 は eClient のログオン・ウィンドウを示しています。 eClient をインストールし、構成したら、hostname/Web application name/IDMInit というアドレスからこのウィンドウにアクセスできます。このアドレスで、hostname はサーバー・マシンの名前または IP アドレス、Web application は eClient Web アプリケーションの名前 (eClient82 がデフォルト名)、IDMInit は初期接続サブレットです。



図 6. Content Manager eClient ログオン・ウィンドウ

このログオン・ウィンドウが表示されず、「HTTP 404 - ファイルが見つかりません (File not found)」または「ページが見つかりません (The page cannot be found)」というエラー・メッセージが表示されたら、以下の操作を行ってください。

- 正しいアドレスを入力したか確認する。 eClient Web アプリケーションのデフォルト名 eClient82 が、別の管理者によって IDM.properties ファイルの中で変更された可能性があります。
- eClient Web アプリケーションが開始または実行されていることを確認する。
- AIX または Solaris で WebSphere Application Server Advanced Edition を使用している場合は、それが開始されていることを確認する。 `ps -ef|grep WebSphere` を入力して確認します。 WebSphere が実行されていないときは、 `StartupServer.sh` と入力して開始します。
- HTTP サーバーが開始されていることを確認する。

ログオン・ウィンドウが開いても、「**サーバー (Server)**」リストにサーバーが表示されない場合、以下の操作を行ってください。

- EIP サーバーに接続しようとしている場合、EIP サーバーのホスト名、ポート番号、RMI サーバー構成 (リモート接続の場合)、および接続ストリングが正しいことを確認する。
- バージョン 7 以前の IBM Content Manager に接続しようとしている場合は、 `Frnolint.tbl` ファイルのサーバーが正しくリストされているか確認する。
- ImagePlus for OS/390 サーバーまたは Content Manager OnDemand サーバーに接続しようとしている場合は、サーバーの値が IDM.properties ファイルの中で正しく設定されていることを確認する。複数の ImagePlus for OS/390 または

OnDemand サーバーに接続するには、それぞれに接続ストリングを追加して、その値を `IDM.properties` ファイルに指定します。

- AIX で Content Manager バージョン 7 サーバーを eClient のログオン・ウィンドウにリストするには、WebSphere AE または AES を開始する前に `export LIBPATH=/usr/lpp/cmb/lib:$LIBPATH` と入力します。LIBPATH をエクスポートしたときと同じ環境から WebSphere を開始します。このコマンドは WebSphere を開始するユーザーの `.profile` で指定できます。これにより、パスの再エクスポートが必要なくなります。

AIX 上へのインストールで問題が発生した場合は、インストール・プロセスを再試行する前に、eClient のインストールによって `/tmp` ディレクトリーの中に作成された内容をすべて削除します。

トレース情報

eClient ではトレース情報を生成できます。これらのトレース・ファイルは、場所、情報レベル、およびサイズを設定できます。これらのファイルの管理は、`IDM.properties` ファイルにパラメーターを設定して行います。

トレース・ファイルの場所を設定するには:

`WorkingDir` パラメーターがトレース・ファイルの場所を決定します。このパラメーターは、トレース・ファイルを保管するディレクトリーの絶対パスに設定します。

例:

```
WorkingDir=d:¥¥Program Files¥¥CMeClient¥¥IBM¥¥TRACE
```

Windows の場合、または

```
/opt/CMeClient/TRACE
```

AIX または Solaris の場合。

トレース・レベルを設定するには:

トレース・レベルは以下のいずれかの値に設定できます。

- | | |
|----------|--|
| 0 | トレースはオフ |
| 1 | 例外およびエラーについてのトレースがオン |
| 2 | レベル 1。一般情報、メソッド・エントリー、および出口点が追加 |
| 3 | レベル 2。API 呼び出しが追加 |
| 4 | レベル 3。Enterprise Information Portal ノンビジュアル Bean トレースが追加 |

トレース・レベルは `TraceLevel` パラメーターで設定します。トレース・レベルが 3 または 4 の場合、ログオン時に `dklog.log` ファイルにエラーが表示されることがあります。このエラーは致命的なエラーでなく、eClient は通常どおり機能します。トレース・ファイルの構成については、「メッセージとコード」を参照してください。

トレース・ファイルのサイズを設定するには:

トレース情報は、`TraceX.txt` という名前の一連のファイルに書き込まれます。ファイルのサイズが最大に達すると、新規のトレース・ファイルが開始

され、 X に前のファイルより 1 だけ増分した値が指定されて名前が変更されます。たとえば、現行のトレース・ファイルが最大サイズに達すると、そのファイルに Trace1.txt という名前が付き、新規ファイルが Trace.txt になります。

トレース・ファイルの最大サイズは (KB) MaxTraceSize パラメーターで設定します。

その他のヒント

この節では、注釈の更新、正しい状態での WebSphere の設定、および DB2 バージョン 8 サポートに関するさまざまなヒントを紹介します。

ヒント 1: 注釈の更新

文書ビューアー・アプレットで文書の注釈を更新した場合に、ライブラリー・サーバーがオプション・バージョンを選択する構成になっていると、eClient は常に現行バージョンの注釈を更新された注釈と置き換えます。

ヒント 2: 正しい状態での WebSphere の設定

WebSphere を正しい状態にせずに eClient をインストールした場合は、eClient をアンインストールし、サーバー類を適宜開始および停止してから再インストールする必要があります。

WebSphere Application Server Administrative Console が開いたままでは、eClient のディスプレイが更新されないため、eClient Web アプリケーションを表示するには、いったん Administrative Console を閉じてから、eClient のインストール後に再び開きます。

ヒント 3: DB2 バージョン 8 のサポート

eClient を DB2 バージョン 8 を含むシステムにインストールした場合、eClient は DB2 バージョン 8 がインストールされたコンテンツ・サーバーにしかアクセスできません。

eClient を使用して DB2 バージョン 8 統合サーバーにアクセスする場合、eClient は DB2 バージョン 8 をインストール済みのコンテンツ・サーバーにマップされた統合エンティティーにしかアクセスできません。それらの統合エンティティーで検索用に定義された統合検索テンプレートのみが使用できます。

サード・パーティー・アプリケーション統合のトラブルシューティング

ここに示す情報は、サード・パーティー・アプリケーション統合をインストール、構成、および管理するときに発生する問題を理解し、修正するときの参考として利用できます。

関連した作業:

134 ページの『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のトラブルシューティング』

139 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager のトラブルシューティング』

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager のトラブルシューティング

以下のリファレンスおよび作業には、PeopleSoft and IBM Content Manager の統合のインストール、構成、および管理に役立つトラブルシューティング情報が含まれています。

関連した作業:

『破壊された WebSphere サーバー構成ファイルの修正』

135 ページの『cookie を受け入れるためのブラウザの使用可能化』

関連リファレンス:

135 ページの『PeopleSoft Internet Architecture のドメイン・ネームの訂正』

『ホスト名』

『ライセンス・コード』

ホスト名

このソリューションを提供する処理でインストールされる前提条件製品の中には、下線文字 (_) を含むホスト名を許可しないものがあります。ホスト名でのエラーを防ぐために、ホスト名に使用する文字を ASCII ポータブル文字セットのサブセットに限定してください。

ライセンス・コード

PeopleTools のインストールでは、正しいライセンス・コードを使用してください。PeopleSoft Portal Solutions Suite は、PeopleTools に付随して提供されていますが、それぞれの製品には固有のライセンス・コードが付いています。インストールした後に、無効なライセンス・コードを使用していることがわかる場合があります。無効なライセンス・コードを入力すると、PeopleSoft Database Configuration Wizard または Data Mover ユーティリティでデータベースをロード中に、エラーが発生します。

重要: PeopleTools System Database では、通常の PeopleTools ライセンスとは別のライセンスが必要です。したがって、PeopleTools のインストールでは、通常の PeopleTools ライセンスではなく、個々の製品ライセンス・コードを入力してください。

破壊された WebSphere サーバー構成ファイルの修正

WebSphere サーバー構成ファイルで、2 つの異なる破損、重複 Web モジュール ID、または破壊された XML ステートメントのいずれかが検出されることがあります。

問題 1: PeopleSoft がその Web アプリケーションを WebSphere Application Server にインストールする際に、その Web モジュール ID が、WebModuleRef_9、WebModuleRef_10、および WebModuleRef_11 としてハードコーディングされています。Content Manager リソース・マネージャーまたは Content Manager eClient などの PeopleSoft より前に、他の Web アプリケーションをインストールしている場合

には、WebSphere Application Server の構成ファイルが破壊されることがあります。この問題は、手動で `server-cfg.xml` ファイルを編集することで修正できます。

問題 2: 構成ファイルが破壊されている場合には、WebSphere Application Server Advanced Edition Single Server (WAS AES) を始動できません。XML ファイルの中間にある CLASSPATH の仕様を探し、ファイルを破壊している余分な文字を除去してください。たとえば、サーバー構成ファイルに、以下のような破壊された XML ステートメントがあることがあります。

```
<properties xmi:id=${WAS_ROOT}/installedApps/peoplesoft/PORTAL/WEB-INF/lib/entappletbase.jar;${WAS_ROOT}/installedApps/peoplesoft/PORTAL/WEB-INF/lib/entapplethttp.jar;${WAS_ROOT}/installedApps/peoplesoft/PORTAL/WEB-INF/lib/entapletp10.jar;${WAS_ROOT}/installedApps/peoplesoft/PORTAL/WEB-INF/lib/entapletp12.jar;${WAS_ROOT}/installedApps/peoplesoft/PORTAL/WEB-INF/lib/entapletp5.jar;${WAS_ROOT}/installedApps/peoplesoft/PORTAL/WEB-INF/lib/entapletp7.jar;${WAS_ROOT}/installedApps/peoplesoft/PORTAL/WEB-INF/lib/entapletssl.jar"SystemProperty_4" name="MaxConnectBacklog" value="511"/>
```

破壊された XML ステートメントを以下の XML で置き換えます。

```
<properties xmi:id="SystemProperty_4" name="MaxConnectBacklog" value="511"/>
```

PeopleSoft Internet Architecture のドメイン・ネームの訂正

PIA のインストール中に認証ドメインを指定する際は、ドメイン・ネームはピリオド (.) から始める必要があります。組み込みブランクは使用しないでください。たとえば、これら両方のアプリケーション・サーバーが属するドメインが `abc.def.ghi.com` の場合、ユーザーのドメイン仕様は `.abc.def.ghi.com` でなければなりません。後で、ユーザーは、PeopleSoft ポータルにアクセスするために使用する URL で完全修飾ホスト名を指定する必要があります。これらの変更を行わないと、ユーザーは PeopleSoft ポータル・ホーム・ページを開くことはできません。

cookie を受け入れるためのブラウザの使用可能化

PeopleSoft ポータルおよび eClient のアクセスで使用されるブラウザには、cookie を使用可能にするブラウザ固有の設定があります。cookie が使用不可になっていると、これらのページにアクセスできません。Internet Explorer では、per-session cookie を使用可能にする必要があります。Netscape Navigator では、発信側サーバーに送信して戻される cookie を使用可能にする必要があります。

cookie を使用可能にするには、以下を実行してください。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 5 の場合:

1. Microsoft Internet Explorer ブラウザーを開く。
2. 「ツール」→「インターネット オプション」と選択する。「インターネット オプション」ウィンドウが開きます。
3. 「セキュリティ」タブをクリックし、「レベルのカスタマイズ」をクリックする。「セキュリティの設定」ウィンドウが開きます。
4. 「Cookies」セクションまでスクロールダウンする。
5. 「Allow per-session cookies (not stored)」サブセクションで、「Enable」をクリックする。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6 の場合:

1. Microsoft Internet Explorer ブラウザーを開く。
2. 「ツール」→「インターネット オプション」→「プライバシー」→「詳細設定」と選択する。「プライバシー設定の詳細」ウィンドウが開きます。

3. 「自動 Cookie 処理を上書きする」および「常にセッション Cookie を許可する」チェック・ボックスをクリックする。
 4. 「ファースト・パーティーの Cookie」および「サード・パーティーの Cookie」にある任意のラジオ・ボタンを選択する。行った選択は、PeopleSoft の eClient との統合には影響しません。
- Netscape Navigator 4.7 の場合:
 1. Netscape Navigator ブラウザーを開く。
 2. 「Edit」→「Preferences」と選択する。「Preferences」ウィンドウが開きます。
 3. 「Category」リストで、「Advanced」をクリックする。
 4. 「Cookies」セクションで、「Accept only cookies that get sent back to the originating server」を選択する。
 - Netscape Navigator 6.2 の場合:
 1. Netscape Navigator ブラウザーを開く。
 2. 「Edit」→「Preferences」と選択する。「Preferences」ウィンドウが開きます。
 3. 「Category」リストで、「Privacy & Security」→「Cookies」とクリックする。
 4. 「Cookies」セクションで、「Enable cookies for the originating web site only」または「Enable all cookies」のいずれかを選択する。

複数の PeopleSoft サーバーの使用

複数の PeopleSoft サーバーをインストールする場合、その全サーバーに最初のインストール時のデフォルトが設定されていると、メッセージ・ノード名はすべて同じになります。この状態は、フェイルオーバーの目的に利用できる 1 つの機能であると見なされます。ただし、その結果、複数の PeopleSoft サーバーに同じユーザー ID が定義されている場合、その中のどのサーバーでも eClient へのログオンに使用されたユーザー ID を認証できます。Content Manager システム管理者がこれをセキュリティ上のリスクであると判断した場合、次善策はデフォルト・メッセージ・ノード名があるすべてのテーブルで MSGNODENAME を変更することです。RDBMS 内の MSGNODENAME の全インスタンスを変更するために必要なデータベース・スクリプトについては、PeopleSoft Global Support Center に問い合わせてください。

PeopleSoft でのタブ名のスペースの使用

PeopleSoft で、ユーザーがポータルタブ付きページをクリックした場合、またはブラウザーで自動的にタブ付きのデフォルト・ホーム・ページが表示された場合、そのタブの PeopleSoft の内部名は URL に含まれます。タブの内部名にスペースが含まれていると、URL にもスペースが含まれます。Netscape Navigator の一部のバージョンではスペースを %20 としてエンコードしませんが、Microsoft Internet Explorer では %20 とエンコードします。このため、Netscape Navigator を使用して、PeopleSoft ポータルにタブ付きページを作成したいときは、タブ名にスペースを使用しないでください。

PeopleSoft の認証タイムアウト

PeopleSoft ユーザーが PeopleSoft にサインオンしても、PS_TOKEN cookie がタイムアウトになる前に eClient をクリックしなければ、そのユーザーは Content Manager にアクセスできません。PS_TOKEN cookie は PeopleSoft のユーザー認証に使用され、デフォルトのタイムアウト値は 720 分 (12 時間) です。PS_TOKEN cookie のタイムアウト値を変更すると、PeopleSoft システムのユーザー全員に影響を与えます。PeopleSoft Portal Enterprise のメニューからタイムアウト値を変更するには:

1. 「PeopleTools」 → 「セキュリティ (Security)」 → 「セキュリティ・オブジェクト (Security Objects)」 → 「シングル・サインオン (Single Signon)」と選択します。
2. 認証トークンの有効期限を変更します。
3. 「保管 (Save)」をクリックする。

トラブルシューティングのシナリオ

シナリオ 1: eClientToken メッセージ

問題:

PeopleSoft ユーザーが検索を実行すると、eClient のトレース・ログに次のエラー・メッセージが表示されます。「統合プロパティ・ファイルには eClientToken 値または authCookie 値のどちらかを指定しなければなりません。(Either an eClientToken value or an authCookie value must be provided in the Integration Properties File)」

解決策:

IP ファイルに authCookie 値を指定します。

シナリオ 2: eClient ブラウザー・ウィンドウに何も表示されない

問題:

PeopleSoft ユーザーのブラウザー・ウィンドウに何も表示されません。

解決策:

1. eClient トレース・ログを調べて詳細を確認する。
2. eClient の起動するときに指定した URL を確認する。必要なパラメーターと値をすべて指定したか確認します。
3. URL で指定した統合プロパティ・ファイルを確認します。必要なプロパティと値をすべて指定したか確認します。

シナリオ 3: エラー・レポート (シングル・サインオン pagelet)

問題:

PeopleSoft ユーザーが eClient にアクセスするために シングル・サインオン pagelet を使用しようとして、次のエラー・レポートが検出されました。「セッションが期限切れになっているか、まだログオンしていません。(Your session has expired or you have not logged on.)」 この問題は、サーバー「A」の eClient のブラウザー・ウィンドウが、サーバー「B」の eClient のブラウザー・ウィンドウによって誤

って置き換えられたときに発生します。この状態が発生した原因として、すでにアクティブな eClient 「A」セッションがあることをユーザーが忘れ、先に eClient 「A」をログオフせずに同じ Microsoft Internet Explorer セッションから新たに eClient 「B」のウィンドウを開始したことが考えられます。

解決策:

Netscape Communicator ブラウザーを使用するか、まずログオフしてから Microsoft Internet Explorer によって新規の eClient ブラウザー・ウィンドウを起動します。

シナリオ 4: 第 2 の eClient ユーザーの特権が多すぎるまたは少なすぎる

問題:

第 2 の eClient ユーザーに、指定されている数より多いまたは少ない特権が認められています。たとえば、ユーザー A はユーザー B の検索テンプレートを表示することを認められています。この問題は、特権「A」のユーザーの eClient ウィンドウが、新規の特権「B」のユーザーの eClient ウィンドウによって誤って置き換えられたときに発生します。この状態が発生した原因として、すでにアクティブな eClient セッションがある (特権セット「A」のユーザーでログオンした) ことをユーザーが忘れ、先にユーザー「A」をログオフせずに同じ Microsoft Internet Explorer セッションから新たに eClient ウィンドウを開始し、特権セット「B」のユーザーとして再びログオンしたことが考えられます。

解決策:

Netscape Communicator ブラウザーを使用するか、まずログオフしてから Microsoft Internet Explorer によって新規の eClient ブラウザー・ウィンドウを起動します。

シナリオ 5: エラー・レポート (文書ビューアー)

問題:

文書ビューアーを使用して eClient 上のコンテンツにアクセスしようとしたときに、ブラウザー・ウィンドウに次のエラー・レポートが表示されます。「エラーが発生しました。com.ibm.mm.beans.CMBNoConnectionException: サーバーとの接続は確立されていません。その接続は切断されています。(An Error Has Occurred! com.ibm.mm.beans.CMBNoConnectionException: There is no established connection to the server. The connection has been disconnected.)」この問題は、eClient ウィンドウが新規の eClient ウィンドウによって誤って置き換えられたときに発生します。この状態が発生した原因として、すでにアクティブな eClient セッションがあることをユーザーが忘れ、先にログオフせずに同じ Microsoft Internet Explorer セッションから新たに eClient ウィンドウを開始しようとしたことが考えられます。

解決策:

eClient アプレット・ビューアーを使用してコンテンツにアクセスするか、Netscape Communicator ブラウザーを使用するか、まずログオフしてから Microsoft Internet Explorer によって新規の eClient ブラウザー・ウィンドウを起動します。

IBM Content Manager、PeopleSoft および LDAP

現在、LDAP 認証と PeopleSoft シングル・サインオンを同じ Content Manager ライブラリー・サーバーで併用することはサポートされていません。Content Manager ライブラリー・サーバーを最適化アソシエーション用に構成している場合、ユーザーが PeopleSoft からサインオンしているかどうかに関係なく、LDAP による認証はできません。ライブラリー・サーバーを LDAP 認証を実行するように構成していれば、そのライブラリー・サーバーで引き続きルーズ・アソシエーションを使用できます。

Content Manager システム管理クライアントに、ユーザーを LDAP から Content Manager にインポートするツールがあります。このインポート機能では、LDAP 認証を使用する意図があって、ユーザーを LDAP から Content Manager にインポートすることが前提になっています。ただし、ユーザーを LDAP から Content Manager にインポートする場合、別の方法でこのユーザーを認証できます。

- 最適化アソシエーション用に構成することにより、PeopleSoft シングル・サインオン機能を使用可能にする。この構成を完了したら、PeopleSoft シングル・サインオン認証が使用できるようになります。
- Content Manager が常駐するマシンでユーザーを定義し、ユーザーがアクセスする pagelet をルーズ・アソシエーション用に構成する。また、独立型の eClient を使用するインポート・ユーザーも、Content Manager が常駐するマシンでローカルに定義する必要があります。

Siebel Integration for IBM Content Manager のトラブルシューティング

トラブルシューティングのシナリオ

問題が発生した場合には、以下の事例を参考にしてください。

シナリオ 1: ブランク・ページが表示される:

問題:ブランク・ページが表示される。

解決策:

1. 使用しているブラウザが IFRAMES をサポートしているか確認してください。
2. IP ファイルで、eClientToken、server、userid、password、type、cssPrefix、iconPrefix および printEnabled のプロパティ値が正しく指定されているか確認してください。
3. 検索基準の名前のつづりに間違いがないか、大文字小文字は合っているか確認してください。検索基準の名前は、Siebel Tools を使って構成した計算フィールドに含まれています。
4. 検索基準の値が適当であるか確認してください。検索基準の値は、Siebel Tools を使って構成した計算フィールドまたはシンボリック URL に含まれています。

シナリオ 2: 不統一な色とフォント:

問題:統合 JavaServer Pages が表示に使用する色またはフォントのサイズが、標準的な Siebel アプリケーションの色およびフォントと統一されていないように見える。

解決策:

IP ファイルで type が 1 に、cssPrefix が alt1 に設定されているか確認してください。

シナリオ 3: グラフィックのボタンの問題:

問題:ドキュメント・ビューアーのツールバーにグラフィックのボタンがまったく表示されないか、または標準的な Siebel アプリケーションのグラフィックのボタンと統一されていないように見える。

解決策:

IP ファイルで iconPrefix が alt1 に設定されているか確認してください。

シナリオ 4: 予期しないセッション有効期限エラー:

問題:予期しない次のエラー・メッセージが表示される。セッションの有効期限が切れたか、ログオンしていません。

解決策:

このメッセージは、Siebel Web クライアントで Microsoft Internet Explorer バージョン 6 を使用している場合、またはセッションがタイムアウトになった場合に表示されます。Microsoft Internet Explorer バージョン 6 を使用している場合は、ブラウザのプライバシー設定を「低」または「すべての Cookie を受け入れる」に変更してください。

別の方法としては、eClient Web サイト用に特別なプライバシー設定を構成する方法があります。この方法をとらない場合は、Web テンプレート・タブをクリックして新たなログオン・セッションを開始してください。

シナリオ 5: SQL0954C エラー:

問題: 検索またはその他の処置を実行中に、次のエラーが表示される。

SQL0954C アプリケーション・ヒープにストレージが不足しているためステートメントを処理できません。SQLSTATE=57011。

解決策:

DB2 アプリケーション・ヒープのサイズを大きくします。applheapsz データベース構成変数を使用できます。この手順について詳しくは、DB2 Universal Database の資料を参照してください。

シナリオ 6: 新規レコードを Siebel エンティティに追加するときの検索エラー:

このシナリオは、計算フィールドの計算値が URL を含む IFRAME である場合にのみ適用されます。

問題:

Siebel のエンド・ユーザーが Siebel エンティティのインスタンス (サービス要求など) を作成するときに、次のメッセージが表示される。

エラーが発生しました。

検索ストリングが指定されていません。

通常、このエラー・メッセージは、Siebel エンティティの計算フィールドが、まだ値のないエンティティ内のフィールドを参照していることが原因で表示されます。たとえば、これらのエラー・メッセージは、サービス要求が作成されるときに以下の計算フィールド値に対して表示されます。

```
<IFRAME height=300 width=960 frameborder=0
src='http://ec82fvt:80/eClient82/IDMIntegrator?eClientToken=token
&IPFile=Siebel&Entity=SRST&L='+[Contact Last Name]+'&ReleaseLevel=SiebelV704'>
Sorry your browser does not support IFRAMES.</IFRAME>
```

解決策:

既存の計算フィールド値を以下の値に置き換えます。

```
IIF ([Contact Last Name] is not null,[AC1],[AC2])
```

AC1 は、既存の計算フィールドの計算値プロパティに等しい計算値プロパティを持つ計算フィールドです。 AC2 は、`<IFRAME height=300 width=960 frameborder=0 src=''>Sorry your browser does not support IFRAMES</IFRAME>` という計算値プロパティを持つもう 1 つの計算フィールドです。

注: このコード例の中の IIF は誤植ではありません。この問題を修正するには、計算フィールドにこのとおり正確に入力する必要があります。

シナリオ 7: *authCookie* メッセージ:

問題: Siebel ユーザーが検索を実行すると、eClient のトレース・ログに次のエラー・メッセージが表示される。

統合プロパティ・ファイルには eClientToken 値または authCookie 値のどちらかを指定しなければなりません。(Either an eClientToken value or an authCookie value must be provided in the Integration Properties File.)

解決策:

IP ファイルに eClientToken 値を指定します。

シナリオ 8: シンボリック URL を使用すると検索が実行されない:

問題: Siebel ユーザーが検索を実行しようとしたが、検索要求が eClient 送信されない。

解決策:

各シンボリック URL 引き数に引き数値があることを確認します。必須の引き数に値がないと、URL に付加する値がないため、要求は送信されません。

シナリオ 9: 無関係な「*WL_undefinedSymbolicURL:=*」というエラー・メッセージが表示される:

問題: Siebel システム管理者が Siebel 7.5.2 アプリケーションを再構成して、シンボリック URL ではなく組み込み URL を含む IFRAME を使用している。この状態

で、ユーザーが検索結果を実行すると、表示された検索結果リストは正しくても、無関係な `WI_UndefinedSymbolicURL:=` というエラー・メッセージも一緒に画面に表示される。

解決策:

シンボリック URL を使用するための初期構成時に、計算フィールドの制御内にある Field Retrieval Type フィールドが Symbolic URL に設定されました。この値は組み込み URL を含む IFRAME を使用する場合には無効になります。Field Retrieval Type フィールドの値をブランクに変更します。

シナリオ 10: HTTPS でセキュリティー・アラートのポップアップが表示される:

問題: ブラウザーで、計算値フィールド内の URL またはシンボリック URL のプロトコルとして HTTPS を使用したときに、1 つ以上のセキュリティー・アラートのポップアップが表示される。

解決策:

トラステッド認証局 (CA) から発行された有効な証明書を使用するか、証明書ストアに自己署名証明書をインストールします。証明書は、「**証明書の表示 (view certificate)**」、「**証明書のインストール (install certificate)**」の順に選択して、セキュリティー・アラート・のポップアップ・ダイアログから直接インストールできます。この処置によって、証明書のインポートするウィザードが起動されます。

その他のヒント

ヒント 1: 同じクライアント・システムのブラウザー・ウィンドウを使って eClient や Siebel にアクセスしようとする、問題が起こる場合があります。

ヒント 2: Siebel Web クライアントのユーザーに対して表示されるビジネス・オブジェクトやユーザー・インターフェース層に変更を加えた場合は、以下を行う必要があります。

1. Siebel Tools からコンパイルする。
2. Siebel サーバー・サービスを停止する。
3. Siebel リポジトリ (.srf) ファイルを `SIEBELROOT%siebsrvr%object%` ディレクトリにコピーする。ここで、`SIEBELROOT` は、Siebel アプリケーション・サーバーのインストール先ルート・ディレクトリです。
4. コピー操作が完了した後、Siebel サーバー・サービスを再始動する。

ヒント 3: eClient がビューアー・アプレットを使用するように構成されており、Siebel Integration の構成に複数の IP ファイルが含まれている場合、アプレット・ビューアーによって使用される `printEnabled` プロパティーは、アプレット・ビューアー・ウィンドウで最初に開かれた文書が戻された検索に対応します。ビューアー・アプレット・ウィンドウが開くたびに、このことが該当します。

ヒント 4: Siebel アプリケーション要求に関連したユーザー ID には、Siebel Integration 検索テンプレートを含む統合サーバー・データベース、および要求のアクセス先のすべてのコンテンツ・サーバー・データベースにアクセスするための許可が必要です。

トレース情報

すべてのエラーおよびトレース情報は eClient トレース・ファイルに記録されます。IDM.properties ファイルにパラメーターを設定することによって、これらのファイルの場所、情報レベル、およびサイズを設定できます。詳細は、「*eClient* のインストール、構成と管理」の『トレース情報』を参照してください。

エラー・メッセージおよび情報メッセージには、英語でしか表示されないものもあります。

第 9 章 除去

この節では、eClient およびサード・パーティー・アプリケーション統合の除去方法について説明します。

『eClient の除去』

146 ページの『サード・パーティー・アプリケーション統合の除去』

eClient の除去

eClient の除去は Enterprise Information Portal を除去する前に行います。eClient アンインストール・プログラムは Java 仮想マシン (JVM) を使用し、この JVM が CMBROOT 内にある可能性があるためです。Windows から eClient を除去するには、以下のステップを実行してください。

1. 「コントロール・パネル」から「プログラムの追加と削除」を開きます。
2. リストから「**IBM Content Manager eClient**」を選択する。
3. 「追加 / 削除 (Add/Remove)」をクリックする。

インストールされた eClient ファイルとディレクトリーがすべてマシンから除去されます。変更したファイルやディレクトリー、または自分で作成したファイルやディレクトリーは除去されずに残ります。プロパティ・ファイルは削除されます。これらのファイルを削除するには、eClient がインストールされているルート・ディレクトリーを削除します。

AIX から eClient を除去するには、以下のステップを実行してください。

1. /opt/CMeClient/_uninst ディレクトリーに移動します。ここで、/opt/CMeClient は eClient のインストール先のルート・ディレクトリーです。
2. 以下を入力して、
`./aixuninstall`
3. 表示される指示に従います。

インストールされた eClient ファイルとディレクトリーがすべてマシンから除去されます。変更したファイルやディレクトリー、または自分で作成したファイルやディレクトリーは除去されずに残ります。プロパティ・ファイルは削除されます。これらのファイルを削除するには、eClient がインストールされているルート・ディレクトリーを削除します。

Solaris から eClient を除去するには、以下のステップを実行してください。

1. /opt/CMeClient/_uninst ディレクトリーに移動します。ここで、/opt/CMeClient は eClient がインストールされているルート・ディレクトリーです。
2. 以下を入力して、
`./uninstall.bin`
3. 表示される指示に従います。

インストールされた eClient ファイルとディレクトリーがすべてマシンから除去されます。変更したファイルやディレクトリー、または自分で作成したファイルやディレクトリーは除去されずに残ります。プロパティー・ファイルは削除されます。これらのファイルを削除するには、eClient がインストールされているルート・ディレクトリーを削除します。

サード・パーティー・アプリケーション統合の除去

この節では、サード・パーティー・アプリケーション統合を除去するプロセスについて説明します。

『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の除去』

『Siebel Integration for IBM Content Manager の除去』

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の除去

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager は、eClient を除去すると自動的に除去されます。

Content Manager のアンインストール・プログラムは、ICMXLSLG.DLL ファイルを除くすべての PeopleSoft Integration for IBM Content Manager ファイルを自動的に除去します。ICMXLSLG.DLL ファイルは、通常の Content Manager アンインストール・プログラムの一部ではありません。これは、この DLL ファイルが、PeopleSoft のシングル・サインオンを活動化させるために、デフォルトのインストール場所から移動されているためです。

ICMXLSLG.DLL の除去には、2 とおりの方法があります。

- Content Manager アンインストール・プログラムからのプロンプトで、ICMXLSLG.DLL ファイルへのパスを入力する。このファイルは、*ICMROOT¥database name¥DLL* に配置されています。ここで、*ICMROOT* は、Content Manager のインストール先、および *database name* は、ライブラリー・サーバー・データベース名です。
- Content Manager のアンインストール・プログラム終了後に手動でこのファイルを除去する。

Siebel Integration for IBM Content Manager の除去

Siebel Integration for IBM Content Manager は、eClient を除去するときに自動的に除去されます。

Siebel 環境を復元するには、62 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の構成』のすべてのステップを元に戻すか、または Siebel Integration for IBM Content Manager の構成前に保存した SRF ファイルをインポートします。

2 つの Web テンプレート (EIP81Applet.swt および EIP81Body.swt) を以下のそれぞれのディレクトリーから削除します。ここで、*SIEBELROOT* は、Siebel アプリケーション・サーバーがインストールされているルート・ディレクトリーです。

SIEBELROOT¥siebsrvr¥WEBTEMPL

SIEBELROOT¥client¥WEBTEMPL

SIEBELROOT¥tools¥WEBTEMPL

第 10 章 追加情報の入手

eClient とサード・パーティー・アプリケーション統合に関する追加情報は、資料やオンライン・サポートなどさまざまなリソースから入手できます。

関連リファレンス

『eClient』

『サード・パーティー・ビジネス・アプリケーションおよび統合』

eClient

IBM Content Manager eClient および Enterprise Information Portal に関する最新情報には、www.ibm.com/software/data/eip/support.html からアクセスできます。

WebSphere Application Server に関する最新情報は、
www.ibm.com/software/webservers/appserv/support.html で入手できます。

サード・パーティー・ビジネス・アプリケーションおよび統合

サード・パーティー・ビジネス・アプリケーションと IBM 製品との統合に関する追加情報は、IBM 資料ライブラリーと、ビジネス・アプリケーションの Web サイトから入手できます。

関連した作業:

『PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』

149 ページの『Siebel Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手』

PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手

この節では、Content Manager、Enterprise Information Portal、WebSphere、および PeopleSoft に関する追加情報を入手するために使用できるリソースのリストを示します。

IBM Content Manager for Multiplatforms バージョン 8 リリース 2

表 6 は、Content Manager のマイグレーション、インストール、構成、管理、および除去を行うために役立つ Content Manager 情報を示しています。この情報は、Information Center (インストールしている場合) から、または Content Manager に付属の CD からアクセスできます。

表 6. Content Manager ライブラリーで提供されている情報

タイトル	ドキュメンテーション CD のファイル名
「Content Manager の計画とインストール」	install.pdf
「システム管理ガイド」	sysadmin.pdf

表6. Content Manager ライブラリーで提供されている情報 (続き)

タイトル	ドキュメンテーション CD のファイル名
「Modeling Your Data in Content Manager Version 8」	dtmodmst.pdf

また、製品サポート情報は、www.ibm.com/software/data/cm/ で入手できます。

IBM Enterprise Information Portal for Multiplatforms バージョン 8 リリース 2

表7. Enterprise Information Portal ライブラリーで提供されている情報

タイトル	ドキュメンテーション CD のファイル名
「Information Integrator for Content の計画とインストール」	eipinst.pdf
「Information Integrator for Content の管理」	eipmanag.pdf
「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」	apgwork.pdf
「メッセージとコード」	messcode.pdf
「Online Application Programming Reference」	onlineapr.zip
「eClient のインストール、構成と管理」	ecliinst.pdf

また、製品サポート情報は、www.ibm.com/software/data/eip で入手できます。

WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する最新情報は、www.ibm.com/software/webservers/appserv/support.html で入手できます。

PeopleSoft PeopleBooks

以下の PeopleSoft PeopleBooks は、PeopleSoft 製品 Web サイト www.peoplesoft.com で入手できます。

- 「PeopleSoft アプリケーションの使用」
- 「データ管理」
- 「PeopleCode 開発者ガイド」
- 「PeopleCode リファレンス」
- 「PeopleSoft Application Designer」
- 「PeopleSoft コンポーネント・インターフェース」
- 「PeopleSoft Enterprise Integration」
- 「PeopleSoft Internet Architecture 管理」
- 「PeopleSoft Portal テクノロジー」
- 「セキュリティ」

Siebel Integration for IBM Content Manager の追加情報の入手

この節では、Content Manager、Enterprise Information Portal、WebSphere、および Siebel eBusiness アプリケーションに関する追加情報を入手するために使用できるリソースのリストを示します。

IBM Content Manager for Multiplatforms

147 ページの表 6 は、Content Manager を移行、インストール、構成、管理、および除去するときに役立つ、Content Manager の情報を示しています。この情報は、Information Center (インストールしている場合) から、または Content Manager に付属の CD からアクセスできます。

表 8. Content Manager ライブラリーで提供されている情報

タイトル	ドキュメンテーション CD のファイル名
「Content Manager の計画とインストール」	install.pdf
「システム管理ガイド」	sysadmin.pdf
「Modeling Your Data in Content Manager Version 8」	dtmodmst.pdf

IBM Content Manager に関する最新情報は、www.ibm.com/software/data/cm/ で入手できます。

IBM Enterprise Information Portal for Multiplatforms バージョン 8.1

表 9. Enterprise Information Portal ライブラリーで提供されている情報

タイトル	ドキュメンテーション CD のファイル名
「Information Integrator for Content の計画とインストール」	eipinst.pdf
「Information Integrator for Content の管理」	eipmanag.pdf
「Workstation Application Programming Guide」	apgwork.pdf
「メッセージとコード」	messcode.pdf
「Online Application Programming Reference」	onlineapr.zip
「eClient のインストール、構成と管理」	ecliinst.pdf

IBM Enterprise Information Portal バージョン 8.1 および eClient バージョン 8.1 に関する最新情報は、www.ibm.com/software/data/eip/ でも入手できます。

WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する最新情報は、www.ibm.com/software/webservers/appserv/support.html から入手できます。

Siebel eBusiness Application のブックシェルフ

Siebel eBusiness アプリケーションに関する最新情報は、「Bookshelf for Siebel eBusiness Applications Version 7.0.4」または「Bookshelf for Siebel eBusiness Applications Version 7.5.2」から入手できます。

第 11 章 プロパティー・ファイルの例

この節では、eClient で使用する IDMdefault.properties ファイルの例と、Siebel Integration for IBM Content Manager で使用する統合プロパティー・ファイル (IP ファイル) の例を紹介します。

IDMdefault.properties ファイルの例

```
#-----
# Licensed Materials - Property of IBM
# IBM CM eClient
#
# (C) Copyright IBM Corporation 2002,2003. All rights reserved.
#
#
# US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or
# disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM
# Corporation.
#
# DISCLAIMER OF WARRANTIES:
#-----
#
# The version number of this install.
# It is used during installation of this product.
#
# You should NOT edit this property.
#
# Format: ver=XX [where XX = version number, numerals only, no decimals
# -- v 7.12 = 712, -- v 8.1 = 81]
#
# Example:
# ver=82
#
ver=82
#-----
#
# Property Daemon is a daemon thread that monitors application property changes and
# reloads all properties if a change was detected. PropertyDaemonInterval is the
# time interval between checks of changed properties. Values are in minutes.
#
# Valid values are integrals greater than or equal to zero. Any integral value
# less than zero will default to 1. Also, non-integral or a missing value will
# default to 1. A value of 0 disables the daemon.
#
# Note: PropertyDaemonInterval does have an impact on application performance
#
PropertyDaemonInterval=10
#-----
#
# Application level tracing. Trace valid values are (0|1|2|3|4|5).
# 0 = tracing off
# 1 = exceptions, and errors
# 2 = level 1 with the addition of general information, method entry, and
# method exit points
# 3 = level 2 with the addition of API calls
# 4 = level 3 with the addition of EIP non-visual bean Tracing
# 5 = performance tracing
#
```

```

#
# You must stop and restart the eClient App Server for changes to Trace
# to take effect.
#
TraceLevel = 1
#-----
#-----
# Working Directory.
# WorkingDir = logging, tracing, and temp data conversion directory
#
# Example: Windows "C:¥¥CMeClient¥¥logs"
#   AIX      "/opt/CMeClient/logs"
#   Sun      "/opt/CMeClient/logs"
#
WorkingDir=
#-----
#-----
# Cache Directory.
# CacheDir = storage area for document caching
#
# Example: Windows "c:¥¥CMeClient¥¥cache"
#   AIX      "/opt/CMeClient/Cache"
#   Sun      "/opt/CMeClient/Cache"
#
CacheDir=
#-----
#-----
# Image URL
# ImageURL = The path to jsp images
#
ImageURL=/eClient82/icons
#-----
#-----
# Error Page. This page is called in an event of an application error.
# ErrorPage = the name of error reporting jsp.
# ErrorPage=/ErrorPage.jsp
#-----
#-----
# Servlet JSPs
# The JSP to be used to display data from servlets.
# Output.IDMLogon=/IDMLogon.jsp
Output.IDMSearch=/IDMSearchFrame.jsp
Output.IDMConnection_in=/IDMActionPage.jsp
Output.IDMConnection_out=/IDMLogon.jsp
Output.IDMConnection_disc=/IDMLogon2.jsp
Output.IDMSortSearchResults=/IDMSearchResults.jsp
Output.IDMDocViewer=/IDMViewFrames.jsp
Output.IDMOpenFolder=/IDMFoldercontents.jsp
Output.IDMOpenFolderContents=/IDMFoldercontents.jsp
Output.IDMChangePassword_in=/IDMChangePassword.jsp
Output.IDMChangePassword_out=/IDMLogon2.jsp
Output.IDMEmail=/IDMEmail.jsp
Output.IDMDeleteItem_in=/IDMDeleteItem.jsp
Output.IDMDeleteItem_out=/IDMDeletedItem.jsp
Output.IDMAddItem_in=/IDMAddItem.jsp
Output.IDMAddItem_out=/IDMAddedItem.jsp
Output.IDMCreateFolder_in=/IDMAddItem.jsp
Output.IDMCreateFolder_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMAddItemToFolder_in=/IDMAddItemToFolder.jsp
Output.IDMAddItemToFolder_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMRemoveItemFromFolder_in=/IDMFolderDeleteItem.jsp
Output.IDMRemoveItemFromFolder_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMClipboard_in=/IDMClipboard.jsp
Output.IDMClipboard_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMItemVersioning_in=/IDMItemVersions.jsp
Output.IDMItemVersioning_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMEditAttributes_in=/IDMEditAttributes.jsp

```

```

Output.IDMEditAttributes_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMODUpdateAnnotations=/IDMODAnnotationsFrame.jsp
Output.IDMODAnnotationsList_in=/IDMODAnnotationsList.jsp
Output.IDMODAnnotationsList_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMODAnnotationsView_in=/IDMODAnnotationsView.jsp
Output.IDMODAnnotationsView_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMNoteLog_in=/IDMNoteLog.jsp
Output.IDMNoteLog_out=/IDMCloseWindow.jsp
Output.IDMUserMapping_in=/IDMUserIDMapping.jsp
Output.IDMUserMapping_out=/IDMLogon2.jsp
#-----
#
# Web Application Name.
# WebAppName = Web Application Name, default value is /eClient82
#
WebAppName=/eClient82
#-----
#
# Maximum Search Results displayed per screen.
#
#-----
MaxResults=10
#-----
# Maximum Search Results retrieved from the server per search criterion.
#
# Values: -1 returns all hits
#
# NOTE: Note this value should be set to value other than -1 if searches begin
# to timeout. Users search criteria should also be refined if the search
# results are larger than the value of TotalMaxResults.
#
#
#
#-----
TotalMaxResults=-1
#-----
# URL for cmbcc2mime.ini file
# The cmbcc2mime.ini file consists of the Content classes associated
# with a MIME type. The different Content Classes defined in this file can
# be associated with a MIME type that the Server will send to the client.
# The client will use that MIME type to launch the application associated
# to that MIME type.
#
# Example: Windows cmbCC2MimeURL=file:///C:
# %%Program Files%%IBM%%CMgmt%%cmbcc2mime.ini
#   AIX      cmbCC2MimeURL=file:///usr/lpp/cmb/cgmt/cmbcc2mime.ini
#   Sun      cmbCC2MimeURL=file:///IBMcmb/cgmt/cmbcc2mime.ini
#
# NOTE: This URL should not be a file or localhost URL when remote connectors
# are used via RMI (when connectiontype or serviceconnectiontype is 1 or 2).
# This file is shared by the connectors and should be at a URL that is
# accessible to all the RMI servers that are in use. For
# instance, http://cm.ibm.com/eClient82/cmbcc2mime.ini would point
# to a cmbcc2mime.ini file that the administrator has stored with the
# eClient web application for use by all the RMI servers.
#
cmbCC2MimeURL=

#-----
#-----
# URL for cmbcs.ini file
# The cmbcs.ini file is installed with each client and system administration
# program. In cmbcs.ini, there are variables you must set to remote or local
# to find the content server runtimes
#

```

```

# Example: Windows CsIniURL=file:///C:¥¥Program Files¥¥IBM¥¥CMgmt¥¥cmbcs.ini
# AIX CsIniURL=file:///usr/lpp/cmb/cmgmt/cmbcs.ini
# Sun CsIniURL=file:///IBMcmb/cmgmt/cmbcs.ini
#
CsIniURL=
#-----
#
# The URL of the cmbclient.ini file that defines the RMI server.
#
# Example: Windows ClientIniURL=file:///C:¥¥ProgramFiles¥¥IBM
# ¥¥CMgmt¥¥cmbclient.ini
# AIX ClientIniURL=file:///usr/lpp/cmb/cmgmt/cmbclient.ini
# Sun ClientIniURL=file:///IBMcmb/cmgmt/cmbclient.ini
#
ClientIniURL=
#-----
#
# URL of the cmbsvcs.ini file that defines how to access workflow. This value is
# used only when the serviceconnectiontype is set to 2 (dynamic).
#
# Default: not specified (null)
#
# Example: Windows cmbsvcs=file:///C:¥¥Program Files¥¥IBM¥¥CMgmt¥¥cmbsvcs.ini
# AIX cmbsvcs=file:///usr/lpp/cmb/cmgmt/cmbsvcs.ini
# Sun cmbsvcs=file:///IBMcmb/cmgmt/cmbsvcs.ini
#
# NOTE: This property is ignored when serviceconnectiontype is set to 0
# (local) or 1 (remote).
# This property is required when serviceconnectiontype is set to 2 (dynamic).
#
cmbsvcs=
#-----
#
# The URL of the cmbsvclient.ini file that defines the workflow RMI server.
# Default: not specified (null)
#
# Example: Windows cmbsvclient=file:///C:¥¥ProgramFiles¥¥
# IBM¥¥CMgmt¥¥cmbsvclient.ini
# AIX cmbsvclient=file:///usr/lpp/cmb/cmgmt/cmbsvclient.ini
# Sun cmbsvclient=file:///IBMcmb/cmgmt/cmbsvclient.ini
#
# NOTE: This property is ignored when serviceconnectiontype is set to 0 (local).
# This property is required when
# serviceconnectiontype is set to 1 (remote) or 2 (dynamic).
#
cmbsvclient=
#-----
#
# Location of the server initialization file for CMv8 servers.
# (note: has same purpose as the v7 file frnolint.tbl)
# Value should be the fully qualified URL giving the location of the file
# cmbicmsrvs.ini.
# (note: If your CMv8 server ini file has a different name, you should use
# it's URL.)
#
# Format: ICMServersURL=[fully qualified URL] (forward slashes escaped)
#
# Example: Windows ICMServersURL=file:C:¥¥ProgramFiles
# ¥¥IBM¥¥CMgmt¥¥cmbicmsrvs.ini
# AIX ICMServersURL=file:///usr/lpp/cmb/cmgmt/cmbicmsrvs.ini
# Sun ICMServersURL=file:///IBMcmb/cmgmt/cmbicmsrvs.ini
#
ICMServersURL=
#-----
#

```

```

# Specifies the location of EIP database and content server runtimes.
# (default type is local)
#
# 0 = local
# 1 = remote
# 2 = dynamic
#
# If connectionType = local, the ClientIniURL is ignored. All content server
# runtimes will be treated as local, ignoring the values in cmbcs.ini
# If connectionType = remote, ClientIniURL will be used
# to tell the system where to locate the cmbclient.ini
# and CsIniURL will be ignored. All content server runtimes will be
# treated as remote, ignoring the values in cmbcs.ini
# If connectionType = dynamic, ClientIniURL will also be used
# to tell the system where to locate the cmbclient.ini,
# and CsIniURL will be used to tell the system where to
# locate the cmbcs.ini. Content server runtime local or remote will
# be determined from cmbcs.ini
# Note : As ICM servers do not need to use remote runtimes, specifying
# connectiontype = 1 (remote) , will remove ICM servers from the list.
#
ConnectionType=0
#-----
# Specifies the location of the workflow service. Default: 0 (zero)
#
# Valid input: An integer : 0, 1, 2
#
# Set to 0 if you are using a local configuration. This means workflow
# is installed on your Web server.
#
# Set to 1 if you are using a remote configuration. This means workflow
# is installed on an RMI server as defined in the cmbsvclient attribute.
#
# Set to 2 if you are using a dynamic configuration. This means workflow
# is installed either on your Web server or RMI server, according to the
# cmbsvcs attribute.
#
serviceconnectiontype=0
#-----
# Specifies whether the cache is enabled for the workflow data.
#
# Default: false
#
# Valid input: Boolean : true, false
#
workflowcache=false
#-----
# OD Server connection properties [alias:(ip or hostname):port]
# Alias will be used to represent the name of the server to the user.
#
# Example: BigBlue:eserver.ibm.com:80
# BigBlue - will be presented to the user on the logon screen
# eserver.ibm.com - hostname or ip address of the OnDemand server
# 80 - connection port for the OnDemand server
#
# Additional servers can be added by specifying the name-value pair as follows:
#
# Datastore.OD.0 = alias:(ip or hostname):port
# Datastore.OD.1 = alias:(ip or hostname):port
# Datastore.OD.2 = alias:(ip or hostname):port
# . . . . . = alias:(ip or hostname):port
# Datastore.OD.7 = alias:(ip or hostname):port
#
#Datastore.OD.0=OD390:test.ibm.com:3219

```

```

#-----
#-----
# connect_string is a string which supplies all of the specific connection
# parameters to establish and maintain a connection to the IP390 backend
# server.
#
# Additional servers can be added by specifying the name-value pair as follows:
#
# Datastore.IP390.0 = connection string
# Datastore.IP390.1 = connection string
# Datastore.IP390.2 = connection string
# . . . . . = connection string
# Datastore.IP390.7 = connection string
#
# Example: Datastore.IP390.0=ALIAS=IP390;APPL=01;FAFIP=9.67.43.83;IODMIP=9.67.43.83;
# FAFPORT=3061;IODMPORT=3082;FAFPROT=4000;IODMPROT=4000;FAFSITE=CS61
#
# Valid parameters are:
#
# ALIAS =Alias name for the server. This name will be presented to the
#end user for this server.
#This parameter is required
#
# APPL =The Application Id of the FAF Host application to connect.
# This parameter is required.
#
# FAFIP = The TCPIP address of the FAF Host to connect. This
# parameter is required.
#
# IODMIP =The TCPIP address of the IODM Host to connect. This
# parameter is required.
#
# FAFPORT =The TCPIP port number of the FAF Host.This
# parameter is required.
#
# IODMPORT=The TCPIP port number of the IODM Host. This parameter
# is required.
#
# FAFPROT =The communication protocol of the FAF Host. Valid values
# are (4000 for TCPIP on CICS, and 4500 for TCPIP on IMS). This
# parameter is required.
#
# IODMPROT=The communication protocol of the IODM Host. Valid values
# are (4000 for TCPIP on CICS, and 4500 for TCPIP on IMS).This
# parameter is required.
#
# TERMID =This is the IODM Terminal Id for this workstation. If not
# specified, the UserId will be used as the Terminal Id.
#
# FAFSITE =The 4 character symbolic ID of the FAF that owns and catalogs
# the documents associated with this datastore. This parameter
# is required forlocking, adding, updating or deleting annotations,
# and for locking folders and documents.
#
# OVERLAYS=This is the IODM Collection Class where all form overlays are stored.
# If not specified, forms will be searched for from the collection
# class where the last document was retrieved.
#
# IODMCNTL=This is the IODM document storage location control.
# If the document is not located at the specified location, the document
# will not be retrieved. Valid choices for value are:
# DASD
# Retrieve documents from DASD only.
# OPTICAL
# Retrieve documents from DASD or Optical only.
# SHELF
# Retrieve documents from DASD, Optical or shelf.

```

```

#
# Datastore.IP390.0=ALIAS=IP390;APPL=01;FAFIP=9.67.43.83;IODMIP=9.67.43.83;
FAFPORT=3061;IODMPORT=3082;FAFPROT=4000;IODMPROT=4000;FAFSITE=CS61
#-----
#-----
# Thin to Thick Toggle Switch
# adminDefined property allows the admin to create a file containing
# the file types which should be launched or transformed
# adminDefaultsFile property defines the mime types file to use
# or the mode of presentation for the mime type
#
# The default is to transform the document, and allow launching
# if the browser supports the mime type
#
adminDefined=true
adminDefaultsFile=/IDMadminDefaults.properties
#-----
#-----
# Specifies the Button Width to be used by eClient JSPs
#
# Default: 7
#
# Valid input: non-negative number
# jspButtonWidth=7
#-----
#-----
# Specifies the Button Height to be used by eClient JSPs
#
# Default: 18
#
# Valid input: non-negative number
#
jspButtonHeight=18
#-----
#-----
# Specifies the default edit field size
#
# Default: 40
#
# Valid input: non-negative number
# defaultAttributeLength=40
#-----
#-----
# Specifies the maximum file size (in bytes) allowed during import.
# Valid range (0 - 2147483647). This allows the admin to limit the size of
# files that can be imported via the eClient.
#
# Default: 2147483647
#
# Valid input: non-negative number
#
max_import_file_size=2000000
#-----
#-----
# Location of java plugin installation exe for IE.
#
# allows admin to set location from where java plugin should be
# installed by IE.
# plugin_exe=http://java.sun.com/products/plugin/autodl/jinstall-1_4_0-win.cab
# Version=1,4,0,0
# plugin_exe=http://java.sun.com/products/plugin/autodl/jinstall-1_4_0-win.cab
# Version=1,4,0,0
#-----
#-----
# Location of java plugin installation page for NN.
#
# allows admin to set location from where java plugin should be
# installed by NN.

```



```

# plugin_page=http://java.sun.com/j2se/1.4/download.html
#-----

#-----
#version of java plugin.
#
#allows admin to set version of java plugin the browser
#should use when invoking applets.
plugin_version=1.4
#-----
#-----
# Mail Properties
# mailUser specifies a valid user on the mailHost SMTP server.
# All mail returned will be returned to the mailUser.
mailUser=user@mymailhost.com
mailHost=mail.net
#-----
#-----
# workflowEnabled allows the administrator to enable or disable the
# workflow functionality of the client
# Valid values: "true" or "false"
#
workflowEnabled=false
#-----
#-----
# Enable/Disable Features
#
# checkInOutEnabled property allows the admin to "turn off" the Check in/out
# capabilities of the IDM Browser Client
checkInOutEnabled=false
#-----
#-----
# Enable/Disable Features
#
# emailEnabled property allows the admin to "turn off" the email
# capabilities of the IDM Browser Client
# capabilities of the IDM Browser Client
emailEnabled=false
#-----
#-----
# Enable/Disable display of server group error messages
#
# Valid input: true or false
# errorDisplayEnabled=false
#-----
#-----
# Enable/Disable reindexing of documents
#
# reIndexEnabled property allows the admin to turn off or on reindexing
# capabilities of the IDM Browser Client
# reIndexEnabled=true
#-----
#-----
# Enable/Disable Viewer Applet
#
# The viewerAppletEnabled property allows an admin to enable a viewer applet
# that will do client-based rotation, zooming, and graphical annotations editing.
# If this property is set to "true" the applet is used. If this property is set
# to "false" the applet is not used and rotation, zooming, and other functions
# will be done via JSP/HTML. Graphical annotation editing is only possible using
# the applet.
# NOTE: In addition to setting this property to true, you must specify
# which mime types the applet is to be used for in
# IDMadminDefaults.properties.
# viewerAppletEnabled=false
#-----

```

```

#-----
# Specifies if import is enabled
# Default: false
#
# Valid input: true false
# importSupported=false
#-----
#
# Specifies if create folder is enabled
#
# Default: false
#
# Valid input: true or false
# CreateFolderEnabled=false
#-----
#
# Enable/Disable Direct retrieve from V8 Resource Manager
#
# The Viewer Applet can be set to retrieve document data directly from
# the CM V8 resource manager.
# This reduces processor, network, and disk space usage on the application
# server. However, if there are firewalls or other network security
# devices between the user's machine and the resource manager machine,
# this may fail. (The applet request uses HTTP, so normal proxies should
# not cause this this failure. The failure is likely to occur when
# the application server is in a DMZ between firewalls and the user's
# machine is outside the firewalls and the resource manager is inside
# the firewalls.) This parameter is set to true in this file by
# default and will default to true if the setting is not present in this file.
directRetrieveEnabled=true
#-----
#
# On the logon server list on the logon page, display the server type with the
# server name. ex. "ICMNLSDDB (CM8)"
displayServerType=true
#-----
#
# For displaying of stored text like notelog, etc., there needs to be a
# default codepage set for the text to display properly. This value not
# used for CM8 notelogs.

default_char_encoding=Cp858
#-----
#
# Set the display resolution for the document. This is the desired display
# device resolution that is appropriate for documents.
default_display_resolution=96
#-----
#
# Set the preferred scale for the document.
# Scale of 1.0 represents actual size of 100%;
# Scale of 0.5 represents normal size of 50%.
preferred_scale=0.5
#-----
#
# Disable/enable image enhanced mode for the document viewer.
# This value does not apply to the viewer applet.
#
# NOTE: Setting enhance mode to false will reduce memory usage dramatically on
Mid-tier server

enhance_mode=false
#-----
#
# Disable/enable image enhanced mode for the document viewer.
# This value does not apply to the viewer applet.
#

```

```

# NOTE: Setting enhance mode to false will reduce memory usage
# dramatically on Mid-tier server
enhance_mode=false
#-----
#
# Disable/enable access to backend datastore
#
# A value of false will remove all backend servers of corresponding datastore
# type from the logon screen
#
# CM7 = CM 7.x or lower
# ICM = CM 8.x or higher
# FED = Federated Connections
# VI400 = Visual Info
#
# Valid input: true or false
# Default value: true
#
# NOTE: Setting datastores that are not used to false will boost performance of the
# application.
#-----
CM7=true
ICM=true
FED=true
VI400=true
#-----
# by default search arguments are repopulated on the search jsps
enable_search_arguments=true
#-----
#
# Specifies if creation of federated folders is enabled
#
# Default: true
#
# Valid input: true or false
#
createFedFolderEnabled=false
#-----

```

Siebel Integration で使用される IP ファイルの例

この節では、IP ファイルの例を示します。Siebel.properties という名前の同様のファイルが、*ECLIENTROOT* ディレクトリーにインストールされます。ここで、*ECLIENTROOT* は eClient のインストール先ルート・ディレクトリーです。

```

#-----
# @copyright(disclaimer)
#   Licensed Materials - Property of IBM
#   IBM Content Manager for Multiplatforms V8.1 (Program Number 5724-B19)
#   (C) Copyright IBM Corp. 1994, 2002 All Rights Reserved.
#
#   US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or
#   disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM
#   Corp.
#
#   DISCLAIMER OF WARRANTIES:
#
#   Permission is granted to copy and modify this Sample code, and to
#   distribute modified versions provided that both the copyright notice
#   and this permission notice and warranty disclaimer appear in all
#   copies and modified versions.
#
#   THIS SAMPLE CODE IS LICENSED TO YOU AS-IS. IBM AND ITS SUPPLIERS AND
#   LICENSORS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, IN SUCH
#   SAMPLE CODE, INCLUDING THE WARRANTY OF NON-INFRINGEMENT AND THE

```

```

# IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.
# IN NO EVENT WILL IBM OR ITS LICENSORS OR SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY
# DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OF OR INABILITY TO USE THE SAMPLE
# CODE, DISTRIBUTION OF THE SAMPLE CODE, OR COMBINATION OF THE SAMPLE CODE
# WITH ANY OTHER CODE.
# IN NO EVENT SHALL IBM OR ITS LICENSORS AND SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY
# LOST REVENUE, LOST PROFITS OR DATA, OR FOR DIRECT, INDIRECT,
# SPECIAL, CONSEQUENTIAL, INCIDENTAL OR PUNITIVE DAMAGES, HOWEVER CAUSED
# AND REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY, EVEN IF IBM OR ITS LICENSORS
# OR SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.
#
# @endCopyright
#-----
#
# eClientToken is selected by a system administrator and must be provided in the
# URL by a business partner application that does not require the specification
# of authCookie. When the business partner application request is processed,
# the eClientToken value provided in the URL is compared with the token
# specified in this properties file. Valid characters for the eClientToken are
# any of the ISO 8859-1 Latin 1 characters with the exception of ";", "/", "?",
# ":", "@", "&", "=", "+", ",", and "$", which are reserved characters
# within the query string of a URL.
#
#-----
eClientToken=
#-----
# server specifies the name of the content server database that the
# IDMIIntegrator servlet will access.
#
#-----
server=
#-----
# userid specifies the userid that will be used to access the content
# server database.
#
#-----
userid=
#-----
# password specifies the password for the userid that will be used to access
# the content server database.
#
#-----
password=
#-----
# type controls the objects that appear and the capabilities that are
# supported within a web page that is generated by the JavaServer Pages.
#
#-----
type=1
#-----
# cssPrefix specifies a file name prefix for the Cascading Style Sheet file that
# will be used by the JavaServer Pages. The specification determines the text
# fonts, colors, etc. that are used. A value of alt1 specifies the use
# of alt1client81.css.
#
#-----
cssPrefix=alt1
#-----
#
# iconPrefix specifies a file name prefix for the icon files that will be used by
# the JavaServer Pages. A value of alt1 specifies the use of gif files with
# names prefixed by the character string alt1. These gif files contain
# graphical buttons for the document viewer toolbar.
#
#-----

```

```
| iconPrefix=alt1
| #-----
| #
| # printEnabled specifies whether a print capability will be included in the
| # toolbar of the Document Viewer. Valid printEnabled values are (true|false).
| # A value of true specifies the inclusion of the print button.
| # A value of false specifies the omission of the print button.
| #
| #-----
| printEnabled=false
```

第 12 章 アクセス支援情報

アクセス支援機能は、運動機能に障害がある方や目が不自由な方など、身体に障害がある方にソフトウェア製品を支障なく使っていただくことを目的としたものです。eClient は Web アプリケーションであるため、ブラウザ設定でアクセス支援機能を制御します。たとえば、ブラウザを通じて、フォント・サイズと色を調整したり、ブラウザのショートカット・キーを使用できます。eClient ビューアー・アプレットには特殊なキーボード・ショートカットが関連付けられています。この説明は、eClient オンライン・ヘルプに記載されています。詳しくは、オンライン・ヘルプのアクセス支援のページを参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

【ア行】

アイテム・タイプ 65
アクセシビリティ 163
アクセス, PeopleSoft ポータルの 135
アップグレード
 Siebel Integration for IBM Content Manager バージョン 7 からバージョン 8 19
アプリケーション ID
 ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
アプリケーション名
 設定
 eClient 内 119
アプリケーション・サーバーのプロパティ 62
アプレット
 作成
 Siebel 7.0.4 の 71
 Siebel 7.5.2 の 84
アプレット Web テンプレート
 作成
 Siebel 7.0.4 の 73
 Siebel 7.5.2 の 86
アプレット Web テンプレート・アイテム
 作成
 Siebel 7.0.4 の 73
 Siebel 7.5.2 の 86
アプレット・コントロール
 作成
 Siebel 7.0.4 の 72
 Siebel 7.5.2 の 85
アンインストール, PeopleSoft の 146
インストール
 eClient 15
インストール, Windows, AIX または Solaris への Siebel Integration for IBM Content Manager の 18
インストール, サード・パーティー・アプリケーション統合 17
インストール, AIX への eClient の
 前提条件 16
インストール, AIX または Solaris への eClient の 16
 手順 16

インストール, eClient の
 Windows への 15
 前提条件 15
 手順 15
インストール, PeopleSoft の 17
インストール, Siebel Integration for IBM Content Manager の 18
インストール, Solaris への eClient の
 前提条件 16
インストール, Windows への eClient の 15
 前提条件 15
 手順 15
エラー・ページ
 設定
 eClient 内 118
エンド・ユーザー・クライアントの要件
 Siebel Integration の 12
オペレーティング・システム 13

【カ行】

外部 Web アプリケーション
 指定
 Siebel V7.5.2 の 97
外部コンテンツ
 表示
 Siebel 7.5.2 の 82
外部データ
 Siebel 7.5.2 の 80
外部データ・ホスト
 定義
 Siebel 7.5.2 の 91
 Siebel 7.5.2 の 91
開始, eClient の
 WebSphere 4 上 101
開始, WebSphere での eClient の
 Windows への 16
概説 2
 サード・パーティー・アプリケーション統合 2
 eClient i
 PeopleSoft 2
 Siebel Integration for IBM Content Manager 3
カスケード・スタイル・シート・ファイル 111
カスタマイズ
 ビジネス・オブジェクト層
 Siebel 7.0.4 の 66

カスタマイズ (続き)
 ユーザー・インターフェース層
 Siebel 7.0.4 の 70
 eClient アプリケーション 105
 PeopleSoft ポータル 36
各国語サポート 32
画面オブジェクト
 更新
 Siebel 7.0.4 の 77
 Siebel 7.5.2 の 89
管理
 eClient アプリケーション 111
起動
 eClient アプリケーション・サーバー 101
起動, コンテンツ・ファイルの
 使用可能化
 eClient 内 115
キャッシュ・ディレクトリー
 設定
 eClient 内 113
許可リスト
 作成
 PeopleSoft の 42
 例
 PeopleSoft の 42
 PeopleSoft の 41
クリア, キャッシュの
 PeopleSoft の 61
権限
 作成
 Siebel 7.0.4 の 79
 Siebel 7.5.2 の 98
検索結果の最大数, コンテンツ・サーバーから戻される
 設定
 eClient 内 113
検索結果の最大数, ページに表示する
 設定
 eClient 内 113
検索テンプレート 65
検証
 構成した環境 99
 Siebel Integration の 99
検証, eClient インストールの 32
コード・ページ 32
更新, 画面オブジェクト
 Siebel 7.0.4 の 77
 Siebel 7.5.2 の 89
構成 21

構成 (続き)

概説

- PeopleSoft の 35
- ビジネス・コンポーネント
 - Siebel 7.5.2 の 81
- pagelet 指定 38
- PeopleSoft Internet Architecture 36, 37
- PeopleSoft の最適化アソシエーション 36
- PeopleSoft のシングル・サインオン 36
- PeopleSoft のルーズ・アソシエーション 36
- Siebel 7.5.2 79, 91
- Siebel アプリケーション
 - 7.0.4 78
 - Siebel 7.5.2 の 80

構成、カスタマイズしたクライアントの 118

構成、サード・パーティー・アプリケーション統合の 34

構成、eClient の 21

- Siebel Integration の 63
- WebSphere 4.0.5 AE による手順 21
- WebSphere 4.0.5 AES による手順 21
- WebSphere 5 による手順 25
- WebSphere Application Server による 21

構成、Siebel 7.0.4 の 65

構成、Siebel Integration for IBM Content Manager 62

構成、WebSphere Application Server の

Siebel Integration の 62

構成した環境

検証

- Siebel Integration の 99

構成の問題

eClient 130

構成パラメーター

指定

- PeopleSoft の 47

設定

- eClient の 113

変更

- eClient の 113

- PeopleSoft の 47

コピー 18

コンテンツ・サーバー i

コンパイル

- Siebel 7.0.4 77

- Siebel 7.5.2 90

コンポーネント・インターフェース

定義 41

[サ行]

サード・パーティー・アプリケーション統合

- インストール 17
- 構成 34
- 除去 146
- トラブルシューティング 133

サード・パーティー・ビジネス・アプリケーションおよび統合

- 入手、追加情報
- 入手、追加情報 147

サーバー接続

定義

- eClient 内 119

サーバー定義 119

サーバーの IP アドレス 32

サービス接続タイプ

設定

- eClient 内 115

再インストール

eClient 15

最大ファイル・サイズ、インポート可能な設定

- eClient 内 114

最適化アソシエーション

セキュリティ

- PeopleSoft の 56

フィールド定義

- PeopleSoft の 53

レコード

- PeopleSoft の 56

レコード定義

- PeopleSoft の 53

HTML 定義

- PeopleSoft の 52

iScript 定義

- PeopleSoft の 53

pagelet セキュリティ

- PeopleSoft の 60

pagelet の定義

- PeopleSoft の 59

サインオフ

- PeopleSoft の 41

サインオン

- PeopleSoft の 41

削除、キャッシュの

- PeopleSoft の 48

作成

アプレット

- Siebel 7.0.4 の 71

- Siebel 7.5.2 の 84

アプレット Web テンプレート

- Siebel 7.0.4 の 73

- Siebel 7.5.2 の 86

作成 (続き)

アプレット Web テンプレート・アイテム

- Siebel 7.0.4 の 73

- Siebel 7.5.2 の 86

アプレット・コントロール

- Siebel 7.0.4 の 72

- Siebel 7.5.2 の 85

権限

- Siebel 7.0.4 の 79

- Siebel 7.5.2 の 98

ビュー

- Siebel 7.0.4 の 74

- Siebel 7.5.2 の 87

ビュー Web テンプレート

- Siebel 7.0.4 の 75

- Siebel 7.5.2 の 88

ビュー Web テンプレート・アイテム

- Siebel 7.0.4 の 76

Web テンプレート・オブジェクト

- Siebel 7.0.4 の 70

- Siebel 7.5.2 の 83

Web テンプレート・ファイル・オブジェクト

- Siebel 7.5.2 の 83

- Siebel パージョン 7.0.4 用 70

さまざまなサブレット

設定

- eClient 内 118

実行、eClient ランチパッドの

- AIX への 17

- Solaris への 17

指定

- 外部 Web アプリケーション

- Siebel V7.5.2 の 97

cmbcc2mime.ini ファイルの場所

- eClient 内 114

cmbclient.ini ファイルの場所

- eClient 内 114

cmbcs.ini ファイルの場所

- eClient 内 114

自動構成、eClient の

- AIX への 17

- Solaris への 17

- Windows への 16

収集する情報

- Content Manager OnDemand 8, 9

- Content Manager パージョン 8 8, 9

- eClient の 8

- ImagePlus for OS/390 8, 9

手動構成、WebSphere Application Server

- による eClient の 22

使用可能化

- コンテンツ・ファイルの起動

- eClient 内 115

使用可能化 (続き)
統合フォルダー
 eClient 内 116
ビューアー・アプレット
 eClient 内 116
ワークフロー 115
使用可能化、ルーズ・アソシエーションの
 55
使用可能化、レコードのセキュリティの
 PeopleSoft の 55, 56
使用可能化、cookie を受け入れるための
 ブラウザの
 PeopleSoft の 135
使用可能化、Microsoft Internet Explorer
 での cookie の
 PeopleSoft の 135
使用可能化、Netscape Navigator 4.7 での
 cookie の
 PeopleSoft の 136
使用可能化、Netscape Navigator 6.3 での
 cookie の
 PeopleSoft の 136
情報
 Bookshelf for Siebel Business
 Application に関する 149
 Content Manager
 PeopleSoft の 147
 Content Manager に関する 149
 Enterprise Information Portal
 PeopleSoft の 148
 Enterprise Information Portal に関する
 149
 PeopleBooks 148
 PeopleSoft 148
 WebSphere Application Server に関する
 149
情報、Content Manager に関する Web 上
 の
 PeopleSoft の 148
情報、Enterprise Information Portal に関す
 る Web 上の 148, 149
情報、PeopleSoft に関する Web 上の
 148
情報収集、eClient に関する 8
除去 143
 サード・パーティー・アプリケーション統合 146
 eClient ファイルおよびディレクトリー
 eClient ファイルおよびディレクト
 リー 145
 Siebel Integration 146
除去、PeopleSoft の 146
新規ビュー
 Siebel Call Center でのセットアップ
 Siebel 7.5.2 の 98

シングル・サインオン
インプリメント
 PeopleSoft の 41
 PeopleSoft の 41, 43, 44, 45, 48
シングル・サインオン認証 cookie
 PeopleSoft の 40
シングル・サインオン・ユーザー出口ルー
 チン
 PeopleSoft の 43
シンボリック URL
 定義
 Siebel 7.5.2 の 92
 Siebel 7.5.2 での 81
シンボリック URL 引き数 (オプション)
 Siebel 7.5.2 の 95
スキル要件 11
 eClient の 7
 Siebel Integration の 14
スタイル・シート 111
セキュリティ
 最適化アソシエーション 56
 使用可能化 55, 56
 ルーズ・アソシエーション 55
 レコード
 PeopleSoft の 55, 56
セキュリティの使用可能化、最適化アソ
 シエーションの 56
接続タイプ
 設定
 eClient 内 114
設定
 アプリケーション名
 eClient 内 119
 インポート可能な最大ファイル・サイ
 ズ
 eClient 内 114
 エラー・ページ
 eClient 内 118
 キャッシュ・ディレクトリー
 eClient 内 113
 グラフィック・ファイルの場所
 eClient 内 118
 構成パラメーター
 eClient の 113
 コンテンツ・サーバーから戻される検
 索結果の最大数
 eClient 内 113
 サービス接続タイプ
 eClient 内 115
 さまざまなサブレット
 eClient 内 118
 接続タイプ
 eClient 内 114
 トレース・ファイル・サイズ
 eClient の 132

設定 (続き)
 トレース・レベル
 eClient の 132
 場所、トレース・ファイルの
 eClient の 132
 プロパティ・デーモン
 eClient 内 114
 1 ページに表示する検索結果の最大数
 eClient 内 113
 Content Manager バージョン 8 コネク
 ター
 eClient 内 115
 E メールのプロパティ
 eClient 内 115
 EIP INI ファイル
 eClient の 114
 設定、PATH トークン値の 22
 セットアップ
 Siebel Call Center での新規ビュー
 Siebel 7.5.2 の 98
 選択、eClient 言語の 31
 前提条件
 Siebel 7.5.2 80
 その他のヒント
 eClient の 133
 Siebel Integration の 142
 ソフトウェア要件
 PeopleSoft の 10
 ソフトウェア要件、eClient の 6

[タ行]

端末 62
データ・サーバー・リスト・ファイル
 デフォルトのローカル・ファイル場所
 16
データ・サーバー・リスト・ファイルのデ
 フォルトのローカル・ファイル場所
 AIX への 17
 Solaris への 17
「データ・ソース (Data Sources)」フォル
 ダー 27
定義
 外部データ・ホスト
 Siebel 7.5.2 の 91
 サーバー接続
 eClient 内 119
 シンボリック URL
 Siebel 7.5.2 の 92
 シンボリック URL 引き数 (オプショ
 ン)
 Siebel 7.5.2 の 95
 必須のシンボリック URL 引き数
 Siebel 7.5.2 の 93
 ログイン・クリデンシャル
 Siebel V7.5.2 の 97

定義 (続き)

- ImagePlus for OS/390 サーバー接続
 - eClient 内 120
- OnDemand サーバー接続
 - eClient 内 120
- テクニカル・サポートの Web サイト
 - Content Manager 12
 - Siebel 12
- デフォルト・ディレクトリー
 - eClient の 16
- トークン値の設定、CLASSPATH の 22
- 同期化、ユーザー ID の 41
 - PeopleSoft の 41
- 同期化、PeopleSoft のユーザー ID 37
- 統合
 - 最適化
 - PeopleSoft の 35
 - ルーズ
 - PeopleSoft の 35
- 統合エンティティー 65
- 統合フォルダー 116
 - 使用可能化
 - eClient 内 116
- 統合プロパティー・ファイル
 - PeopleSoft の 39, 40
- ドメイン・ネーム
 - PeopleSoft の 135
- トラブルシューティング
 - サード・パーティー・アプリケーション統合 133
 - ドメイン・ネームの訂正
 - PeopleSoft の 135
- ホスト名
 - PeopleSoft の 134
- eClient 123
- PeopleSoft の 134
- WebSphere 構成ファイル
 - PeopleSoft の 134
- トラブルシューティング・シナリオ
 - eClient 123
 - Siebel Integration の 139
- トレース情報
 - eClient 132
 - Siebel Integration の 143
- トレース・ファイル・サイズ
 - 設定
 - eClient の 132
- トレース・レベル
 - 設定
 - eClient の 132

[ナ行]

- 入手、追加情報 147
 - eClient に関する 147

入手、追加情報 (続き)

- Siebel Integration for IBM Content Manager に関する 149
- 認証
 - ドメイン
 - PeopleSoft の 37
 - ユーザー
 - PeopleSoft の 37
 - ユーザー ID
 - PeopleSoft の 41
 - PeopleSoft の使用 41
 - PeopleSoft のドメイン・ネーム要件 37
- 認証、ユーザーの
 - PeopleSoft の 41
- ネットワーク要件 11
 - eClient の 7
 - Siebel Integration の 13

[ハ行]

- ハードウェア要件
 - eClient の 5
 - PeopleSoft の 10
 - Siebel Integration の 12
- 場所、グラフィック・ファイルの設定
 - eClient 内 118
- 場所、トレース・ファイルの設定
 - eClient の 132
- ビジネス・オブジェクト層カスタマイズ
 - Siebel 7.0.4 の 66
- ビジネス・コンポーネント
 - 構成
 - Siebel 7.5.2 の 81
- 必須のシンボリック URL 引き数
 - 定義
 - Siebel 7.5.2 の 93
- ビュー
 - 作成
 - Siebel 7.0.4 の 74
 - Siebel 7.5.2 の 87
 - セットアップ
 - Siebel 7.0.4 の 78
 - ビュー Web テンプレート
 - 作成
 - Siebel 7.0.4 の 75
 - Siebel 7.5.2 の 88
 - ビュー Web テンプレート・アイテム
 - 作成
 - Siebel 7.5.2 の 88
 - Siebel 7.0.4 の 76
 - ビューアー・アプレット i

ビューアー・アプレット (続き)

- 使用可能化
 - eClient 内 116
- 表示、外部コンテンツの
 - Siebel 7.5.2 の 82
- フィールド定義
 - 作成
 - PeopleSoft の 53
 - ルーズ・アソシエーション
 - PeopleSoft の 50
- 複数の PeopleSoft サーバー 136
- ブラウザー 13
 - サポートされる
 - PeopleSoft の 10
- ブラウザー設定
 - リセット
 - PeopleSoft の 48
- ブラウザーの制限
 - eClient の 6
- プラットフォーム
 - サポートされる
 - PeopleSoft の 10
 - Siebel バージョン 7.0.4 用 13
 - Siebel バージョン 7.5 用 13
- プロパティー、IDM.properties 内
 - 変更
 - eClient の 113
- プロパティー・デーモン
 - 設定
 - eClient 内 114
- プロパティー・ファイルの例 149
 - IDMdefault.properties 151
- 文書ルーティング i
- 別名
 - ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
- 変更
 - 構成パラメーター
 - eClient の 113
- ポータル・エージェント
 - Siebel 7.5.2 での 80
- ホスト名
 - PeopleSoft の 37, 134

[マ行]

- 無効化タイムアウト 62
- 文字エンコード 32
- 戻りコード
 - PeopleSoft の 48

[ヤ行]

- 役割
 - 作成 42
 - 例 42

- ユーザー
 - 作成 42
 - 例 42
- ユーザー出口
 - PeopleSoft の 43
- ユーザー認証
 - PeopleSoft の 43, 44
- ユーザー・インターフェース層
 - カスタマイズ
 - Siebel 7.0.4 の 70
- 要件 4
 - サード・パーティー・アプリケーション統合の 10
 - スキル
 - PeopleSoft の 11
 - ソフトウェア
 - eClient の 6
 - PeopleSoft の 10
 - Siebel Integration の 12
 - ネットワーク
 - PeopleSoft の 11
 - ハードウェア
 - PeopleSoft の 10
 - Siebel Integration の 12
 - eClient の 5
 - PeopleSoft Integration for IBM Content Manager の 10
 - Siebel Integration for IBM Content Manager の 12

[ラ行]

- ライブラリー・サーバー 32
- ランチパッド
 - eClient の
 - AIX 17
- リンク
 - PeopleSoft のルーズ・アソシエーション 35
- ルーズ・アソシエーション
 - セキュリティ
 - PeopleSoft の 55
 - レコード
 - PeopleSoft の 55
 - レコード定義
 - PeopleSoft の 50
 - HTML 定義
 - PeopleSoft の 50
 - iScript 定義
 - PeopleSoft の 51
 - pagelet セキュリティ
 - PeopleSoft の 58
 - pagelet の定義
 - PeopleSoft の 57
- ルーズ・アソシエーション URL
 - PeopleSoft の 38

- 例、IP ファイル 160
- レコード
 - 作成
 - PeopleSoft の 50
 - PeopleSoft の 55, 56
- レコード定義
 - 作成
 - PeopleSoft の 53
- ログインおよびトレース、Content Manager の
 - PeopleSoft の 48
- ログイン pagelet、最適化アソシエーションの
 - 作成
 - PeopleSoft の 59
- ログイン pagelet、ルーズ・アソシエーションの
 - 作成
 - PeopleSoft の 57
- ログイン名
 - Siebel 7.5.2 の 97
- ログイン・クリデンシャル定義
 - Siebel V7.5.2 の 97
- ログオン
 - Siebel Call Center 7.0.4 への 78
- ログオン、Siebel Call Center への管理者としての 91
- ログオン・ユーザー出口ルーチンコピー
 - PeopleSoft の 43
- PeopleSoft の 43

[ワ行]

- ワークフロー i
- 使用可能化 115

[数字]

- 7006
 - PeopleSoft の 48
- 7011
 - PeopleSoft の 48
- 7123
 - PeopleSoft の 48

A

- AIX 18
- appserverproperties ファイル 32
- authCookie
 - PeopleSoft の 40
- PS_TOKEN 40

C

- CLASSPATH トークン値
 - 設定 22
 - 説明 22
- cmbcc2mime.ini ファイルの場所指定
 - eClient 内 114
- cmbclient.ini ファイルの場所指定
 - eClient 内 114
- cmbcs.ini ファイルの場所指定
 - eClient 内 114
- cmbpool.ini 26
- Content Manager の要件
 - Siebel Integration の 12
- Content Manager バージョン 7 3
- Content Manager バージョン 8 3
- Content Manager バージョン 8 コネクタ
 - 設定
 - eClient 内 115
- 「Content Ref Administration」フォーム
 - PeopleSoft の 57, 59
- cookie
 - ブラウザー設定
 - PeopleSoft の 135

E

- E メールのプロパティー
 - 設定
 - eClient 内 115
 - emailenabled 115
 - mailHost 115
 - mailUser 115
- eClient
 - インストール 15
 - インストールの検証 32
 - 起動
 - WebSphere 4 上 101
 - 構成
 - Siebel Integration の 63
 - 再インストール 15
 - 入手、追加情報 147
 - AIX へのインストール
 - 前提条件 16
 - AIX または Solaris へのインストール
 - 16
 - 手順 16
- IBM WebSphere 5 接続プールを使用するための構成 26
 - 推奨事項 26
 - 制限 26
 - 前提条件 26

eClient (続き)
 IBM WebSphere 5 接続プールを使用
 するための構成 (続き)
 手順 26
 Solaris へのインストール
 前提条件 16
 WebSphere 4.0.5 AE による構成
 手順 21
 WebSphere 4.0.5 AES による構成
 手順 21
 WebSphere 5 による構成
 手順 25
 WebSphere Application Server による構
 成 21
 WebSphere Application Server による手
 動構成 22
 WebSphere での開始
 Windows への 16
eClient CD 15, 16
eClient JavaServer ページ 105
eClient JRE に関するヒント 6
eClient JSP
 検索 106
 個々の項目 105
 注釈 107
 フォルダー 107
 文書ルーティング 108
 ワークフロー 108
eClient Web アプリケーション i
eClient Web アプリケーション名 32
eClient WebSphere に関するヒント 7
eClient アドレス 32
eClient アプリケーション
 カスタマイズ 105
 管理 111
eClient アプリケーション・サーバー
 起動 101
eClient クライアントの要件 5
eClient 言語
 選択 31
eClient サーバーの要件 5
eClient スキル要件 7
eClient デフォルト・ディレクトリー 16
 AIX への 17
 Solaris への 17
eClient ネットワーク要件 7
eClient のグラフィックス
 カスタマイズ 109
eClient の構成、Web アプリケーションと
 しての 16
eClient ビューアー 3
eClient ブラウザーの制限 6
eClient ヘルプ
 カスタマイズ 111
eClient ランチパッド 15

EIP INI ファイル
 設定
 eClient の 114
EIP システム管理クライアント 65
encoding.properties 32
Enterprise Information Portal i, 3
Enterprise Information Portal 統合サーバー
 65
Enterprise Information Portal の要件
 Siebel Integration の 12
Enterprise Information Portal バージョン 8
 統合コネクタ
 PeopleSoft の 44
Exceed 16

F

FAF ID アドレス
 ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
FAF シンボリック ID
 ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
FAF プロトコル
 ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
FAF ポート
 ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
FieldFormula 規則
 PeopleSoft の 49, 52
frnolint.tbl
 Content Manager バージョン 7 サーバ
 ー以前 8, 9

H

HTML 111
HTML 定義
 作成
 PeopleSoft の 50, 52

I

IBM Content Manager (ICM) バージョン
 8 コネクタ
 PeopleSoft の 44
IBM Content Manager 中間層製品 3
ICMPSSSO.java
 インストール 44
 コンパイル 44, 46
 パッケージの作成 44
ICMPSSSO.properties 48
ICMPSSSO.properties ファイル 47
ICMSERVER.LOG
 ロギングおよびトレース
 PeopleSoft の 48
ICMXLSLG.DLL 17, 146
 PeopleSoft の 44

IDMAdminDefaults.properties 117
IDMdefault.properties 113
idmwas.bat
 eClient 22
idmwas.sh 22
IDM.properties ファイル
 eClient の 113
ImagePlus for OS/390 サーバー接続
 定義
 eClient 内 120
Integration Properties ファイル
 Siebel Integration の 18
IP ファイルのプロパティ
 userid 64
IPFile
 PeopleSoft の 36
iScript
 最適化アソシエーション 51
 最適化アソシエーションのサンプル
 54
 作成 51
 PeopleSoft の 38, 49
 編集
 PeopleSoft の 51, 53
 ルーズ・アソシエーション
 PeopleSoft の 49
 ルーズ・アソシエーションのサンプル
 PeopleSoft の 51
 PeopleSoft の 49, 51, 55, 56
iScript 規則
 PeopleSoft の 49, 51

J

JavaServer Pages i
 独自のものと置換 109
「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」
 フォルダー 26
「JDBC プロバイダーのプロパティ
 (JDBC Providers Properties)」ウィンドウ
 26
JRE に関するヒント
 eClient の 6

M

MIME タイプ 117
MIME タイプのファイル、変換 117

O

ODM IP アドレス
 ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
ODM コレクション・クラス
 ImagePlus for OS/390 サーバーの 9

ODM 端末 ID
ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
ODM プロトコル
ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
ODM ポート
ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
ODM 保管場所コントロール
ImagePlus for OS/390 サーバーの 9
OnDemand サーバー接続
定義
eClient 内 120

P

pagelet
クリーンアップ
PeopleSoft の 61
構成 38
作成
PeopleSoft の 38, 57, 59
使用
PeopleSoft の 61
新規タブへの追加
PeopleSoft の 58, 60
セキュリティ
PeopleSoft の 35, 58, 60
変更
PeopleSoft の 48
iScript
PeopleSoft の 36
PeopleSoft の 36
PeopleSoft の最適化アソシエーション
35
PeopleSoft のルーズ・アソシエーション 35
pagelet の構成
PeopleSoft の 48
Password 47
PATH トークン値
設定
Web サーバー JVM での 22
PeopleCode 51, 53
PeopleSoft Application Designer 37, 44, 45, 49, 51
場所 49, 52
PeopleSoft cookie 36, 37
PeopleSoft Internet Architecture
ドメイン・ネーム 135
PeopleSoft Java コード
コンパイル 45
PeopleSoft シングル・サインオン・インターフェース 44
PeopleSoft の authTokenDomain 37
PeopleSoft の IDMIIntegrator 38
PeopleSoft の IPFile 39, 40
PeopleSoft の iScript 36
PeopleSoft の iType 38
接続 39
統合タイプ 39
ログオン 39
PeopleSoft の PRTL_SS_CI 37, 44
PeopleSoft の server プロパティ 39
PeopleSoft の serverType
Fed 39, 40
ICM 39, 40
PeopleSoft の serverType プロパティ 39, 40
PeopleSoft の URL 引き数 39
PeopleSoft の userid 引き数 40
PeopleSoft のアプリケーション・サーバー 37
PeopleSoft の構成パラメーター 37
PeopleSoft の最適化アソシエーション 35, 36, 38
PeopleSoft のシングル・サインオン 35
PeopleSoft のシングル・サインオン URL 38
PeopleSoft の統合プロパティ・ファイル 36
PeopleSoft のブラウザーの Cookies 37
PeopleSoft のブラウザーのセキュリティ 37
PeopleSoft のライセンス・コード 134
トラブルシューティング 134
PeopleSoft のランタイム環境 37
PeopleSoft のルーズ・アソシエーション 35
PeopleSoft のログオン・ユーザー出口ルーチン 37
PeopleSoft ポータルのシングル・サインオン・コンポーネント・インターフェース 37, 41, 44, 45
PeopleSoft ポート
アクセス 37
PeopleSoft ランタイム 47
PeopleSoft の URL パラメーター 38
presentation type 40
PRTL_SS_CI
使用可能化
PeopleSoft の 45
PeopleSoft の 41, 44
psjoa.jar
PeopleSoft の 45
PS_TOKEN
PeopleSoft の 40

R

RC_DLL_LOAD_ERROR
PeopleSoft の 48
RC_GET_PROC_ADDRESS_ERROR
PeopleSoft の 48

RC_INVALID_PARAMETER
PeopleSoft の 48
Record の規則
PeopleSoft の 49, 52
ReleaseLevel
PeopleSoftTools 39

S

server プロパティ
PeopleSoft の 40
ServerName 47
ServerPort 47
Siebel 7.0.4
計算フィールド 66
計算プロパティ値 67
構成 65
前提条件 65
Siebel 7.5.2
構成 79, 91
Siebel Call Center 78
Siebel Client 78
Siebel eBusiness アプリケーション 3
Siebel Integration
除去 146
Siebel Integration for IBM Content Manager
インストール 18
構成 62
入手、追加情報 149
バージョン 7 からバージョン 8 へのアップグレード 19
Windows、AIX または Solaris へのインストール 18
Siebel Integration の IP ファイルのプロパティ
cssPrefix 63
eClientToken 63
iconPrefix 64
password 64
printEnabled 64
server 64
type 63
Siebel Integration のソフトウェア要件 12
Siebel アプリケーション
構成
Siebel 7.5.2 の 80
Siebel ユーザー 65
Solaris 18
SRF ファイル
Siebel 7.5.2 での 80
startIDMAES.bat 101
startIDMAE.bat 101
stopIDMAES.bat 102
stopIDMAE.bat 102
sudo 特権 17

T

TCP/IP 7, 11, 13
type プロパティー
振る舞い
PeopleSoft の 40
PeopleSoft の 40

U

Unicode 32
UserID 47
UTF-8 32

W

Web テンプレート
Siebel Integration for IBM Content
Manager の 18
Siebel Integration の 18
Web テンプレート・オブジェクト
作成
Siebel 7.0.4 の 70
Siebel 7.5.2 の 83
Web テンプレート・ファイル・オブジェ
クト
作成
Siebel 7.5.2 の 83
Siebel バージョン 7.0.4 用 70
Web ライブラリー
最適化アソシエーション
PeopleSoft の 56
PeopleSoft の 55
WebSphere 5 Java 2 Security
eClient
WebSphere 5 Java 2 Security を使
用するための構成 21
WebSphere 5 接続プール 26
推奨事項 26
制限 26
前提条件 26
手順 26
WebSphere Application Server 62
WebSphere 管理コンソール 62
起動
AIX での 62
Sun Solaris での 62
Windows での 62
WebSphere サーバー
破壊された構成ファイルのトラブルシ
ューティング
PeopleSoft の 134
WebSphere サーバー構成ファイル
XML ステートメントの訂正 135
WebSphere セッション・タイムアウト値
設定 62

WebSphere に関するヒント
eClient の 7
WebSphere リソース・アナライザー 29

X

X Window セッション 16

[特殊文字]

\$cmcommon\$
CLASSPATH の
AIX 23
Solaris 24
Windows 22
\$dsep\$
CLASSPATH の
AIX 23
Solaris 24
Windows 22
\$eipppath\$
CLASSPATH の
AIX 23
Solaris 24
Windows 22
\$frnppath\$
CLASSPATH の 22
AIX 23
Solaris 24
\$proddest\$
CLASSPATH の
AIX 23
Solaris 24
Windows 22
\$sqlpath\$
CLASSPATH の
AIX 23
Solaris 24
Windows 22
\$wasroot\$
CLASSPATH の 22
AIX 23
Solaris 24

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラム・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM	DisplayWrite	PowerPC
400	e-business	PTX
Advanced Peer-to-Peer Networking	HotMedia	QBIC
AIX	Hummingbird	RS/6000
AIXwindows	ImagePlus	SecureWay
APPN	IMS	SP
AS/400	Micro Channel	VideoCharger
C Set ++	MQSeries	Visual Warehouse
CICS	MVS/ESA	VisualAge
DATABASE 2	NetView	VisualInfo
DataJoiner	OS/2	WebSphere
DB2	OS/390	
DB2 Universal Database	PAL	

Approach、Domino、Lotus、Lotus 1-2-3、Lotus Notes および SmartSuite は、Lotus Development Corporation の商標です。

Intel および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。



プログラム番号: 5724-B19
5724-B43

Printed in Japan

SC88-9207-02



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12